

2018(平成30)年度 東洋大学 ボランティア支援室年報

TOYO University Center for Social Contribution Volunteer Support Office 2018 Annual Report



東洋大学ボランティア支援室開設2年の活動について

ボランティア支援室長 森田 明美

東洋大学は、教育理念の中で「主体的に社会の課題に取り組む」人間の育成を大きな柱としてきました。また、前身である哲学館の創立直後より「余資なく、優暇なき者」のために『哲学館講義録』を刊行し、館外員制度を設けて「社会教育」を行い、現在の通信教育へと継承してきました。このように東洋大学は、建学の精神を具現するための柱の一つとして「社会貢献」に重点を置き、人材育成をしてきた大学です。

そして、21世紀の大学にとっては、地域社会から厚い信頼を受け支援されることが必要条件であり、そのためにも積極的な社会貢献を進めることが期待されています。それは地域社会のためであると同時に、大学自身のためでもあると言えます。本学は、3万人超の学生を擁する総合大学です。大学に蓄積された人的・知的資源を供出し、これらを必要としている地域の方々へ支援を届ける1つの方法が、学生によるボランティア活動であると思われます。

東洋大学では、既に様々なボランティア活動が展開されています。複数の学生団体、教員・学生によるゼミ、その他の活動など多岐に亘っていますが、対外的に見ればこれら全てが東洋大学のボランティア活動となります。しかし、以前はこれらの活動を一元的に把握する部署がなかったため、今、どこでどのような団体が、どういった活動をしているのか、大学全体としては、把握できていない状況でした。

そこで、ボランティア支援室では、これらの活動をはじめの前に、ボランティア活動をお知らせいただくことで、それらの情報が閲覧できる環境を整えるとともに、活動全体を把握し、積極的に外部に発信していくことにしました。このような仕組みを作ることは、本学の社会貢献活動の一層の充実を図ることに繋がるのではないかと考えています。

2017年度ボランティア支援室開設初年度の学生支援は、手探りでしたが、白山キャンパス2万人の学生に対し、ボランティア活動を希望する学生への相談対応を中心に行いました。また、本学の学生にボランティアとして来てもらいたい団体の申し込み受付および相談窓口となり、適切な場所に学生を送り出していきました。実際、ボランティア活動に出て行く学生の安全確保のためには、大学としても受け入れから、準備、実施中の相談、とりわけ危機管理体制の構築を含む多様なバックアップ体制の整備が不可欠です。

大学が支援しなければ、学生がボランティア活動を続け、発展させることは困難になり、大学生の協力を必要としているの方々へ活動を届け続けることも難しくなると考えます。そこで、ボランティア支援室では、これらの活動を実施するために専門のスタッフを配置し、ボランティア先の開拓、学生とのマッチングに加え、実施後の検証、まとめ、実施報告などを連続的に実施してきました。また、大学のボランティア活動の中期・長期的な方向性を策定し、さらに学生や卒業生、地域に向けた様々な企画を検討することで、大学が設置するボランティア支援室の機能を果たしてきました。前述の活動は、ボランティア支援室に設置した専門部会や運営委員会の先生方が中心となって検討を重ね、学生に対するボランティア活動の支援策を策定してくださいました。

このように、ボランティア支援室の開設は、多くの教職員の方々に支えられながら、学内にボランティア活動の拠点を組織化するための挑戦でした。

開設2年目となる2018年度の挑戦は、ボランティア活動の定着と、学生が主体的に活動を全5キャンパスに展開していく仕組みの構築でした。学生企画に対する助成金制度の開設や育成会費による活動など、学生たちが自ら考え、活動を発展していけるような様々な支援策を増やしてきました。どうぞご一読いただき、ご意見を頂戴できれば幸いです。

目次

contents

東洋大学ボランティア支援室開設2年の活動について.....	1
目次.....	2

活動内容

2018（平成30）年度 ボランティア支援室活動内容・利用状況	4
---------------------------------------	---

各企画概要

① ボランティア支援室ガイダンス	12
② ボランティア合同説明会 in 朝霞	14
③ ボランティア入門講座	16
④ デイキャンプで遊ぼう～里親子を地域とつなぐ学生の会	18
⑤ 初歩から学ぶ障がい者スポーツ	20
⑥ スポーツボランティア研修会	22
⑦ 外国人おもてなし語学ボランティア育成講座	25
⑧ ボランティアサークル合同説明会	27
⑨ 東洋大学ボランティアカフェ（ボラカフェ）	29
⑩ 「平成30年7月豪雨」募金活動	36
⑪ 平成30年7月豪雨被災者への学生応援メッセージ活動	37
⑫ 夏のボランティア相談会	40
⑬ 社会貢献スタディツアー	42
⑭ 平成30年7月豪雨災害ボランティア活動事前研修	46
⑮ 夏休みの小学生のための「乳幼児との触れ合い体験」「宿題サポート」「一緒に遊ぼう！話そう！」	48
⑯ 東洋大学の卒業生が現役生に伝える、被災地の現状とこれから	50
⑰ 東洋大学×公益財団法人スペシャルオリンピックス日本(SO日本)×認定NPO法人スペシャル オリンピックス日本・東京(SON・東京) ユニファイドスクールパートナーシップ協定に伴う各種活動	52
⑱ もし、大学にいて大地震が発生したら？ ～首都直下型地震に備える！東洋大学宿泊サバイバル体験～	55
⑲ 2018年 東洋大学・ボランティアWEEK～人権とボランティアについて考えよう～	60
⑳ 中野区 少年少女野球教室	76
㉑ バリアフリー地図アプリ「Bmaps」を活用したバリアフリーまちあるき	78

②② Be a Good Universal Volunteer ! ～ユニバーサルマナー講演会～	80
②③ 被災地の大学生と東洋大生が取り組む被災地支援のあり方in南三陸	84
②④ 福島県いわき市の漁業の現状を発信する	87
ボランティア支援室 各企画資料	90

【資料・記録】 ボランティア支援室について

ボランティア支援室ガイダンスの実施	103
東洋大学ボランティア支援室要項	104
ボランティア支援室運営委員会委員名簿・専門部会委員名簿・外部評価委員	107
ボランティア支援室運営委員会活動記録	109
ボランティア支援室専門部会活動記録	110
ボランティア支援室 外部評価	112



2018(平成30)年度

ボランティア支援室活動内容・利用状況

ボランティア支援室における活動を振り返って

東洋大学ボランティア支援室は2017年4月1日に開室し、当該年度は2年目の活動となりました。2年目となった2018年度は、ボランティア・コーディネーターを2名配置し、初年度の活動を踏まえて、以下の活動を行いました。

【主な取り組み】

1：ボランティア情報の全学生への発信

ボランティアを求めているNPO／NGO、民間団体、各自治体などから届いたボランティア情報を、ボランティア支援室内に掲出するほか、全学生がアクセスできる学内向け情報システムToyoNet-ACEで適宜紹介しました。

学内向け情報システムToyoNet-ACEを活用することで、ボランティア支援室が設置されている白山キャンパス以外の他キャンパスの学生にも情報を届けることができました。

また、東京オリンピック・パラリンピック2020大会における公式ボランティア募集^{*1}が行われたこともあり、スポーツボランティアに関する情報や、多くの学生の参加が求められるボランティア情報などにおいては、個別に全学生宛にメール配信を行い、ボランティア活動への参加喚起に取り組みました。

2：ボランティア・コーディネーターによる相談活動

「どんな活動をしたらいいのかわからない」「ボランティア活動をする上での疑問点」「そもそもボランティアって何をするの？」など、不安や疑問に感じていることなどを気軽に相談できるようにするために、ボランティアやNPO活動が豊富なボランティア・コーディネーターを配置しました。

オリンピック・パラリンピックにおける公式ボランティア応募への相談、夏休み・冬休みなど長期休暇中の活動について、身近にできるボランティア活動など、多様な相談が寄せられました。

また、すでにボランティア活動に取り組んでいるサークルへのアドバイスなども必要に応じて行いました。

3：ボランティア活動促進のための講座、イベントの実施

さまざまなボランティア活動に参加するために必要となる知識や技能を学ぶとともに、実際に体験できるイベントなどを、年間を通じて実施しました。

東京オリンピック・パラリンピック2020大会におけるボランティア促進のために、スポーツボランティア研修会の実施(3回/約272人参加)、初歩から学ぶ障がい者スポーツ研修の実施(12名参加)、学生部と協働したオリパラボランティア説明会、「TOYO 2020 PROJECT 英国・ボーンマス大学との連携講座」への協力などに取り組みました。

12月には、人権週間に合わせた「ボランティアWEEK」(後援：法務省、東京法務局)として、人権週間を含む15日間の間に、人権尊重やボランティアに関する「講義・シンポジウム」「映画会」「学生企画」「展示」などを企画しました。

4：授業等におけるボランティアガイダンス・支援室見学ツアーの実施(コーディネーターの派遣)

今年度は教員に呼びかけ、ボランティア活動の意義についての講義・ワークショップ(ガイダンス)とボランティア支援室見学を合わせたツアーを10回(約760人参加)実施しました。授業と連携・協働することで、ボランティア活動促進につなげました。

5：交流会の実施

昼食を持ち寄って気軽に情報交流を行う<ボラカフェ(ボランティアカフェ)>を白山キャンパスにおい

て8回実施しました。当該年度は、東洋大生が取り組んでいるボランティア活動のほか、学生を受け入れているNPOの方にもゲストとしてお越しいただく機会を設けました。

「活気があって素晴らしい」「幅広いボランティアの種類を知ることができた」「自分たちが取り組んでいる活動を知ってもらおう機会になった」など、学びにつながる場となりました。

また、白山キャンパス・朝霞キャンパスにおいては、学生ボランティア団体が中心となって運営する形でサークル合同説明会を実施。前述の「ボラカフェ」のうち2回を、合同説明会の企画の一環として実施する試みも行いました。

6：活動支援

ボランティア情報を閲覧できるオープンスペースは、開室時間内であればいつでも利用が出来るため、学生ボランティア団体等の簡単な打ち合わせ場所となりました。またミーティングスペースも、使用していない時は、事前登録した学生ボランティア団体に貸し出し、会議や練習などに利用されました。

ほか、ビブスや軍手をはじめ、ボランティア活動に必要となる備品等を準備し、活動支援に取り組みました。

7：災害対応

当該年度は大規模災害が多発しました。とりわけ、7月5日から断続的に発生した「平成30年7月豪雨」について、募金活動の学生ボランティアコーディネーションを行いました。

また、災害ボランティア活動に参加を希望する学生に対し、事前研修を実施。講師に防災教育コンサルタントの方をお招きする形で行いました。

8：他機関・地域・他大学等との連携

公益財団法人スペシャルオリンピックス日本(SON)、認定NPO法人スペシャルオリンピックス日本・東京(SON・東京)と協定を結び、学生へのボランティア呼びかけ、SON、SON・東京が行う事業への協力(イベントの共催、運動施設や会議室の貸出等)を行いました。

また、白山キャンパスのある文京区においては、文京区社会福祉協議会と適宜情報交換を行い、文京区学生ボランティア支援連絡会や、文京区内の大学による学生ボランティア団体のネットワークとして機能する「文京区学生ソーシャルアクション連絡会」にコーディネーターが参加しました。赤羽台キャンパスのある北区においては、NPO法人寺子屋子ども食堂の学生ボランティア活動について、コーディネーターが学生ボランティアの組織化支援を行い、現在も継続しています。

他大学との連携については、当該年度より東北学院大学が幹事校を務める「大学間連携災害ボランティアネットワーク」に加盟。同ネットワークが主催する大学間連携夏期集中ボランティア活動に本学から7名の学生が参加しました。

9：その他

各イベントの実施においては、ボランティア支援室だけではなく、学生部、バリアフリー推進室^{*2}等、関係する部署との連携・協働に力を入れました。

*1：東京オリンピック・パラリンピック2020大会において、大会組織委員会が募集する「大会ボランティア」と、競技開催地自治体が募集を行う「都市ボランティア」を指します。

*2：10月より、ウェルネスセンターピアサポートルームに改組。

2018 (平成30)年度 ボランティア支援室活動状況

月	日	種別	業務内容
4月	5日	★ イベント	ボランティア支援室ガイダンス実施
	17日	● 会議	第1回 ボランティア支援室運営委員会(書面)
	17日	◆ ガイダンス (授業協力)	「大学生として学ぶ」文学部教育学科授業
	18日	★ イベント	【朝霞キャンパス】ボランティア合同説明会
	23日	◆ ガイダンス (授業協力)	「大学生として学ぶ」文学部教育学科授業
	24日	● 会議	第1回 ボランティア支援室専門部会
	24日	◆ ガイダンス (授業協力)	「大学生として学ぶ」文学部教育学科授業 2コマ
	24日	★ イベント	ボランティア入門
	25日	◆ ガイダンス (授業協力)	「ボランティア入門」社会学部授業
	27日	◆ ガイダンス (授業協力)	「ボランティア入門」社会学部授業
5月	6日	☆ イベント	デイキャンプで遊ぼう会
	7日	◆ ガイダンス (授業協力)	【朝霞キャンパス】「社会貢献活動入門」ライフデザイン学部授業
	9日	★ イベント	ボランティア入門
	10日	★ イベント	初歩から学ぶ障がい者スポーツ
	12日	● 会議	第2回 ボランティア支援室運営委員会(書面)
	19日	★ イベント	スポーツボランティア研修会
	26日	★ イベント	「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座
	28日	★ イベント	ボランティアサークル合同説明会
	28日	★ イベント	第1回 ボランティアカフェ
	29日	● 会議	第2回 ボランティア支援室専門部会
	29日	★ イベント	ボランティアサークル合同説明会
	29日	★ イベント	第2回 ボランティアカフェ
	31日	★ イベント	ボランティアサークル合同説明会 振り返り
6月	7日	★ イベント	スペシャルオリンピックス参加者 事前説明会
	12日	★ イベント	スペシャルオリンピックス参加者 事前説明会
	18日	★ イベント	第3回 ボランティアカフェ
	19日	● 会議	第3回 ボランティア支援室専門部会
	21日	★ イベント	「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座
	21日	★ イベント	第4回 ボランティアカフェ
	23日	★ イベント	「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座
	23日	◇ その他	学生団体フィッシャーマンジャパンYOUTH 「第1回学生漁業会議一進水式」実施協力
26日	◆ ガイダンス (授業協力)	ボランティア支援室見学会 社会学部社会福祉学科合同ゼミ授業	
7月	13日	● 会議	第3回 ボランティア支援室運営委員会(書面)
	13日	★ イベント	【朝霞キャンパス】夏のボランティア相談会
	14日	★ イベント	「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座
	14日	★ イベント	社会貢献スタディツアー 2018春<防災・減災コース>
	17日	★ イベント	社会貢献スタディツアー 2018春<防災・減災コース>事後学習
	18日	★ イベント	第5回 ボランティアカフェ
	21日	★ イベント	【川越キャンパス】スポーツボランティア研修会(オンデマンド)
	21日	◇ その他	英国・ボーンマス大学との連携講座 TOYO 2020 PROJECT ボランティア講座協力
	23日	★ イベント	第6回 ボランティアカフェ
	24日	● 会議	第4回 ボランティア支援室専門部会
	25日	★ イベント	夏ボラ事前学習
	12～31日	◇ その他	【全キャンパス】 ボランティアサークルを中心とした学生による「平成30年7月豪雨 募金活動」
	18～27日	★ イベント	夏のボランティア相談会
	30日	◇ その他	夏ボラ：石巻市雄勝町プロジェクトミーティング
8月	5～8日	◇ その他	【東北学院大学災害ボランティアステーション】 夏ボラ：気仙沼市プロジェクト(本学学生2名参加)

月	日	種別	業務内容
8月	7日	★ イベント	スポーツボランティア研修会(オンデマンド)
	8日	★ イベント	平成30年7月豪雨 災害ボランティア活動事前研修
	13～15日	◇ その他	【東北学院大学災害ボランティアステーション】 夏ボラ：石巻市雄勝町プロジェクト(本学学生4名参加)
	16・17日	★ イベント	飯能市 夏休みの小学生のための「乳幼児との触れ合い体験」「宿題サポート」「一緒に遊ぼう！話そう！」
	27～29日	◇ その他	【東北学院大学災害ボランティアステーション】 夏ボラ：石巻市牡鹿半島プロジェクト(本学学生1名参加)
	31日～9月2日	☆ イベント	東洋大学の卒業生が現役生に伝える、被災地の現状とこれから
9月	18日	● 会議	第5回 ボランティア支援室専門部会
	18～20日	◇ その他	英国・ボーンマス大学との連携講座 TOYO 2020 PROJECT協力
	20日	★ イベント	「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座
	21日	● 会議	第4回 ボランティア支援室運営委員会(書面)
	26日	◇ その他	東京2020オリンピック・パラリンピックボランティア募集説明会
10月	1日	◇ その他	東京2020オリンピック・パラリンピックボランティア募集説明会
	16日	● 会議	第6回 ボランティア支援室専門部会
	20日	★ イベント	社会貢献スタディーツアー 2018秋<国際理解>
	23日	◇ その他	東京2020オリンピック・パラリンピックボランティア募集説明会
	26日	◇ その他	東京2020オリンピック・パラリンピックボランティア募集説明会
	27日	◇ その他	東京2020公認プログラムNext Athlete Forum2018「親子で学ぶ1日教室」協力
	27日	★ イベント	社会貢献スタディーツアー 2018秋<国際理解>事後学習
	28日	◇ その他	スペシャルオリンピックス日本・東京 スポーツプログラム(バスケット)への体育館利用提供
	30日	◆ ガイダンス(授業協力)	「社会福祉学基礎演習B2」社会学部授業
	11月	1日	◆ ガイダンス(授業協力)
10日		★ イベント	社会貢献スタディーツアー 2018秋<b-lab>
18日		★ イベント	SO日本×東洋大学協定イベント ユニファイドワークショップ in清水町
21日		● 会議	第7回 ボランティア支援室専門部会
12月	1～2日	☆ イベント	もし、大学にいて大地震が発生したら？～首都直下型地震に備える！東洋大学宿泊サバイバル体験～
	1～15日	★ イベント	ボランティアWEEK ～人権とボランティアについて考えよう～
	1～15日	★ イベント	[白山]パネル展示会
	5日	★ イベント	[白山・映画上映]『くちづけ』
	6日	★ イベント	[朝霞・講演会]「障がいのある子どもの子育てを通して想うこと」
	7日	★ イベント	[白山・講演会]「ロヒンギャ問題における人権課題～難民キャンプの事例から」
	7日	★ イベント	[板倉・講演会]「着床前診断・出生前診断からゲノム医療の技術の最前線」
	11日	★ イベント	[白山・映画上映]『性別が、ない！インターセックス漫画家のクィアな日々』
	11日	★ イベント	[白山・講演会]「病院にある学校・学級の子どもの今」
	11日	★ イベント	[白山・映画鑑賞会]『私はマララ』
	11日	★ イベント	[白山] 第7回 ボランティアカフェ
	12日	★ イベント	[白山] 福島県いわき市の食とフェアトレードでつながるーフェアトレード商品販売ーコットンとオリーブ商品(福島県いわき市)の販売
	13日	★ イベント	[白山] 第8回 ボランティアカフェ
	10日	◇ その他	学生団体RING主催 説明会協力
	14日	◇ その他	【川越キャンパス】学生団体RING主催 オリパラボランティア情報交換会
	20日	◇ その他	【朝霞キャンパス】ボランティアサークルミーティング
22日	☆ イベント	バリアフリー地図アプリ「Bmaps」を活用したバリアフリーまちあるき	
1月	29日	☆ イベント	ユニバーサルマナー講演会
	30日	● 会議	第8回 ボランティア支援室専門部会
2月	22～24日	☆ イベント	被災地の大学生と東洋大生が取り組む被災地支援のあり方 in南三陸
3月	5～6日	☆ イベント	福島県いわき市の漁業の現状を発信する
	5日	● 会議	外部評価委員会 第9回 ボランティア支援室専門部会

*3月下旬、ボランティアサークルと次年度ガイダンス打ち合わせ予定

【種別】 ● 会議 ★ イベント(ボランティア支援室企画) ☆ イベント(東洋大学学生課外活動育成会企画)
◆ ガイダンス(授業協力) ◇ その他

その他ボランティアコーディネーター、担当職員の外部視察および外部研修等参加

月	日	種別	業務内容
6月	4日	▲ 参加	文京区大学担当者交流会(フミコム)
	20日	△ 視察	成蹊ボランティアまつり2018 (成蹊大学)
	28日	△ 視察	定泉寺子ども食堂(定泉寺)
	30日	△ 視察	警視庁警備部災害対策課・そなエリア東京 大学生向け宿泊防災イベント「発災後を生き抜け!ー泊サバイバルプログラム」 視察(そなエリア東京)
7月	4日	▲ 参加	文京区学生ソーシャルアクション連絡会(文京区)
	7日	▲ 参加	防災ゲームDay2018 (そなエリア東京)
9月	3日	△ 視察・引率	寺子屋子ども食堂・王子(北区)
	12～13日	▲ 参加	大学ボランティアセンター全国フォーラム2018 (龍谷大学)
10月	11日	△ 視察・引率	寺子屋子ども食堂・王子(北区)
	13日	▲ 参加	Project Y-ELL2020シンポジウム[2020 Legacy Forum](明治学院大学)
11月	24～25日	▲ 参加	日本ボランティア学習学会新潟大会(新潟青稜大学・新潟青稜大学短期大学部)
	26～27日	▲ 参加	オリパラウィーク[フェンシング体験会/青年海外協力隊講演会](上智大学)
12月	13日	△ 視察・引率	寺子屋子ども食堂・王子(北区)
	14日	▲ 参加	文京区学生ソーシャルアクション連絡会(文京区)
	15日	▲ 参加	大学間連携災害ボランティアシンポジウム(東北学院大学)
2月	3日	▲ 参加	後楽園ボランティアシンポジウム(中央大学)
	5日	▲ 参加	中央大学ボランティアセンター創立5周年シンポジウム(中央大学)
	16日	▲ 参加	未来をひらく～3.11から～(埼玉県防災学習センター)
3月	2～3日	▲ 参加	全国学生ボランティアフォーラム

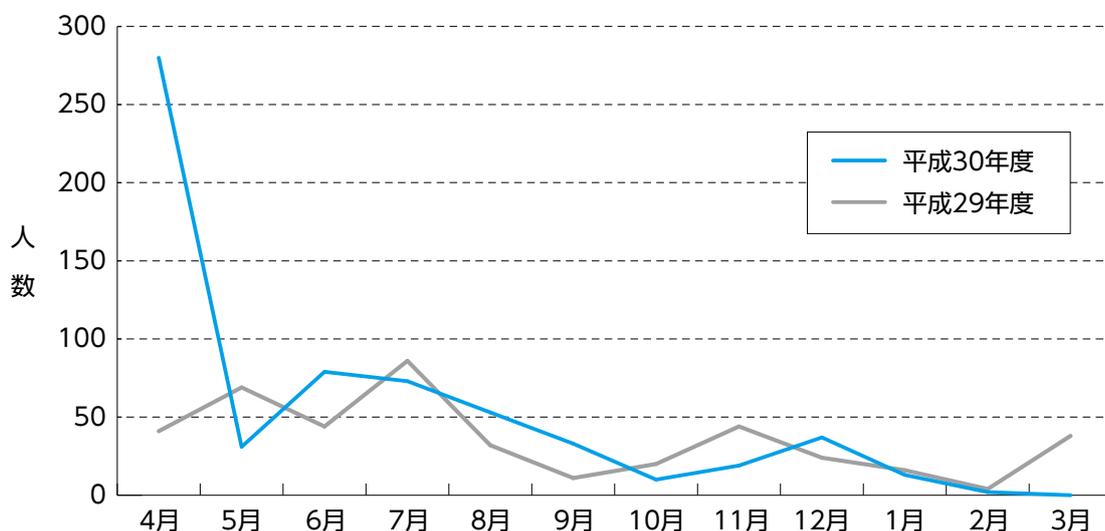
【種別】 △ 視察
▲ 参加

2018（平成30）年度 ボランティア支援室利用状況報告

(1) 学部別ボランティア支援室来訪者数（人数）

所 属	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
白山キャンパス													
文学部	230	7	20	7	2	5	0	1	9	3	0	0	284
経済学部	6	2	6	2	2	2	4	2	5	0	0	0	31
経営学部	7	2	2	0	0	0	0	3	3	0	0	0	17
法学部	5	3	8	7	0	4	2	3	6	8	1	0	47
社会学部	24	13	33	52	48	17	4	2	8	2	0	0	203
国際地域学部	2	0	1	1	0	1	0	4	0	0	1	0	10
国際学部	3	0	6	3	0	0	0	4	3	0	0	0	19
国際観光学部	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
赤羽台キャンパス													
情報連携学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
板倉キャンパス													
生命科学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
食環境科学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
朝霞キャンパス													
ライフデザイン学部	1	2	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	6
川越キャンパス													
理工学部	0	0	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	4
総合情報学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他													
通信教育部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大学院	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	3
記入総件数	280	31	79	73	53	33	10	19	36	13	2	0	629
(参考) 平成 29 年度	41	69	44	86	32	11	20	44	24	16	4	38	429

■ ボランティア支援室 学生来訪者数（月別推移）



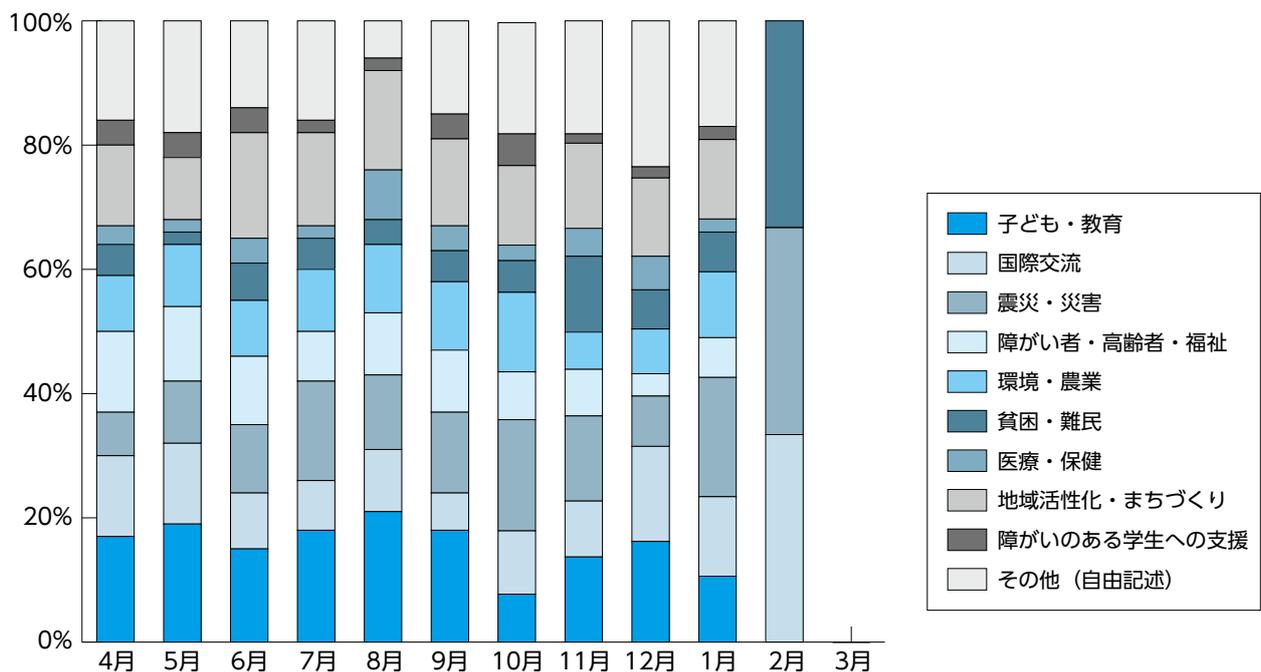
(2) ボランティア支援室来訪者の紹介経路 (件数) ※複数回答を含む

紹介元	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
Toyonet-ACE (ガクチカサプリ)	24	7	20	8	7	6	1	7	8	7	0	0	95
ボランティア支援室主催 ガイダンス	5	7	8	6	4	2	0	0	0	2	0	0	34
学内掲示板	7	4	9	4	3	0	0	3	14	0	0	0	44
教職員からの紹介	12	7	17	17	30	10	3	2	0	0	0	0	98
サークルからの紹介	1	0	3	3	0	0	0	0	4	0	0	0	11
友人・知人からの紹介	6	8	15	14	8	2	3	1	6	3	0	0	66
東洋大学ホームページ	9	2	7	9	3	3	2	2	3	1	1	0	42
その他	2	4	1	4	2	0	0	2	0	0	0	0	15

(3) 学生が興味を持ったボランティア分野 (件数) ※複数回答を含む

カテゴリー	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
子ども・教育	34	17	38	32	31	14	3	9	18	5	0	0	201
国際交流	25	12	24	15	14	5	4	6	17	6	1	0	129
震災・災害	14	9	27	29	17	10	7	9	9	9	1	0	141
障がい者・高齢者・福祉	25	11	29	15	14	8	3	5	4	3	0	0	117
環境・農業	17	9	23	18	16	9	5	4	8	5	0	0	114
貧困・難民	9	2	16	9	6	4	2	8	7	3	1	0	67
医療・保健	6	2	11	4	11	3	1	3	6	1	0	0	48
地域活性化・まちづくり	25	9	41	28	24	11	5	9	14	6	0	0	172
障がいのある学生への支援	8	4	11	4	3	3	2	1	2	1	0	0	39
その他 (自由記述)	32	16	37	29	9	12	7	12	26	8	0	0	188

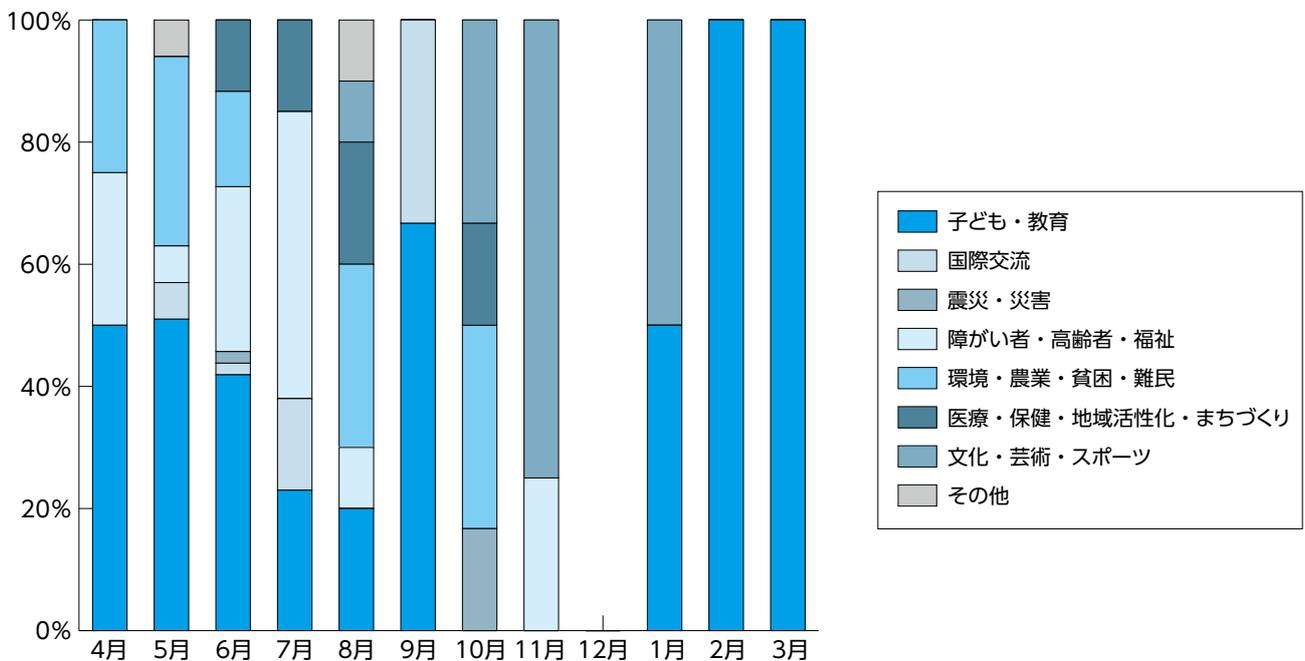
■ 学生が興味を持ったボランティア分野 (月別比較)



(4) ToyoNet-ACE ガクチカサプリ掲載ボランティア求人数 (件数)

分野	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
子ども・教育	4	8	21	3	2	2	0	0	0	1	2	4	47
国際交流	0	1	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	5
震災・災害	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
障がい者・高齢者・福祉	2	1	14	6	1	0	0	1	0	0	0	0	25
環境・農業・貧困・難民	2	5	8	0	3	0	2	0	0	0	0	0	20
医療・保健・地域活性化・まちづくり	0	0	6	2	2	0	1	0	0	0	0	0	11
文化・芸術・スポーツ					1	0	2	3	0	1	0	0	7
その他	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
総件数 (月別)	8	16	51	13	10	3	6	4	0	2	2	4	119
(参考) 平成 29 年度	39	33	34	17	8	17	10	7	5	31	0	12	213

■ ガクチカサプリ掲載ボランティア求人分野 (月別比較)



(5) ToyoNet-ACE ガクチカサプリ閲覧者数 累計数

集計期間	閲覧者数 (人)
平成 30 年 4 月～ 5 月	17,357
平成 30 年 6 月	8,105
平成 30 年 7 月	4,353
平成 30 年 8 月	3,256
平成 30 年 9 月	5,287
平成 30 年 10 月	6,038
平成 30 年 11 月	5,765
平成 30 年 12 月	3,827
平成 31 年 1 月	3,203
平成 31 年 2 月	2,941
平成 31 年 3 月	1,739
計	61,871

※平成 29 年度累計 72,985

1

ボランティア支援室ガイダンス

開催日時	2018年4月5日(木) ①12:30~13:30 / ②17:30~18:30
開催場所	東洋大学白山キャンパス 5号館地下1階 5B12教室
目的	<ul style="list-style-type: none"> ● 新入生を中心に東洋大学にボランティア支援室が開室(2017年4月1日)したことを広く学生に知らせ、存在を知ってもらう。 ● 東洋大学の学生が取り組んでいるボランティア活動、NPO活動、社会貢献活動などについて知ってもらい、情報交流する。 ● ボランティア活動への意識を高め、参加を促進する。
内容	<p>(1) 本学ボランティアコーディネーターによるボランティア支援室の紹介</p> <p>(2) 学生ボランティアサークル・団体による活動紹介</p>
参加者等	<p>【参加者数】 第1部:66名、第2部:58名</p> <p>【参加団体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学生ボランティアセンター ● 福祉系サークルらいふ ● 読み聞かせ朗読会 ● フェアトレードサークル Heart Bazaar ● バリアフリーサークル歩み(※第1部のみ) ● 手話サークルつみき ● Oriental Sky Project(※第2部のみ) ● 国際ボランティアサークル Salamat ● ソーシャルエデュケーションファーム ● NPO法人 CFF (Caring for the Future Foundation) ジャパン ● 損保ジャパン日本興和环境財団 CSO ラーニング制度

白山キャンパス

「ボランティアガイダンス」実施報告

4月5日(木)白山キャンパス5号館5B12教室において、ボランティアガイダンスを実施しました。

ガイダンスは12:30～13:30に実施した第1部と、17:30～18:30の第2部の計2回行い、第1部には66名、第2部には58名の学生の参加がありました。

いずれの回も、前半30分はボランティア支援室の紹介を林コーディネーターより行い、後半30分は学生ボランティアサークルによるサークル紹介を行いました。ガイダンス終了後、早速各サークルに個別に詳しい話を聞きにいく新入生の姿も見られました。

ガイダンスで配布した学生ボランティアサークルのチラシは、引き続きボランティア支援室にて配架しています。また、これからボランティア活動をはじめてみたいと考えている学生の皆さんからの相談を支援室ではいつでもお待ちしております。



2

ボランティア合同説明会 in 朝霞

開催日時	2018年4月18日(水) 12:00～15:00
開催場所	東洋大学朝霞キャンパス 講義棟1階 学生ホール
目的	<ul style="list-style-type: none"> ● 新入生および在學生に東洋大学の学生が取り組んでいるボランティア活動、NPO活動、社会貢献活動などについて知ってもらい、情報交流する。 ● ボランティア活動への意識を高め、参加を促進する。
内容	学生ボランティアサークル・団体による活動紹介
参加者等	<p>【参加者数】 59名</p> <p>【参加団体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学生ボランティアセンター朝霞てって ● あさがお(朝霞笑顔復興委員会) ● きゃんぱす ● 福祉系サークルかみひこうき ● キッズプロジェクトあさか

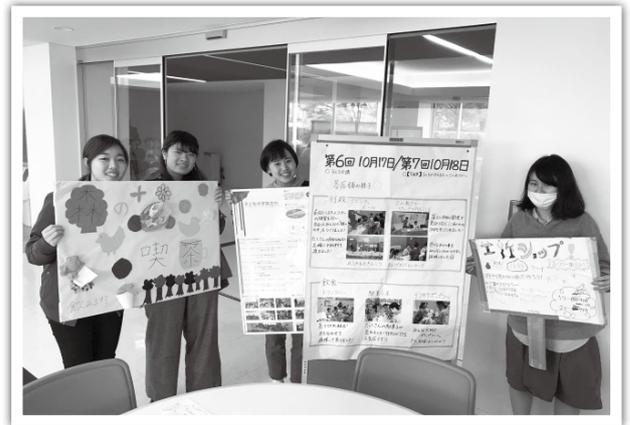
「ボランティア合同説明会 in 朝霞」実施報告

4月18日(水) 12:00～15:00、朝霞キャンパス講義棟1階学生ホールにおいて「ボランティア合同説明会 in 朝霞」を開催しました。

当日は総計59名の参加がありました。

朝霞キャンパスの学生ボランティアサークル5団体が当日ブースを出展し、説明会開始直後からサークルの説明を聞きに新入生の姿が多く見られました。お話を聞く団体を決めて会場に現れた方もいれば、5団体すべての説明を聞いて回っていた新入生の方もいました。

今回、説明会参加5団体の学生が互いに協力し、チラシ製作などの広報活動をはじめ、当日までの準備と当日運営を担いました。学生サークルの皆さん、おつかれさまでした。



3

ボランティア入門講座

開催日時	① 2018年4月24日(火) 16:30～18:00 ② 2018年5月9日(水) 16:30～18:00
開催場所	東洋大学白山キャンパス 浦水会館3階 301
目的	<ul style="list-style-type: none"> ● ボランティア活動に関心があるが、一歩を踏み出すのに躊躇している学生向けにボランティアとは何か、どのような関わり方があるか等を知ってもらう。 ● ボランティア活動への意識を高め、参加を促進する。
内容	<ol style="list-style-type: none"> (1) ボランティア支援室の紹介 (2) ボランティア活動の特徴と種類、ボランティア活動への参加の方法 (3) ボランティア(個人)とNPO(組織)との関係、ボランティア活動と奉仕活動の違い (4) 2020年東京オリンピック・パラリンピックのボランティア活動
参加者等	【参加者数】 第1回:50名 第2回:50名

4月24日・5月9日「ボランティア入門講座」実施報告

白山キャンパス浦水会館301教室において「ボランティア入門講座」を、以下のとおり2回にわたり実施しました。

- 第1回:4月24日(火) 16:30～18:00

講師:林 大介(東洋大学ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター)

参加者数:50名

- 第2回:5月9日(水) 16:30～18:00

講師:日比野 勲(東洋大学ボランティア支援室 ボランティアコーディネーター)

参加者数:50名

内 容

講座の中では、ボランティア支援室の紹介、ボランティア活動の特徴と種類、ボランティア活動への参加の方法、ボランティア(個人)とNPO(組織)との関係、ボランティア活動と奉仕活動の違い、2020年東京オリンピック・

パラリンピックのボランティア活動などについてお話ししました。

受講者からは申し込みの段階で、ボランティア活動への参加の仕方や心構え、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて何をすればよいかということについて知りたいなどの声が寄せられました。

受講後の感想には、「ボランティアについて興味があったけれど、実際どう参加したら良いのか分からなかったのでお話が聞けてよかった」、「ボランティアを通して、お金には代えることのできないものを得ることができるという部分がとても印象に残った」といったことが寄せられました。

また一方で「善意でボランティアをしようとする、逆に迷惑をかけてしまうことがあることを知った」という感想など、ボランティアの問題点について考えるところがあったというコメントも複数見受けられました。



4

デイキャンプで遊ぼう ～里親子を地域とつなぐ学生の会

開催日時	2018年5月6日(日) 11:00～14:00
開催場所	船橋市立青少年第2キャンプ場
目的	大学生はキャンプ場という里親の皆さんの目の届く場所で子どもたちと遊び、里親の皆さんには安心して子育ての悩みや相談、雑談などの交流が出来るリラックスした場を提供する。
内容	<p>里親は都道府県知事が委託する事業であり、この親子の実態と支援が基礎自治体ではほとんど行われておらず、地域支援を受ける機会はほとんどないのが現状である。今回のデイキャンプは、学生たちが中心となって仲介し、地域の人たちとデイキャンプをしながら交流する場を提供するものである。</p> <p>参加学生には事前学習の機会を設け、さらに観光バスを利用し、当日の荷物の持ち込みと学生たちの仲間づくりと課題の共有した。</p> <p>デイキャンプ企画としてカレーづくりを行い、飯盒炊爨<small>はんごうすいさん</small>とカレー作りという野外活動を体験し、シャボン玉や風船、ボールを使って子供たちとの遊びを楽しんだ。</p>
参加者等	<p>【参加者数】</p> <p>千葉県里親子の会の会員・関係者、東洋大学社会学部森田ゼミ学生3・4年生、東洋大学の大学院生、本学学生や船橋市民</p> <p>(内訳) 大人79人 子ども23人 合計102人</p> <p>里子23人/里親33人/船橋市民ボランティア2人/大学院生7人/教員1人/ボランティア学生9人/森田ゼミ3.4年生26人</p>

「デイキャンプで遊ぼう」実施報告

活動

- 飯盒炊爨はんごうすいさん・カレー作り体験
- 里親子の会の会員の子どもたちと遊ぶ

当日前活動

4月22日(日) 11:00～14:00

当日の活動場所である「船橋市立青少年キャンプ場」の下見: 森田ゼミ3, 4年生5人

4月25日(水) 12:20～12:50

活動の参加を希望する一般の学生に対して、里親子の置かれている状況を理解するための事前学習会を実施。

この活動の目的や里親子と接するにあたっての注意事項、活動当日の簡単なタイムスケジュールの確認などを行った。

当日活動

5月6日曜日。この日は快晴で初夏を感じさせる気温でした。今年もデイキャンプは昨年と同様に船橋市立青少年第2キャンプ場で行われました。この活動は、児童福祉を学んでいる学生達を中心に続けられているものです。今年度より、この活動に一般の学生もボランティアとして参加が可能となりました。

昨年までは、各自備品や食材などを持ってキャンプ場の最寄り駅である三咲駅に現地集合していましたが、今年は参加者100人以上の活動ということもあり、大量の荷物をより楽により確実に運送するために、観光バスで現地まで向かうこととなりました。

現地の到着予定時刻は9時半でしたが、道路をスムーズに進むことができ、8時半に船橋市立青少年第2キャンプ場に到着しました。予定より1時間ほど早く到着することができたため、準備時間を十分にとることができました。準備ができたところで、それぞれの係に分かれご飯の準備を始めました。

10時頃になると徐々に里親の親子が来始め、受付係が子どもたちにビブスを配り、前と後ろに名前を書いたガムテープを張りました。子ども達には、午前の部と午後の部で必ず子ども1人に学生1人が担当でつくようにしました。最初、午前の部担当の学生が自分の担当の子どもと遊び始め、学生は子どもと遊ぶために用意してあったシャボン玉や風船、ボールを使い子供たちと楽しんでいました。

カレーは甘口、中辛、辛口の三種類を用意したため、子どもから大人までみんなおいしいと食べていました。なかには3、4回おかわりにくる子どももいて、カレーは大成功でした。その後は、食べ終わった子どもから遊び始め、午後の部の学生たちが担当の子どもそばにつき、担当の学生は片付けを開始しました。

14時頃になると一旦遊ぶのをやめ、全員の集合写真を撮影しました。学生の中には子どもを抱っこしている人や、手をつないでいる人もいて、短い間で子ども達と仲良くなった様子が伺えました。閉会式では、里親会の木ノ内博道さんから感謝の言葉を頂き、森田先生の今日のデイキャンプでの感想や締めめの言葉をいただき解散となりました。

当日の様子



みんな大学生と仲良く遊んでいました。



全体で記念写真

参加者の感想

- お兄さんたちに遊んでもらえて楽しかった。フリスビーで遊んだのが一番楽しかった。(6歳男の子)
- カレーを作ったりできて楽しかった。大学生の人と話ができてうれしかった。(13歳女の子)
- 一緒に遊んでくれてありがとう。また一緒に遊ぼうね!!大学4年生は大学じゃなくて会社で会えないけれどずっとずっとずーっと忘れないよ大大大大大好き!!!(7歳女の子)

5 初歩から学ぶ障がい者スポーツ

開催日時	2018年5月10日(木) 10:40～12:10
開催場所	東洋大学白山キャンパス 浦水会館3階 301
目的	<ul style="list-style-type: none"> ● 様々な障がい者スポーツへの理解を深め、障がい者スポーツボランティアに触れる機会とする。 ● ボランティア活動への意識を高め、参加を促進する。
内容	(1) 障がい者スポーツの理解 (2) 障がいの理解と演習 (3) 2020年東京パラリンピックをめざす本学のアスリートより
参加者等	講師 ：志村 健一（社会学部社会福祉学科教授） スペシャルゲスト ：山口 凌河さん（社会学部社会福祉学科4年） 【参加者数】 12名

「初歩から学ぶ障がい者スポーツ講座」 実施報告

ボランティア支援室では、本学在学学生を対象に白山キャンパスで「初歩から学ぶ障がい者スポーツ」の講座を5月10日(木)に実施しました。

まず、本学に在学しているゴールボールの日本代表強化指定選手の山口さん(社会学部・4年生)から、レーベル病で全盲になった中学の辛い時期を乗り越え、現在はゴールボール日本代表強化指定選手となり、2020年東京開催のパラリンピックでメダル獲得を目指していることが熱く語られました。

講座講師の社会学部社会福祉学科教授の志村先生からは、障がい者スポーツの競技会であるパラリンピック、知的障がいのある人たちに様々なスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を年間を通じ提供している国際的なスポーツ組織であるスペシャルオリンピックス、ろう者自身が運営するろう者のための競技会であるデフリンピックについてわかりやすくご説明いただきました。

その後の障がい体験では、知的障がいの体験として今まで聞いたことが無い言葉を聞く、肢体不自由体験として軍手をしたのカルタ取り、視覚障がい体験として視覚障がい用のゴーグルをかけ目の見えない状況で文字でのコミュニケーション、あれ・これ等の指示語を使った話を聞くなどの体験をしました。

障がい者への配慮、ボランティアの必要性を身近に感じることができる講座でした。



6

スポーツボランティア研修会

開催日時	第1回 ：2018年5月19日（土） 13：00～16：00 第2回 ：2018年7月21日（土） 12：30～15：00 第3回 ：2018年8月7日（火） 13：00～15：30
開催場所	第1回 ：東洋大学白山キャンパス 1305 教室 第2回 ：東洋大学川越キャンパス 1101 教室 第3回 ：東洋大学白山キャンパス 1402 教室
目的	<ul style="list-style-type: none"> ●スポーツボランティア活動のやりがいや楽しみ方を知る。 ●ボランティアに必要なコミュニケーションを学ぶ。 ●東京2020オリンピック・パラリンピックに向け、スポーツボランティアについて学ぶ。
内容	(1) JSVNの活動について (2) コミュニケーション（ワーク） (3) スポーツボランティアとは (4) スポーツボランティアに関する統計
参加者等	第1回 講師：高尾 都茂子（日本スポーツボランティアネットワーク講師・一般社団法人東京都レクリエーション協会専門委員） 田中 正男（日本スポーツボランティアネットワーク講師・JSVN スポーツボランティア・コーディネーター） 第2回 講師：日比野 勲（東洋大学ボランティア支援室 コーディネーター） 第3回 講師：林 大介（東洋大学ボランティア支援室 コーディネーター） 【参加者数】 第1回：133名 第2回：13名 第3回：126名 計 272名
プログラム提供	特定非営利活動法人 日本スポーツボランティアネットワーク

白山キャンパス実施報告

ボランティア支援室では、本学在学学生を対象に「スポーツボランティア研修会」を5月19日（土）に開催しました。申し込み149名、当日参加133名となりました。開催場所となった白山キャンパスには他キャンパスからも多くの学生が集まり、キャンパスを越えたボランティア活動の意見交換をする学生同士の交流が見られました。

研修会は4部構成になっており、1部では、「コミュニケーション（1）」として、スポーツボランティアに参加するとそこには様々な世代、経験を持つ人達が集まり、その人達と協働して活動をしなければならない。このことから、コミュニケーションが非常に重要となるとのことで、アイスブレイクで知らない人同士が温かなムードをつくる方法を学びました。

2部では、「スポーツボランティアとは」と題し①概論 スポーツボランティアとは、②理論 スポーツボランティアに関する社会状況、③障がいのある人のスポーツなどを学びました。

3部では、「コミュニケーション (2)」として、様々な人たちが集まり活動していく上で大切なコミュニケーション力、他者を認め理解する「他認の力」を身につけるための体験学習としてグループワークを行いました。

4部では、「スポーツボランティアに関する統計」と題し、様々な統計の紹介とスポーツボランティアは「ささえるスポーツ」であること、障がいのある人のスポーツにおいて求められていること等の説明がありました。

質疑応答では、学生から過去20年間スポーツボランティアの人数が横ばいであることについて質問があり、講師より情報不足もありボランティアの人数が伸びていないと思う、今後増やしていきたいとのコメントがありました。

研修会に参加し、スポーツボランティア活動に必要な基礎知識を得た学生133名には、後日修了証が渡されます。修了証を受け取られた学生の皆さんは、今後、実際のスポーツボランティア体験をし、東京2020オリンピック・パラリンピックでボランティアに応募、活動することを期待しています。



川越キャンパス(オンデマンド) 実施報告

ボランティア支援室では、本学在学学生を対象に日本スポーツボランティアネットワーク (JSVN) 提供によるオンデマンドの「スポーツボランティア研修会」を7月21日 (土) に川越キャンパスにて開催しました。

研修会は、5月に白山キャンパスにおいて実施した同研修会のオンデマンド形式によるもので、アイスブレイクであったかなムードをつくる体験をした後、スポーツボランティアの概論を学びました。その後、さまざまな人たちが集まり活動していく上で大切なコミュニケーション力、他者を認め理解する「他認の力」を身につけるための体験学習としてグループワークを行いました。

さらに第二部 (補足講義) として、本学ボランティア支援室の日比野コーディネーターによる「スポーツボランティアから広がる世界~in addition to『スポーツボランティア研修会』~」を実施。「ボランティア活動とは?」「自分に合ったボランティア活動の探し方」「2020年に向けて~東京オリ



ンピック・パラリンピックと、その後〜」をテーマに、身近なボランティア活動への関わり方から、2020年の東京オリンピック・パラリンピックでのボランティアとしての関わり方、東京オリンピック・パラリンピックのボランティア以外のさまざまな関わり方について、広く学びました。

研修会に参加し、スポーツボランティア活動に必要な基礎知識を得た学生13名には、後日修了証が渡されます。修了証を受け取られたみなさんには、今後スポーツボランティアとしてのご活躍を期待しています。

白山キャンパス(オンデマンド)実施報告

ボランティア支援室では、本学在学学生を対象に日本スポーツボランティアネットワーク(JSVN) 提供によるオンデマンドの「スポーツボランティア研修会」を8月7日(火)に白山キャンパスにて開催しました。

研修会は、5月に白山キャンパスにおいて実施した同研修会のオンデマンド形式によるもので、アイスブレイクであたたかなムードをつくる体験をした後、スポーツボランティアの概論を学びました。その後、さまざまな人たちが集まり活動していく上で大切なコミュニケーション力、他者を認め理解する「他認の力」を身につけるための体験学習としてグループワークを行いました。

さらに第二部として、本学ボランティア支援室の林コーディネーターによる補足講義を実施。ボランティア活動の原則やボランティアに関する意識調査のデータ紹介、2020年の東京オリンピック・パラリンピックでのボランティアとしての様々な関わり方について学びました。

研修会に参加し、スポーツボランティア活動に必要な基礎知識を得た学生126名には、後日修了証が渡されます。修了証を受け取られたみなさんには、今後スポーツボランティアとしてのご活躍を期待しています。ボランティア支援室では、今後も東京オリンピック・パラリンピックのボランティアを希望する学生向けの支援を展開していく予定です。



7 外国人おもてなし 語学ボランティア育成講座

開催日時	<p>第1回：2018年5月26日（土） 13：00～16：30 2コース 14：00～17：30 1コース</p> <p>第2回：2018年6月21日（木） 16：45～20：15 1コース</p> <p>第3回：2018年6月23日（土） 13：00～16：30 1コース</p> <p>第4回：2018年7月14日（土） 13：00～16：30 1コース 14：00～17：30 1コース</p> <p>第5回：2018年9月20日（木） 13：00～16：30 1コース</p>
開催場所	<p>第1回：東洋大学白山キャンパス 1202、1404、1507 教室</p> <p>第2回：東洋大学白山キャンパス 1204 教室</p> <p>第3回：東洋大学白山キャンパス 1204 教室</p> <p>第4回：東洋大学白山キャンパス 1404、1507 教室</p> <p>第5回：東洋大学白山キャンパス 1404 教室</p>
目的	<ul style="list-style-type: none"> ●外国人に対するおもてなしの心をグループワーク等を通じて学ぶことにより、相手の立場に立って思考する意識を芽生えさせ、協調性やコミュニケーションスキルの向上を図る。 ●ボランティアマインドの醸成を図り、ボランティア活動への参加意欲の喚起にも繋げる。
内容	<p>外国人おもてなし語学ボランティアとは、街中で困っている外国人を見かけた際などに簡単な外国語で積極的に声をかけ、道案内等の手助けをしていただくボランティアで、決まった日時・場所で活動するボランティアではなく、日常生活の中で自主的に活動するものである。講座では、簡単な英語を使った外国人とのコミュニケーションに関する基礎知識や、外国人に対する「おもてなし」の心を身に付けるため、おもてなしや異文化コミュニケーションについて映像やグループワークを通して学習した。</p> <p>修了者は、「外国人おもてなし語学ボランティア」として東京都に登録され、登録証とバッジが渡された。</p>
参加者等	<p>第1回 講師：野村 明子（ネス外国語会話）、奥村 潤（EP Academy）、千葉 玲子（ELEC 英語研修所）</p> <p>第2回 講師：瀬尾 ゆき（ディラ国際語学アカデミー）</p> <p>第3回 講師：傍島 一夫（ディラ国際語学アカデミー）</p> <p>第4回 講師：松尾 英俊（ジェイムズ英会話）、松尾 美根子（ジェイムズ英会話）</p> <p>第5回 講師：鎌田 孝（ECC 外語学院）</p> <p>【参加者数】 第1回：146名 第2回：43名 第3回：52名 第4回：80名 第5回：20名 計 341名</p>
共催	東京都

「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座 実施報告(抜粋)

会場

白山キャンパス R1507 R1404 R1202

実施日

2018年5月26日(土) 13:00～16:30 (R1507, R1404)
14:00～17:30 (R1202)

実施内容

2018年5月26日(土)に会場を3教室に分け164名(申込者数188名欠席24名)の本学学生が「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座を受講しました。

今回、この外国人おもてなし語学ボランティア育成講座実施する目的は、英語に自信のない人達にも外国人の方々にかける勇気を持ってもらい「おもてなしの心」を都内全体に広めるためです。

たとえば海外で道に迷った場合など、言葉も通じず、非常に不安になることがあると思いますが、その時、片言でも現地の人たちから声をかけられたらうれしく感じるのではないのでしょうか。顔をそむけたり逃げたりするのではなく、勇気をだし「おもてなしの心」をもって接していただきたい旨の説明がありました。

講義冒頭では、資料動画(「外国人おもてなし語学ボランティア」、「澤の屋の“おもてなし”」)を2本視聴後、1時限目(75分)は「外国人とのコミュニケーションに関する基礎知識」を東京都から提供されたテキストをもとに講師が「4人グループジェスチャーゲーム」や「ロールプレイ」を取り入れながら講義を進め、2時限目(45分)では「知識や情報を駆使して問題解決する方法を学ぶ」と題して4人1グループのグループワークを①「道案内」②「交通手段」③「緊急時の対応」のように実施後、④として2人組にわけペアワークを行いました。3時限目(45分)で「ボランティア・スピリッツ」として「心に残るおもてなしと印象の悪いおもてなし」「おもてなし5か条」について4人1グループのグループワークを行った後、講義全体のまとめを行いました。

心に残るおもてなしの体験談として1507教室の受講者からは、はじめてホームステイを体験した際に、不安一杯で部屋に入った時、ホストファミリーがWelcomeカードとお菓子を用意して温かく迎えてくれたことが本当に嬉しかったという話や、ホームステイ先で、普通は1週間に1回しか洗濯をしないのに自分のために、ホストファミリーが毎日洗濯してくれたなど様々な心温まる話が受講者から発表されました。

講義終了後、今回の講座を受講したことで、受講者の皆さんの「おもてなしの心」が東京の魅力向上に繋がっていくとおもいますので、機会があれば是非、勇気を出して声をかけてみてくださいと締めくくりました。



8 ボランティアサークル 合同説明会

開催日時	2018年5月28日(月)～29日(火) 11:00～20:00
開催場所	東洋大学白山キャンパス 6号館1階 第3会議室
目的	<ul style="list-style-type: none"> ● 新入生および在學生に東洋大学の学生が取り組んでいるボランティア活動、NPO活動、社会貢献活動などについて知ってもらい、情報交流する。 ● ボランティア活動への意識を高め、参加を促進する。
内容	学生ボランティアサークル・団体による活動紹介・説明会およびフェアトレード商品販売
参加者等	<p>【参加者数】 1日目 64名 2日目 52名</p> <p>【参加団体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● アカシアの木 ● Oriental Sky Project ● 学生ボランティアセンター ● 国際ボランティアサークル Salamat ● バリアフリーサークル歩み ● フェアトレードサークル Heart Bazaar ● 福祉系サークルらいふ ● ボランティアサークル SPIRIT ● 読み聞かせ朗読会

「ボランティアサークル合同説明会in白山」 実施報告

5月28日(月) および 29日(火) の11:00～20:00、白山キャンパス6号館第3会議室において、「ボランティアサークル合同説明会 in 白山」を実施しました。28日には64名、29日には52名の学生の参加がありました。

両日、白山キャンパスを拠点に活動する学生ボランティアサークル9団体がブースを構え、活動の紹介を行ったほか、フェアトレードサークル Heart Bazaar と国際ボランティアサークル Salamat によるフェアトレード商品販売コーナーも設けられ、イベントを大いに盛り上げました。

また、13:15～14:00の時間帯には、「東洋大学ボランティアカフェ」も開催。28日は「フェアトレードのお話」と題し、Heart Bazaar より「フェアトレードとは何か?」についての解説と、商品販売を行っていた Heart Bazaar・Salamat の両団体より商品の紹介をしていただきました。29日は「絵本の世界の魅力」と題し、

読み聞かせ朗読会による絵本読み聞かせ実演を交えた活動の紹介が行われました。

各団体のブースでは、サークルの説明を聞きにきた学生を歓迎ムードで迎える様子のほか、サークル間で交流する様子も見られ、さまざまな「きっかけ」が生まれた合同説明会となりました。



9 東洋大学ボランティアカフェ (ボラカフェ)

開催日時	第1回：2018年 5月28日(月) 13：15～14：00 / 第2回：29日(火) 13：15～14：00 第3回：2018年 6月18日(月) 12：20～12：50 / 第4回：21日(木) 12：20～12：50 第5回：2018年 7月18日(水) 12：20～12：50 / 第6回：23日(月) 12：20～12：50 第7回：2018年12月11日(火) 12：20～12：50 / 第8回：13日(木) 12：20～12：50
開催場所	第1～2回：東洋大学白山キャンパス 第3会議室(6号館1階) 第3～8回：東洋大学白山キャンパス 浦水会館1階 ボランティア支援室
目的	<ul style="list-style-type: none"> ● ボランティアサークルの活動紹介の場の提供 ● 学生がボランティア活動や社会貢献活動に一步を踏み出す後押しをする ● 参加者、ゲスト間などボランティア活動に関心のある人同士をつなぎ、仲間づくりの機会とする ● ゲストの取り組みに学びながら、ボランティア活動や社会貢献活動の多様性と魅力に気づく機会とする <p>※ボランティアサークル側にとっては、団体のメンバー獲得やイベント参加者の増加など、広報サポートの機会として位置づける</p>
内容	ボランティアサークルや個人でボランティア活動をしている学生、まだ活動はしてはいるが興味がある学生などが集まる交流の場として、ボランティアカフェを実施しました。
参加者等	<p>第1回 5月28日(月) Heart Bazaar Salamat、第2回 29日(火) 読み聞かせ朗読会 第3回 6月18日(月) 高木 綾音さん (東洋大学国際学部国際地域学科2年、Fisherman JAPAN Youth) 佐伯 栞人さん (東洋大学社会学部社会福祉学科3年、学生ボランティアセンター 復興支援班リーダー) 第4回 6月21日(木) 長瀬 健太郎さん (NPO法人good! スタッフ) 須賀 有喜さん (東洋大学文学部史学科4年、NPO法人good!ワークキャンプ参加者) 第5回 7月18日(水) 田邊 健史さん (文京区地域連携ステーションフミコム コミュニティマスター) 第6回 7月23日(月) 谷口 京介さん (株式会社ワイズインテグレーション ヒューマンリソース事業部) 第7回 12月11日(火) 石津 雄大さん (僕らの夏休みProject東洋大学支部) 第8回 12月13日(木) 林 真生さん (東洋大学社会学部社会福祉学科4年、埼玉ゴールボールクラブサポーター、株式会社ミライロ 内定者)</p> <p>【参加者数】 第1回：11名、第2回：15名 第3回：8名、第4回：10名 第5回：9名、第6回：5名 第7回：7名、第8回：6名</p>

※第1回・2回の実施報告は、ボランティアサークル合同説明会にて実施の為、当該実施報告内に記載

第3回 ボランティアカフェ 6月18日(月) 「復興7年目の東北と向き合う人たち～『復興』の先へ～」 実施報告

- 日 時 2018年6月18日(月) 12:20～12:50
- 会 場 東洋大学ボランティア支援室
- テーマ 「復興7年目の東北と向き合う人たち～『復興』の先へ～」
- ゲスト 高木 綾音さん(東洋大学国際学部国際地域学科2年、Fisherman JAPAN Youth)
佐伯 菜人さん(東洋大学社会学部社会福祉学科3年、学生ボランティアセンター 復興支援班リーダー)
- 参加者数 8名(ゲスト含む)

内 容

東日本大震災から7年が経過しましたが、現在も学生によるさまざまな活動が、東北において行われています。今回は東洋大学から、東北の復興・創生に関わる活動を行っている学生2名をゲストに迎え実施しました。

高木さんは、2018年の春休み期間中に復興庁が実施した「復興・創生インターン」に参加。宮城県石巻市に赴き、若手漁師による漁業再興を目指す団体である一般社団法人フィッシャーメンジャパンが受け入れを行うプログラムで、1ヶ月に渡り活動をしてきました。

漁業にはまったく関心が無かったと語った彼女が、今後そうそう漁業に関わるきっかけなどないだろうと思ったことが、フィッシャーメンジャパンでのインターンに参加を決めた理由だったとのこと。

「大学生へ漁業の魅力を伝えるために学生団体を創設せよ！」とのミッションを与えられ、「Fisherman JAPAN Youth」をインターン仲間と共に設立。その初めての会合を、東洋大学において開催することになりました。

佐伯さんは、東洋大学学生ボランティアセンターの復興支援班のリーダーとして活動しています。

最も大きな活動としては、夏休みに実施するTOP（東北応援プロジェクト）として、東洋大学の一般学生に参加を呼びかけて行う「気仙沼みなとまつり」でのボランティア活動です。みなとまつりでは、早稲田大学や立教大学など、同じく気仙沼で活動する他大学の団体とも活動することがあり、東京に戻ってきてから行う報告会では、毎回それらの大学からゲストを招くなど、活動先でさまざまなつながりが生まれているとのこと。こうした経験を通じ、東北の復興支援という社会課題を自分たちの団体だけでなく、広い視野で見ることができるようになったといいます。

参加者の感想

- 今日ボランティアになる「インターン」という手段を知ることができました。今後もこうした活動があったら来たいと思います。
- 今回の活動、カフェに参加させてもらい、「ボランティア」に興味がわきました。今後、ボランティア活動があれば参加したいです。
- 水産業や漁業に関して全く知らなかったのが、今回大変楽しく聞かせていただきました。また、他のボランティアサークルや活動を知ることができ、大変おもしろかったです。



第4回 ボランティアカフェ 6月21日(木) 「ワークキャンプで過ごす夏！」実施報告

- **日 時** 2018年6月21日(木) 12:20～12:50
- **会 場** 東洋大学ボランティア支援室
- **テ ー マ** 「ワークキャンプで過ごす夏！」
- **ゲ ス ト** 長瀬 健太郎さん(NPO法人good! スタッフ)
須賀 有喜さん(東洋大学文学部史学科4年、NPO法人good!ワークキャンプ参加者)
- **参加者数** 10名(ゲスト含む)

内 容

ワークキャンプとは、宿泊型のボランティア活動のことです。NPO法人good!は、不登校やひきこもりの若者に社会と関わるきっかけを提供するところからはじまり、現在は広くさまざまな若者が、国内外で実施されるさまざまなワークキャンププログラムに参加しています。

当日はまず、good!のスリランカワークキャンプに参加経験のある本学学生の須賀さんから、スリランカワークキャンプへの参加を通じて感じたことについて語っていただきました。ボランティア支援室でパンフレットを見つけたことが、good!との出会いだったと語る須賀さん。スリランカに行って、現地に「家族」ができたといいます。表層的ではない人と人との関わりを通じて、日常生活での人との向き合い方や、生きることの意味について考えるきっかけになったと語りました。

その後、good!の職員スタッフの長瀬さんよりお話をいただきました。長瀬さん自身、大学に入学した当初は「よっ友」(すれ違ったときなどに簡単な挨拶を交し合うだけの関係)ばかりが増えてしまい、もっと充実した大学生活を過ごしたいと考えていたときにインターネットで検索し、出会ったのが、ワークキャンプだったとのことでした。

スマートフォン全盛の時代、SNSで気軽に連絡できるようになった反面、表層的な付き合いに留まってしまう関係も増えているように感じていると長瀬さん。現代社会における本質的な人間関係のあり方についても問題提起するようなお話をいただきました。

参加者の感想

- 知らないところへ実際に行って、そのために何かするのは勇気があることではあるけど、「実際に行ってみること」への興味がわきました。知らないところの知らない人とつながってみたいと思いました。
- 私自身もスマートフォン漬けの日々を送っていると感じていたので、人との関係が希薄になっているという言葉に非常に共感しました。
- 参加された方のお話を聞いて、刺激を受けました。最近、色々なことをやりたいけれど、バイトや課題に追われる日々疲れや不満を抱いていたのですが、このようなイベントに参加したり、考え方を変えたりするだけで、前向きに何事にも取り組んでいけると再確認できました。
ありがとうございました。



第5回 ボランティアカフェ 7月18日(水) 「文京区の活動『フミコム?』」実施報告

- 日 時 2018年7月18日(水) 12:20～12:50
- 会 場 東洋大学ボランティア支援室
- テーマ 「文京区の活動に『フミコム?』」
- ゲスト 田邊 健史さん(文京区地域連携ステーションフミコム コミュニティマイスター)
- 参加者数 9名(ゲスト含む)

内 容

最初に田邊さんから参加学生に対し「あなたが地域と関わった経験の中で、一番印象的だった経験にはどのような経験がありますか?また、どうしてそれが印象的だったのでしょうか?」という質問がなされ、参加者は自己紹介をしながら自らの経験について話しました。「いろいろなところに歩いてまわり、地域を知るきっかけになったゴミ拾いボランティア」の経験や、「2歳のときからお神輿の祭りに行き、老若男女みんな元気な姿が印象的だった」という経験を話していました。地元のお祭りに関わったことのある学生は他にも数人見受けられました。

「地域で活動するとき、その活動の何に魅力を感じるか、なぜ活動に関わるのかを地域の方々から聞かれることがよくあります」と田邊さんから話があり、活動に関わる上で、活動を続ける上で都度ふりかえることの大切さを感じました。

参加者の感想

- フミコムをはじめて聞いて興味があり来ました。たくさんチラシをいただいたので参考にしたいと思います。
- 想像以上に様々な活動をされていて驚きました。積極的な気持ち、活動を知る人がどんどん輪を広げて周りを巻き込んでいけるような空気を生み出していきたいし、地域に住む人々の幸福度について見つめなおしたいと思います。
- 様々なイベントの紹介をしていただきましたが、自分が全く知らなかったものもあり、自分から情報をとっていかないとダメだと思いました。
- フミコムの仕組みや立ち位置を理解することができました。新たな出会いやつながりを持てれば良いなと感じました。



第6回 ボランティアカフェ 7月23日(月) 「ボランティア活動+ライブ? —アメリカ発のボランティア活動—」実施報告

- 日 時 2018年7月23日(月) 12:20～12:50
- 会 場 東洋大学ボランティア支援室
- テ ー マ 「ボランティア活動+ライブ?—アメリカ発のボランティア活動—」
- ゲ ス ト 谷口 京介さん(株式会社ワイズインテグレーション ヒューマンリソース事業部)
- 参加者数 5名(ゲスト含む)

内 容

はじめに、ゲストの谷口さんより「RockCorps」についての概要説明がありました。

「RockCorps」とは音楽の力を使って“企業”と“地域社会”と“人々”を結びつけ、「楽しみながら、気軽に参加できる社会貢献の形」を提案し、人々のボランティア活動への参加を推進する新しい社会貢献のカタチで、参加者は4時間のボランティア活動をすると、アーティストの音楽イベント“セレブレーション(ライブイベント)”に参加することができるそうです。「RockCorps」はボランティアが、スポーツ、音楽、ファッション、ゲームなどと同様にライフスタイルの一部となり、若者の生活の中で社会貢献活動がより身近な存在になることを目指しているそうで、新たなボランティアのあり方を提案しているとのことでした。

「Rock Corps」のボランティア活動には、荒川のクリーンアップ活動や、2020年東京オリンピック・パラリンピックの舞台ともなる千葉県幕張市のバリアフリーマップづくりの活動、東日本大震災で被災した写真をデジタル化して修復する活動など、さまざまなジャンルから選ぶことができます。



第7回 ボランティアカフェ 12月11日(火) 「震災から7年9ヶ月、岩手のヒト・モノ・コト、 そして子どもたち」実施報告

- **日 時** 2018年12月11日(火) 12:20～12:50
- **会 場** 東洋大学ボランティア支援室
- **テ ー マ** 「震災から7年9ヶ月、岩手のヒト・モノ・コト、そして子どもたち」
- **ゲ ス ト** 石津 雄大さん(僕らの夏休みProject東洋大学支部)
- **特別ゲスト** 佐々木 真琴さん(きっかけ食堂)
- **参加者数** 7名(ゲスト含む)

内 容

東日本大震災で被災した岩手県の沿岸部のうち、主に宮古市・山田町・釜石市の18の小学校の子どもたちに寄り添い、遊びや科学実験などの学びをつくる活動を通じて子どもたちを笑顔にする「僕らの夏休みProject」の取り組みについて、ゲストの石津さんにご紹介いただきました。

※僕らの夏休みProject：<http://bokunatsu.com/>

夏休みに子どもたちと関わるのは3日間ながら、その短い時間の中で子どもたちの未来に何かしらの影響を与えるような体験の場を、創意工夫を重ねながら創り上げています。また、子どもたちとの交流後は、岩手県の地域の祭りにかかわり、地域との関係を紡いでいます。こうして地域で彼らの活動は受け容れられ、団体創立時に掲げた「10年以上続く」活動として関係が丁寧に築かれています。

この日はちょうど、東日本大震災から7年9ヶ月の月命日でした。毎回月命日に、東京・京都・名古屋の3箇所で開催している「きっかけ食堂」の開店日で、東京会場では僕らの夏休みProjectが活動のフィールドとしている岩手県宮古市の産地直送の食材をメニューとすることから、特別ゲストにきっかけ食堂スタッフの佐々木真琴さん(宮古市出身)を迎え、きっかけ食堂の取り組みについてご紹介いただきました。

なお、ボラカフェはお茶やお菓子を囲みながら開催していますが、この日は佐々木さんに宮古のかりんとうを差し入れていただきました。ありがとうございました。

※きっかけ食堂：<https://kikkake-syokudo.org/>



第8回 ボランティアカフェ 12月13日(木) 「僕の『Tokyo2020』へのかかわり方」実施報告

- **日 時** 2018年12月13日(木) 12:20～12:50
- **会 場** 東洋大学ボランティア支援室
- **テ ー マ** 「僕の『Tokyo2020』へのかかわり方」
- **ゲ ス ト** 林 真生さん(東洋大学社会学部社会福祉学科4年、埼玉ゴールボールサポーター、株式会社ミライロ 内定者)
- **参加者数** 6名(ゲスト含む)

内 容

2018年12月21日に締め切りを迎えた、2020年東京オリンピック・パラリンピックの公式ボランティア(大会ボランティアならびに都市ボランティア)を前に、さまざまなオリンピック・パラリンピックへのかかわり方を提案することを目的に開催。パラリンピック正式種目のゴールボールとの関わりをきっかけに、「バリアをバリューにする」を理念に掲げユニバーサルな社会づくりを目指す株式会社ミライロへ卒業後の進路を決定している林真生さんをゲストに迎えました。

東洋大学に在学し、ゴールボール日本強化選手として活躍する山口凌河さんとの出会いがきっかけで、ゴールボールに関わるようになった林さん。埼玉ゴールボールサポーターとしてチームに帯同し、11月に開催された日本選手権では男子準優勝の好成績を獲得したとのこと。

2020年の東京パラリンピックの際、ゴールボールは千葉県の幕張メッセが会場となり実施されます。この日のボラカフェ後にも、林さんは山口さんと共にゴールボールの体験会を都内の大学主催のもと実施してきたそうです。このように、特定の競技を通じた2020年東京オリンピック・パラリンピックへのかかわり方があり、それは2020年を待たずして出来ます。1人1人、それぞれのオリンピック・パラリンピックへのかかわり方を見つけるヒントとなったのであれば幸いです。



10 「平成30年7月豪雨」募金活動

開催日時	2018年7月12日(木)～8月3日(金)
開催場所	東洋大学 各キャンパス
目的	2018年7月5日より断続的に発生した「平成30年7月豪雨」の被災地支援活動の一環として、発災からまもなく、現地での救援活動が継続的に行えるようになるまでの支援活動の機会を創出する。
内容	日本赤十字社「平成30年7月豪雨災害救援義捐金」に協力する形で募金活動を実施。総額502,068円をお預かりし、日本赤十字社に寄付しました。
参加者等	学生ボランティアセンターおよび一般公募により集まった有志学生

平成30年7月豪雨災害募金のお礼とご報告

東洋大学では7月12日～8月3日(キャンパスにより異なる)より平成30年7月豪雨災害に対する募金活動を各キャンパスで行いました。

多くの皆様からご厚意が寄せられ、下記の通りの結果となりましたので、心からの感謝と共にご報告いたします。

学生ボランティアセンターの学生を中心とした募金活動を行い総額502,068円をお預かりいたしました。

お預かりいたしました募金は、8月7日「日本赤十字社」に送金し、団体を通じ、平成30年7月豪雨災害支援活動に使われます。



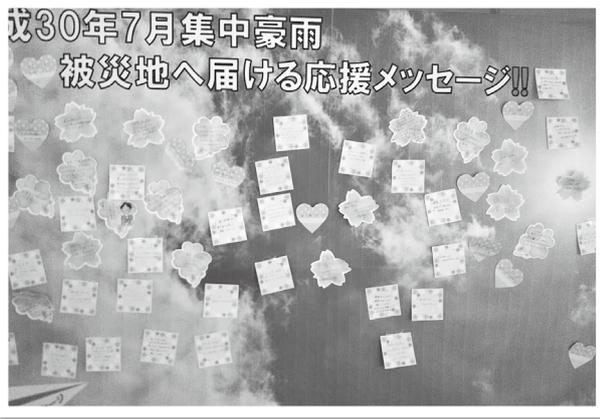
11 平成30年7月豪雨被災者への 学生応援メッセージ活動

開催日時	2018年7月12日(木)～8月31日(金)
開催場所	東洋大学 白山キャンパス
目的	2018年7月5日より断続的に発生した「平成30年7月豪雨」の被災地支援活動の一つとして、すぐにボランティアとして現地入りすることのできない学生や教職員が応援メッセージを送り、被災地にとって負担のない形で被災地に思いを届ける。
内容	<p>2018年7月5日より断続的に発生した「平成30年7月豪雨」の被災地支援活動の一環として、東日本大震災での復興支援活動を通じて得た経験を基に、熊本・大分大地震の際にも行った「学生応援メッセージ活動」を行った。</p> <p>白山キャンパス6号館1階通路やホームページにて、学生・教職員から広く被災地へのメッセージを集め、本学ボランティア支援室ホームページにてメッセージを公開する形で被災地にメッセージを送った。</p> <p>●応援メッセージ活動の背景</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 寄付をするお金のない学生でも参加できる。 2. 不安を抱えて毎日を過ごす現地に直接つながる学生が、自分の気持ちを書くことによって、被災している人とつながることができる。また被災地に思いを寄せる学生たちの気持ちを知ることによって大学の中で支えられ感をもつことができる。 3. 直接激励のメッセージを送らないで大学内で掲示、ホームページやツイッターで共感を集め、現地の人に見てもらおう方法は、自分たちの気持ちを押し付けることなく、現地の人が見たいときに読み、お礼も不要であり、被災地の負担感なく、活動を展開することができる。
参加者等	本学学生及び教職員

平成30年7月豪雨被災者の皆様へ 学生からの応援メッセージ

ここに、平成30年7月豪雨で被災された方々へ東洋大学生から寄せられたメッセージを紹介させていただきます。

平成30年7月集中豪雨
被災地へ届ける応援メッセージ!!



前を向いて歩こう！少しでも多くの命が救われるように願っています

一日一日を強く生きてください。一日でも早く、みなさんが安心して過ごせる日が来ることを祈っています。

以前の様に素晴らしい街に、一日でも早く戻ります様に！心から祈ってます！がんばれ！

被災地の方々、災害に遭われた方々、ご苦労や大変さは計り知れないものがあると思います。お辛いと思いますが頑張ってください。

It cannot be compared to anything when the normal life is not as same as before.
Be safe, I send all my heart for supporting you.

被災された方、つらいことも多いかと思いますが「今」を乗り越えてください。絶対に笑える未来が待っています。

何もできないのがもどかしいです。日本中で支え、一日でも早く復興するのを祈っています。

私たちにできることはこれくらいだけ応援してます。希望を捨てないで、Fight！

できることから少しずつ！頑張ってくださいね。

ここまで被害が出るとは思わず、ショックでした。はるか遠くに住んでいるからボランティアに行くことはできないけど、募金などでできることをやります。一緒に頑張りたいです。

苦しみの先には必ず幸せが待っていると私は信じています。それがどんな形であれ届けば、と心から願っています。

一日でも早く多くの人の笑顔が見れますように！来年は「京都大作戦」が開催されますように～！

私は千葉県在住の大学1年です。現在このような状況にいる学生さん達にとって一番辛い時期ではあると思います。私は遠くから募金活動であったり応援メッセージを送るなど、小さな事しかできませんが、少しでも同世代の力になれたらと感じます。一刻も早い復興を祈っております。

わたしの想像以上に、きっと不安な気持ちで毎日過ごしているんじゃないかと思います。気持ちを強く持って、常に前向きに、いてください。大学生の若い力で、周りの弱い立場の方々を支えてあげてください。東京から応援しています。

毎日今日だけ頑張りますよ。遠くから応援しています。

被災された方々が少しでも早く笑顔を取り戻せるようにお祈り致します。

この度は西日本豪雨で心痛める日々が続いておりますが、1日でもはやい復興を心から願っております。

頑張ってください!!
つらい時はみんなで乗り越えましょう!

おばちゃん!
おじちゃん!
ひで兄!!
岡山から離れた千葉で応援してるけんう!!
頑張っな!!
真備町、総社に届けー!!

西日本の記録的豪雨による水害で犠牲になられた方々に深くお悔やみ申し上げますとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

私は現在大学4年生で内定先の同期とグループワークや研修といった形で顔を合わせています。同期の中に被災地から飛行機で来ている友達もいて、被災地での苦労や不便な思いを伝えてくれています。

就職活動をしている方や大学で勉強している方が大勢いらっしゃると思いますが、中には大切な方を失ってしまった方もいると思います。

過去の震災を見てきて心の傷はそう簡単には癒えないと思いますが、周りに寄り添って支えてくれる人も大勢います。

SNSが普及している現代で、直接話せないことも遠くにいる私たちには伝えられます。どんどん頼って下さい!

一日も早い復興を心からお祈り申し上げます。

私たちはいつでも皆さんのことを応援しています。

被害にあわれた皆様の笑顔が戻るように僕たちも募金活動やボランティア活動等を通じて寄り添っていきます。みんなで乗り越えましょう

これからどんどん暑くなり、熱中症など心配することがふえていくかと思われま。まずは身体に気をつけてください。私たちにできることは本当にわずかなことですが、皆さんのお力に少しでもなれるようにできることから始めていきたいと思ひます。皆さんも頑張ってください!

東京という遠く離れたところからではありますが、困難を乗り越えてがんばってください。いや、がんばりましょう! 応援しています!

負けるな西日本!!
僕は東日本大震災を乗り越えました。
皆様もきっと乗り越えることができます!

つらいときも
苦しいときも
前を向いて、笑顔で!
皆様のことを日本全体で応援しています。
頑張ってください!!

12 夏のボランティア相談会

開催日時	【朝霞キャンパス】 2018年7月13日(金) 12:00～15:00 【白山キャンパス】 2018年7月18日(水)～27日(金) 各12:00～18:00
開催場所	【朝霞キャンパス】 東洋大学朝霞キャンパス 講義棟1階ミーティングルーム 【白山キャンパス】 東洋大学白山キャンパス 甬水会館1階 ボランティア支援室オープンスペース
目的	<ul style="list-style-type: none"> ●夏の長期休暇中にボランティア活動への参加を検討している学生に向けて情報提供する。 ●さまざまなボランティア活動、NPO活動、社会貢献活動などについて知ってもらい、情報交流する。 ●ボランティア活動への意識を高め、参加を促進する。
内容	(1) 本学ボランティアコーディネーターによるボランティア情報の紹介や活動に関する相談対応 (2) 学生ボランティアサークル・団体による活動紹介
参加者等	【参加者数】 朝霞キャンパス：16名 白山キャンパス：29名 【朝霞キャンパス参加団体】 <ul style="list-style-type: none"> ● 東洋大学学生ボランティアセンター朝霞てって ● あさがお ● キッズプロジェクトあさか ● かみひこうき

7月13日(金)

「夏のボランティア相談会2018 in朝霞」実施報告

ボランティア支援室では、夏休み期間中にボランティア活動などに関わってみたい学生へのきっかけの提供を目的として、「夏のボランティア相談会2018 in 朝霞」を以下の通り行いました。

- **日 時**：2018年7月13日(金) 12:00～15:00
- **会 場**：朝霞キャンパス 講義棟1階ミーティングルーム
- **参加者数**：16名
- **協 力**：東洋大学学生ボランティアセンター朝霞てって、あさがお、キッズプロジェクトあさか、かみひこうき

朝霞キャンパスには、通常ボランティアコーディネーターが常駐していませんが、今回はボランティア支援室コーディネーターが、夏休みに学生を募集しているボランティア活動情報や、朝霞市周辺地域で夏休みの体験ボランティアプログラムを実施している地域のボランティアセンターの情報等を会場に配架・掲示し、相談会に来場した学生のボランティア活動に関する相談に応じました。会場への掲示・配架により紹介したボランティア活動の分野は、子ども・教育、福祉、国際、環境、地域活性化、芸術、スポーツなど多岐に渡りました。

学生ボランティアサークルの学生の皆さんには、会場設営や、相談のために来場した学生への声かけなど、運営にご協力いただきました。ありがとうございました。



13 社会貢献スタディツアー

<p>開催日時</p>	<p>【春期】</p> <p>①企業コース NEC ネットエスアイ株式会社 2018年6月28日(木) 13:00～15:00 →中止</p> <p>②国際理解コース 新宿区大久保・百人町 2018年7月10日(火) 15:30～18:00 →中止</p> <p>③防災・減災コース そなエリア東京 2018年7月14日(土) 9:00～12:00 (事後学習) 2018年7月17日(火) 14:45～16:15</p> <p>【秋期】 ※井上円了リーダー哲学塾フィールドワークとの合同開催</p> <p>④オリパラ前に内なる国際化を実感しよう!～多文化のまち・大久保を歩く 2018年10月20日(土) 13:00～15:00 (事後学習) 2018年10月27日(土) 13:00～14:30</p> <p>⑤中高生の秘密基地 b-lab 見学ツアー 2018年11月10日(土) 13:00～16:15</p>
<p>開催場所</p>	<p>【春期】</p> <p>①企業コース NEC ネットエスアイ株式会社 →中止</p> <p>②国際理解コース 新宿区大久保・百人町 →中止</p> <p>③防災・減災コース 江東区 東京臨海広域防災公園 (そなエリア東京)</p> <p>【秋期】 ※井上円了リーダー哲学塾フィールドワークとの合同開催</p> <p>④オリパラ前に内なる国際化を実感しよう!～多文化のまち・大久保を歩く 新宿区大久保・百人町</p> <p>⑤中高生の秘密基地 b-lab 見学ツアー 文京区 b-lab</p>
<p>目的</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ボランティア活動や社会貢献活動に関心があるが、何をしたら良いか分からない、どんな活動があるのか分からない学生向けに、実際にボランティア・社会貢献活動の現場を体験してもらう機会を創る ● ボランティア活動や社会貢献活動の現場の体験を通じて、次の一步につなげる ● 当日の参加だけでなく、事前学習／事後ふりかえりを行うことを通して、ボランティア・社会貢献活動に対する意識の向上を目指す
<p>内容</p>	<p>*主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 訪問先の取り組み内容の説明 ● ボランティア・社会貢献活動に対する考え、団体内／社内向けの取り組みや意識啓発 ● 現場・施設見学、ボランティア体験など

参加者等

【参加者数】

● 春期

- ①企業コース NEC ネットエスアイ株式会社 →中止
- ②国際理解コース 新宿区大久保・百人町 →中止
- ③防災・減災コース そなエリア東京 4名

● 秋期※井上円了リーダー哲学塾フィールドワークとの合同開催

- ④オリパラ前に内なる国際化を実感しよう！～多文化のまち・大久保を歩く
塾生：15名／一般学生：3名
- ⑤中高生の秘密基地 b-lab 見学ツアー
塾生：17名／一般学生：1名

社会貢献スタディツアー

『そなエリア東京』で学ぶ、防災・減災ボランティアアクション』 実施報告

7月14日(土)の9:00～12:00、東京都江東区にある東京臨海広域防災公園(そなエリア東京)において、社会貢献スタディツアー<防災・減災コース>『そなエリア東京』で学ぶ、防災・減災ボランティアアクション』を実施しました。当日は、4名の学生の参加がありました。

当日は現地集合とし、ボランティアコーディネーターが作成したワークシートを埋めていながら館内全体を回りました。

まずは、「TOKYO72h体験ツアー」を体験。首都直下型地震の想定に基づき状況を再現したジオラマの中を歩きながら、タブレット端末に出題されるクイズに解答していきました。そして、再現避難場所・再現避難所、津波避難体験コーナーを見学しました。

さらに、PCコーナーでの映像「東京マグニチュード8.0」鑑賞の後、「事例に学ぶ災害の様相地域情報コーナー」の見学を行い、最後に事後学習への橋渡しとして、1人ずつ互いの感想を共有してツアーを終了しました。

7月17日(火)14:45～16:00には、今回のスタディツアーの振り返りとして事後学習会を行いました。参加した学生からは、

「防災意識を高めることは特別なことをするというわけではなく、日常のちょっとした心がけと工夫で高めることが出来ると学んだ。」



「震災が起きることは、考えたくないことだけれど、きちんと防災に向き合って考えなければいけないと思った。」
「災害が起きたとき、自分にも行動を起こすことができることがわかった。若い人の力が必要だと感じた。」
等の感想があり、参加者様々に刺激を受けたツアーとなりました。

ボランティア・社会体験スタディツアー

「オリパラ前に、内なる国際化を実感しよう!~多文化のまち・大久保を歩く」 実施報告

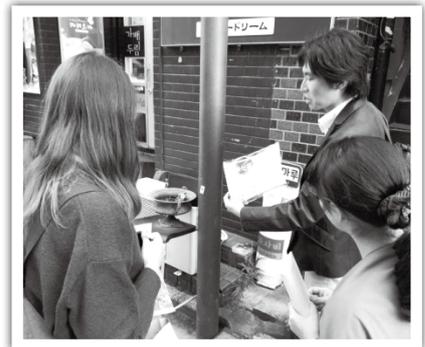
オリパラの時期には、海外から多くのゲストが来日されますが、新宿区大久保・百人町では、アジアを中心とした5,000人を超える外国籍区民が生活しています。現地にて説明を受けた後、街を歩き、私たちの身近で進みつつある多言語多文化を体験し、内なる国際化を体感することを目的にスタディツアーを実施しました。

「オリパラ前に、内なる国際化を実感しよう!~多文化のまち・大久保を歩く」

まずはじめに、現地でスタディツアーの事前学習を行いました。新大久保と言えば韓国人が中心の街というイメージですが、1990年代以降の中国籍の人口増加、また現在はベトナム人、ネパール人が急増していることなどを学びました。新大久保地区は全住民に対する外国人住民の比率が高く、外国人密集地域です。この状況に行政が追いつかず、ごみの不法投棄や騒音などの問題が深刻であることを学びました。そして、実際、街歩きをしながらその現状を体感しました。

繁華街から一歩裏道に入るとすぐに住宅地となっていました。そして、あちらこちらに粗大ごみが回収されずそのままになっていました。新大久保では、下記の写真のとおり、ごみの回収ルールを記載している看板が多言語で作成されているのが特徴的でしたが、ベトナム語やネパール語などの表記はなく、そのためこのような事態が発生していることも考えられます。

箕曲先生のご説明を聞きながら、国際化する日本の抱える多文化共生の難しさを改めて考えさせられるツアーとなりました。



ボランティア・社会体験スタディツアー

「中高生の秘密基地b-lab（ビーラボ）見学ツアー」 実施報告

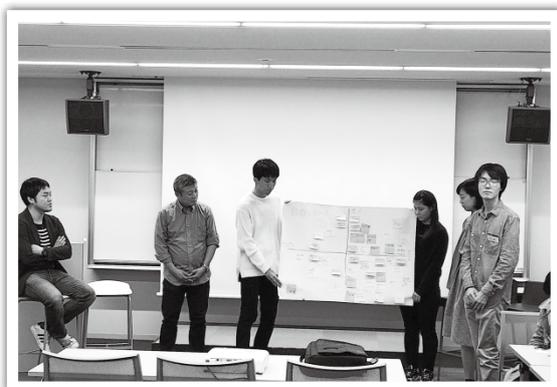
11月10日（土）13：00～16：15 「フィールドワーク～地域と連携する地域課題への取り組み（2）」と題する井上円了リーダー哲学塾フィールドワークとの合同開催にて社会貢献スタディツアー 2018秋期第二弾「中高生の秘密基地b-lab（ビーラボ）見学ツアー」を実施しました。

「中高生の秘密基地b-lab（ビーラボ）見学ツアー」

b-labとは中高生が自主的な活動を通じて自らの可能性を広げ、社会性を身につけた自立した大人へ成長を目指すために2015年4月に文京区が設置した施設です。

開所1年で利用者数が2万人を超えている施設を訪れ、2部構成のプログラムに参加しました。第1部ではb-lab館長の白田氏からb-labの概要説明を受けた後、b-lab学生スタッフ3名（内一名は昨年度の井上円了リーダー哲学塾修了生の大関 佑介さん）の案内により二班に分かれて施設内の見学を行い、各施設ごとの説明を受けました。

第2部では白田館長司会のもと4グループに分かれ「ユースワークの必要性」、「大学生ができる中高生支援とは?」、「中高生世代の居場所に必要な条件は?」についてグループワークを行い各グループごとに意見を取りまとめ発表を行いその後、利用者（高校生）をゲストに迎えb-lab学生スタッフ3名と白田氏を交え座談会形式で利用者の声を聞きながらb-labについての存在意義等について本学学生を交えながら対談しました。



14

平成30年7月豪雨災害ボランティア活動事前研修

開催日時	2018年8月8日(水) 13:00～16:00 ※台風接近に伴い14:20終了
開催場所	東洋大学白山キャンパス 1号館3階 1311教室
目的	<ul style="list-style-type: none"> ●平成30年7月豪雨により被災した地域での災害ボランティア活動を検討している学生・教職員に向け、復興支援の状況とは全く異なる発災直後の支援について学ぶ。 ●被災地入りを推奨するのではなく、発災直後のボランティア活動や心構えを学ぶ。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ●被災地状況報告、活動体験談(7月豪雨・関市+1995～の事例) ●災害ボランティアとは ●災害ボランティアセンターについて ●災害ボランティア活動時の装備、持ち物 ●被災された方との接し方、心のケア等
参加者等	<p>講師：宮崎 賢哉氏(災害支援・防災教育コーディネーター/社会福祉士)</p> <p>【参加者数】 11名</p>

「平成30年7月豪雨 災害ボランティア活動事前研修」実施報告

8月8日(水) 13:00～14:20、東洋大学白山キャンパス1311教室において、この度の平成30年7月豪雨に関する災害ボランティア活動希望者を主な対象として、災害支援・防災教育コーディネーターの宮崎賢哉氏を講師にお招きし、事前研修を実施しました。当日は東洋大学の学生8名の参加のほか、成蹊大学から1名、中央大学から2名の参加がありました。

当初は、基礎編(13:00～14:20)・応用編(14:30～16:00)の2部構成で実施を予定していましたが、台風13号の接近に伴い、基礎編のみの実施となりました。

この研修は、被災地域に赴き活動することを推奨するものではなく、現地で活動する上で知っておくべきこと、守るべきことを学ぶことを目的に実施しました。つまるところ、ボランティア活動者がケガや体調不良、トラブルを起こさないために必要な知識や理解を習得することにあります。

災害ボランティアとして知っておくべきことの原則として、被災された方の目線に立つということが宮崎氏より伝えられました。「被災地・被災者」という言語表現や、自然災害は平等に起きてもその被害は平等ではないため、ひと括りにせず1人1人に寄り添うことの必要性について、そして災害時に被災された方やボランティアに寄り添うために、身近な人にも同じように寄り添って接することができるように日頃から意識することが重要であるとのお話がありました。

また、ボランティア自身が安全に活動するために必要なこととして、ボランティア保険の天災プランへの事前

加入、トイレや水分補給などの休憩を十分にとる、ボランティア同士が気配りし無理をしない活動環境を整えることが大切であるとのお話がありました。

ボランティア支援室には、今回の研修の資料のほか、災害ボランティア活動を行う上で役立つ情報を収集し閲覧に供しています。被災地域に赴いての活動を検討されている方は、ぜひこうした資源を活用してみてください。

参加者の感想

- 本日は貴重なお話ありがとうございました。すべて初めて聞くお話で、今までの東北での活動を振り返ることもできました。
- 知識がないと迷惑になってしまうことがよく分かりました。とてもよい機会になりました。
- 今も感じることのある、東京で普通に生活していることへの罪悪感やストレスによる影響などをよくないと思いつつも、それに対する向き合い方や解決策が分からずに過ごしていました。自分のためにも活動のためにも、今より前向きになれるそうです。ありがとうございました。



15

夏休みの小学生のための
「乳幼児との触れ合い体験」
「宿題サポート」
「一緒に遊ぼう！話そう！」

開催日時	2018年8月16日(木)～17日(金) 10:00～16:00(12:00～13:00は昼食)
開催場所	飯能市子育て総合センター、公園(午後)
目的	<ul style="list-style-type: none"> ●夏休み中の飯能市の小学生が大学生と交流する場を設け、夏休みの宿題に取り組む機会とする。 ●小学生が子育て総合センターの存在や役割を知るとともに、乳幼児との触れ合い体験を通じて、自分よりも小さい子と関わる場を創る。 ●東洋大学の学生にとって、ボランティア活動に取り組む機会を設ける。 ●主に福祉を学んでいる東洋大学の学生が、児童福祉の現場を体感する。
内容	<p>東洋大学の学生による社会貢献活動・ボランティア活動の一環として、夏休み中の飯能市の子ども(小学4年生～6年生)を対象にした、「乳幼児との触れ合い体験」「夏休みの宿題のサポート」「一緒に遊ぶことを通しての触れ合い活動」を2日間行う。</p> <p>※2013年8月から毎年実施し、今回で6回目 ※2日間とも同じプログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ●保育体験：どんぐりルームに来所されている乳幼児・保護者との触れ合い体験 ●夏休みの宿題のサポート：「答えを教える」のではなく、考えるためのヒントを出す ●遊戯室(2階ホール)で遊ぶ：ドッジボール、鬼ごっこ、だるまさんが転んだ、風船バレーなど
参加者等	<p>【参加者数】</p> <p>1日目 子ども9名/大学生(ボランティア)13名 2日目 子ども13名/大学生(ボランティア)8名</p>

飯能市ボランティア 「夏休みの小学生のための 『乳幼児との触れ合い体験』 『宿題サポート』 『一緒に遊ぼう！話そう！』」活動実施報告

当日の様子

- 大学生にとっては、小学生世代の子どもと接する機会がほとんどなく、想像以上の小学生のパワーに圧倒されていた。
- 過去に参加した子どもが今年度も参加しており、成長を伺えた
- 大学生と小学生の割合がほぼ半々で、安心して対応できる状態だった。

参加者の感想

【学生】

- 普段接することの少ない小学生との時間は、とても貴重でした。みんながやっていた宿題の難易度の高さに驚きました。学生のうちにこのような経験が出来て良かったです。
- どんぐりルームで赤ちゃんと触れ合うことも、なかなか他ではそういう機会がなかったので良いと思いました。
- 学んだことは、1歳児と2歳児、小学5年生と6年生、同じ一年の違いでも1歳児と2歳児の方が大きく成長の変化がわかるということです。
- 小学生より小さい子どもは、かなり人見知りをしてしまうんだな、ということを知りました。(飯能市の)施設の方は子どものあやし方がすごく上手で、さすがでした。羨ましいです。

【小学生】

- 遊んだり、おしえてくれたり(勉強)、とっても楽しかったです!!ありがとうございました!
- いっぱいやさしくおしえてくれてありがとうございます。いっぱいあそんでくれてありがとうございます。とっても楽しかったです。
- いっぱいやさしく教えてくれたり、せっきょくてきに声をかけてくれたり、いっぱいあそんでくれたのでとても楽しかったですし、来年も来たいです。



16

東洋大学の卒業生が現役生に伝える、被災地の現状とこれから

開催日時	2018年8月31日(金)～9月2日(日)
開催場所	福島県南相馬市 宿泊地：双葉屋旅館(所在地：南相馬市小高区東町一丁目40番)
目的	<ul style="list-style-type: none"> ● 東洋大学の学生による被災地(福島県)でのボランティア活動 ● 被災地で求められている支援活動について、学生の視点で考える ● 卒業生との交流を踏まえて、学部・学科を超えた東洋大生の連携・協働に取り組む
内容	<p>東日本大震災から7年が経過した。130年の歴史のある東洋大学においては、東北3県(岩手、宮崎、福島)出身・在住の卒業生もたくさんおり、東日本大震災において、被災されたり、支援活動に関わったりもしている。</p> <p>そこで、東洋大学の現役の学生と、卒業生が、被災地で出会い、交流することを通じて、東北における「復興・創生」のいまを見つめると共に、東洋大生としてできることは何かを深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 事前に、現地の様子などについて学生同士で調べて、学習会を実施する ● 現地では、現地の様子を視察するとともに、ボランティア活動等を通じて、大学生としてできることについて考える ● 実施後は、報告書を作成するとともに、ボランティア支援室が主催するイベント等で報告を行う
参加者等	【参加者数】 学生：14名 コーディネーター：1名 計15名

「東洋大学の卒業生が現役生に伝える、被災地の現状とこれから」活動報告

現地での対応者

- 南相馬市役所 秘書課長 横田 美明 氏
- 南相馬市 放課後児童支援員 青木 理絵 氏
- NPO法人トイボックス 山本 将 氏

活動内容

- * 8/31 (金)：石神第一児童クラブ、石神第二児童クラブ、太田児童クラブ、大甕児童クラブの4箇所小学生と遊ぶ
- * 9/1 (土)：(午前)東町児童クラブ、上町児童クラブ、鹿島児童クラブの3箇所小学生と遊ぶ／(午後)震災時の状況について横田課長から講話を頂いた後、沿岸部など被災した地域を視察

*9/2 (日)：震災時の子どもの様子について青木氏から、NPOによる被災地支援について山本氏から、それぞれ講話

学生の感想

*良かった点

- 2箇所訪れた児童館はそれぞれ別の場所だったため、雰囲気の違いを感じられた。
- 南相馬市で働く東洋大学の卒業生に、実際の様子などを伺えて良かった。
- 話を伺ったひとたちは震災後すぐに行動に移っていて、その勇気と行動力に驚きました。特に支援したい人たちと市役所の受け入れる側の葛藤のようなお話がとても興味深かったです。
- 公務員志望であったため自治体の話を詳しく聞いたのかとてもよかったです。また民間との委託や線引きが難しかったが実際にお話を聞いてイメージがわいてよかったです。
- 私は今まで子供と関わる機会がほとんどなく、ちゃんと子供たちと楽しく遊んで子供たちが懐いてくれるかとても心配でしたが、子供たちと遊んでいる時間は楽しくてあっという間でした。私は国際系のボランティアに興味があるので被災地の子供たちだけでなく世界の子供たちにも目を向けられたらいいなと思いました。このプログラムから、私は視野を広げることができました。
- いろいろなその時の話を聞くことができ、知っていることや知らないことを知ることができて、とても為になりました。また、その土地の伝統についても触れることができました。
- 横田さんをはじめ色々な方々のおかげで現状や過去について知ることができました。実際に報道されていたこと、されていなかったこと、改めて知り、災害についての恐ろしさを改めて実感できました。その中でも後ろを向かず、前を向こうという姿勢は自分も見習わなければならないと思いました。
- 被災の情報だけではなく、福島県の魅力など良い点についてのお話も聞けた点。
- 三日間で印象深かったのは、放課後児童支援員の青木理絵さんの子供にかける熱量です。一から復興に向けて様々なことが動き始める中、青木さんは児童に目を向け色々な葛藤を抱えながら子供達のためを考えてきたんだなと思いました。現在の子供支援の先生がそのような方でいっぱいだと訪問して様子を見ると感じたので、とても感動しました。
- なによりも宿が最高でした。ご飯が本当に美味しくまた福島に来てここに泊まりたい!と思いました。

*改善点

- 宿泊所の運営者の話も聞いてみたかった。
- もう少し進んで子供たちと触れ合ったり、質問をしたりできたら良かったなと思いました。次何かのボランティアに参加した時は積極的に進んだ行動ができたかなと思いました。
- 改善点は何も無いと思います。



17

東洋大学×公益財団法人スペシャルオリンピックス日本(SON)×認定NPO法人スペシャルオリンピックス日本・東京(SON・東京)ユニファイドスクールパートナーシップ協定に伴う各種活動

<p>目的</p>	<p>スポーツを通じて知的障害のある人とない人が、お互いの理解を深めること、またその結果として、共生社会の実現を促進させること。また、ユニファイドスクールの推進に取り組み、「障害の有無に関わらず、多様性を尊重する社会」の実現に貢献すること。</p>
<p>内容</p>	<p>1. SON・東京のスポーツプログラムへの参加 スポーツプログラムの参加募集・案内・申込み取りまとめをするとともに、スポーツプログラムへの参加を希望した本学学生に向け、事前研修を行った。</p> <p>2. ユニファイドワークショップ (SON ×東洋大学協定イベント) 東洋大学総合スポーツセンター(清水町)にて、学生を対象にSOの活動理念や共生社会実現への取組を学び、また、ユニファイドバスケットボールプログラムを直に視察することを通じて、知的障害のある人への理解をより深めることを目的としたワークショップを実施した。</p> <p>3. コカ・コーラ支援自販機の設置 本学白山キャンパスにSON・東京のコカ・コーラ支援自販機を設置した。購入金額の一部がSON・東京へ寄付されることとなった。</p>
<p>参加者等</p>	<p>【参加者数】</p> <p>1. SON・東京のスポーツプログラムへの参加 約 50 名</p> <p>2. ユニファイドワークショップ (SON ×東洋大学協定イベント) 約 45 名</p>

スペシャルオリンピックス日本×東洋大学 2018年度ユニファイドスクール活動報告

2018年3月6日、わが国では初の試みとなるユニファイドスクール パートナーシップ協定を学校法人東洋大学、公益財団法人スペシャルオリンピックス日本(以下SON)ならびに認定NPO法人スペシャルオリンピックス日本・東京(以下SON・東京)との間に締結しました。

ユニファイドスクールとは、幼稚園から大学までの学校と連携し、ユニファイドスポーツ®の機会を学生や学校関係者に提供することで、スポーツを通じて知的障害のある人とない人が、お互いの理解を深めること、

またその結果として、共生社会の実現を促進させることを目的として立ち上げた取り組みです。

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、障害者スポーツに対しても大きな関心が集まるなか、ユニファイドスクールの推進に取り組み、「障害の有無に関わらず、多様性を尊重する社会」の実現に貢献して参ります。

当該年は活動初年度ではありましたが、ユニファイドプログラムへの参加、東洋大学キャンパスでの協定イベントの実施、またはコカ・コーラ支援自販機の設置など現在あるリソースを最大限に活用しました。

活動概要

ユニファイドスクール協定としての活動

1. SON・東京のスポーツプログラムへの参加

開催期間：2018年4月～（通年）

会 場：競技ごとに異なる。

参加種目：ユニファイドバスケットボールを中心に参加

参加人数：東洋大学 学生 約50名(実数)

2. ユニファイドワークショップ(SON×東洋大学協定イベント)

開催期間：2018年11月18日(日) 10:15～12:00

会 場：東洋大学 清水町総合スポーツセンター（東京都板橋区清水町92-1）

実施内容：ユニファイドスポーツの説明およびユニファイドプログラムの見学

参加人数：約45名(プログラム参加者含む)

3. コカ・コーラ支援自販機の設置

設置場所：白山キャンパス六号館入口外付近

設置台数：1台

設置時期：2018年8月31日(金)

活動内容

1. スポーツプログラムでの活動

ユニファイドスクールの活動基盤であるスポーツプログラムへ参加は、東洋大学社会貢献センター（ボランティア支援室）を中心に募集・案内を行いました。参加を希望した学生は、ボランティア支援室のコーディネーターによる事前の研修会を受講した上で、ユニファイドプログラムおよびトラディショナルプログラムにパートナー・ボランティアとして参加しました。また、10月28日、11月18日は東洋大学総合スポーツセンターの体育館にてユニファイドバスケットボールのプログラムを実施しました。

SO活動を通して初めて知的障害のある人と接した学生からの感想

①「ユニファイドスポーツを通して共に楽しむことができるのは素晴らしい体験だった」

②「障害のある人がこんなにも高いポテンシャルをもっていることに驚いた」

↓参加した学生の体験レポート

<http://www.toyo.ac.jp/social-partnership/csc/unified/activity/353027/>

2. ユニファイドワークショップ(SON×東洋大学協定イベント)

東洋大学総合スポーツセンターにて、学生を対象にSOの活動理念や共生社会実現への取組を学び、また、

ユニファイドバスケットボールプログラムを直に視察することを通じて、知的障害のある人への理解をより深めることを目的としたワークショップを実施しました。

SOを認知している学生は少なかったものの、参加者からは「ぜひパートナーとしてアスリートと共にスポーツをしてみたい」や「今まで知らなかった分野を知ることができていい機会だった」との感想がありました。



ユニファイドワークショップの様子

3. コカ・コーラ支援自販機の設置

8月31日付で白山キャンパスにSON・東京のコカ・コーラ支援自販機が設置されました。購入金額の一部がSON・東京へ寄付されます。



設置されたコカ・コーラ支援自販機

18

もし、大学にいて大地震が発生したら? ～首都直下型地震に備える! 東洋大学宿泊サバイバル体験～

開催日時	2018年12月1日(土) 13:00 ~ 2日(日) 12:30 (1泊2日)
開催場所	東洋大学 白山キャンパス <ul style="list-style-type: none"> ● 普通救命講習: 4号館体育館 メインアリーナ ● 煙体験: 白山キャンパス キャンパスプラザ ● 起振車体験: 白山キャンパス キャンパスプラザ ● 宿泊サバイバル体験、避難所運営ゲーム HUG 会場: 4号館 4B14 教室
目的	<ul style="list-style-type: none"> ● 参加者の防災・減災のための備えの意識の向上。 ● 防災・減災のために自発的に行動できる学生リーダーの育成。 ● 東洋大学の災害時対応について理解すること。 ● 東洋大学白山キャンパスにおける、大規模地震時の行動についての動きを実体験し、実際の場面でスムーズに動けるようになること。 <p>※ 2020年東京オリンピック・パラリンピックの、主に都市ボランティアとして関わる人に向けた、防災ボランティア活動経験との1つとしても想定する。</p>
内容	<p>はじめに普通救命講習を実施し、災害時の応急対応としての基礎的な知識と技能を修得します。</p> <p>その上で、実際に大規模地震が発生し、交通機関がストップしているという状況を想定し、キャンパス内に留まり発災直後の状況を追体験することで、実際の場面でどのように行動するか、その時に向けてどのような備えをするべきかということについて学びます。併せて、災害時に適切に行動できる学生防災リーダーの育成を目指します。</p> <p>13:00 ~ 14:00 煙体験、起振車体験 (待ち時間等、適宜休憩)、普通救命講習受付</p> <p>14:15 ~ 16:15 普通救命講習</p> <p>17:30 ~ 18:00 オリエンテーション、参加者自己紹介</p> <p>18:00 ~ 19:30 【フィールドワーク】 東洋大学白山キャンパスにおける、災害時対応を学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生生活ハンドブック P145-147 の内容の共有 ・ 白山キャンパスの防災備蓄品に関する情報共有 <p>19:30 ~ 21:30 【体験プログラム】グループに分かれ、以下の作業を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 夕食づくり (調理不要の防災食の準備) ・ 簡易トイレづくり ・ 就寝スペースの準備 <p>22:00 【体験プログラム】就寝</p>

内 容	<p>7:30～ 9:00 【体験プログラム】グループに分かれ、以下の作業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝食づくり（調理不要の防災食の準備。前日に支給される食糧の残りを使用） ・簡易トイレの撤収 ・就寝スペースの撤収 <p>9:00～ 11:00 【ワークショップ】避難所運営ゲーム HUG</p> <p>11:00～ 11:15 休憩</p> <p>11:15～ 12:20 【ワークショップ】ふりかえり</p> <p>2日間のプログラムを通じて感じたこと、学んだこと、これから心掛けていこうと考えたことなどを互いに共有。大学の防災対応上の到達と課題を、参加者の視点で可視化する。</p> <p>12:20～ 12:30 まとめ</p>
参加者等	<ul style="list-style-type: none"> ● 運営に関わった学生：原口七海さん（ライフデザイン学部生活支援学科4年）、東洋大学IVUSA ● 宮崎 賢哉氏（災害救援ボランティア推進委員会 災害支援・防災教育コーディネーター／社会福祉士） <p>【参加者数】</p> <p>第1部：起振車・煙体験ハウス体験会 33名（本学学生18名、本学教職員1名、一般14名）</p> <p>第2部：普通救命講習会 5名</p> <p>第3部：宿泊サバイバル体験 13名</p> <p>第4部：避難所運営ゲームHUG 12名</p>

「もし、大学にいて大地震が発生したら？～首都直下型地震に備える！東洋大学宿泊サバイバル体験～」実施報告

12月1日（土）から2日（日）にかけ、「もし、大学にいて大地震が発生したら？～首都直下型地震に備える！東洋大学宿泊サバイバル体験～（以下、「宿泊サバイバル体験」と称します）が実施されました。

この企画は、今後30年以内に70%の確率で発生すると言われており、いわゆる首都直下型地震の発生を想定し、大学で帰宅困難となったと仮定。実際に大学に宿泊することでその状況を追体験することで、災害時にどのような行動が求められるのかを考え、行動のきっかけとすることを目的に開催したもので、以下の4部構成で実施しました。

※本企画は、東洋大学課外活動育成会の支援のもと実施されました。

○ 第1部：起振車・煙体験ハウス体験会

- 日時：12月1日（土）13:00～14:00
- 会場：東洋大学キャンパスプラザ（4号館前）
- 協力：文京区
- 参加者数：33名（本学学生18名、本学教職員1名、一般14名）

文京区のご協力をいただき、震度7までの揺れを体験できる起振車と、火災の状況を追体験できる煙体験ハウスをキャンパスプラザに設置し、直感的に災害を体験できる機会を提供しました。

本プログラムは、事前に宿泊サバイバル体験に申し込みを行った方以外の本学学生・教職員や、一般の方々にも体験いただきました。



○ 第 2 部 普通救命講習会

- 日時：12月1日（土）14：00～16：30
- 会場：白山キャンパス 4号館体育館アリーナ
- 協力：小石川消防署
- 参加者数：5名

普通救命講習は、心肺蘇生法、（人工呼吸、心臓マッサージのための胸骨圧迫）、AED（自動体外式除細動器）の取り扱い要領などを実習し、救命技能認定証が交付されるものです。

○ 第 3 部：宿泊サバイバル体験

- 日時：12月1日（土）17：30～2日（日）9：00
- 会場：東洋大学 4号館 4B14 教室
- 進行：宮崎 賢哉さん（災害救援・防災教育コーディネーター）
- 協力：災害救援ボランティア推進委員会、東洋大学 IVUSA
- 参加者数：13名

（本学学生、オブザーバーとして他大学学生 1 名、文京区社会福祉協議会より 1 名）

冒頭、講師の宮崎賢哉さんからの講義の中で、首都直下型地震が発生した状況を具体的にイメージするために、東日本大震災時の首都圏の状況についての映像と、首都直下型地震の被害想定に基づき製作されたシミュレーション映像を視聴しました。その上で宮崎さんより、東日本大震災の状況と今回想定されている首都直下型地震とでは状況がまるで違うので、「東日本の時に大丈夫だったから今回も大丈夫」などとは思わないことが重要、とのお話を交えながら、帰宅困難者とはどのような人のことをいうのか、被害を拡大しないため慌てて帰宅しようとせず、一晩程度は滞留することも大切になってくることのお話をいただきました。

講義ののち、以下の状況を設定し、参考資料として提示した東洋大学白山キャンパスの構内図と教室の収容人数、物資の保管状況に関する情報をもとに、参加者間で協力し合いながらミッションに挑戦しました。

状 況

- ① 冬の夕方に最大震度 7 の首都直下型地震が発生。
- ② 東洋大学構内の安全確認は終了したが、地域一体で断水が発生し、断続的な停電も起きている。
- ③ 18 時時点で、東洋大学内に 2000 名の学生、100 名の教職員、300 名の帰宅困難者が滞留。

ミッション

- ① 学生 2000 名、教職員 100 名、帰宅困難者 300 名の受け入れスペースを、大学のどこに設定するかを決定。
- ② 受け入れスペースの人数・対象（災害時要配慮者の存在の有無などを含む）に対し、今晚の時点でどの物資をいくつ配布するかを決定。
- ③ ②の物資をどの部屋からどうやって、誰が運ぶかを決め、リストにまとめる。
- ④ 実際に物資が保管されている倉庫を見学する。

次いで、実際に 1 泊大学に留まることを想定し、① 食事づくり、② 就寝スペースづくり、③ 簡易トイレづくり（簡易トイレは実際には使用せず）を、参加者で手分けしながら行いました。

途中で、計画停電を想定し、会場の電気が消えるというシークレットミッションも差し挟まれましたが、参加者は自分たちで考え、ペットボトルを使い周囲を明るく照らすなど工夫を凝らしながら、準備を進めていきました。



○ 第 4 部：避難所運営ゲーム HUG

- 日時：12月2日（日）9：00～12：30
- 会場：白山キャンパス 4号館 4B13 教室
- 進行：原口七海さん（東洋大学ライフデザイン学部 4年）
- 協力：東洋大学 IVUSA
- 参加者数：12名

避難所運営ゲーム HUG とは、避難所運営をシミュレーションできるカードゲームです。

積まれたカードを開いていくと、さまざまな家族構成の方や障害をもった人、外国人旅行者、ひきこもりの方、路上生活者やペット同伴者などが登場します。カードは大きさが設定され、避難所の図面を占有するため、限られたスペースにどのように配置するか、避難所運営者になったつもりで考えていくアクティビティです。

頭で考えたり、口にしたりすることは簡単でも、実際にその通りにしようとするほど難しいことか、追体験できるもので、グループ内でも議論が白熱していました。



参加者の感想

- 実際に受け入れた帰宅困難者や、学内の学生・教職員にどこに避難するのかを自分たちで考えるという体験プログラムが難しく、大変だなと感じた。やってみないとわからない部分もあると感じた。正解がないからこそ難しいのかなと思った。
- もっとこのようなイベントをやってほしい。楽しみながらできるので、まじめな話ばかりが苦手な自分も、防災について真剣に考えられた。

19

2018年 東洋大学・ボランティアWEEK

～人権とボランティアについて考えよう～

開催日時	2018年12月1日(土)～15日(土)
開催場所	東洋大学 各キャンパス
目的	<ul style="list-style-type: none"> ●「人権週間」は、世界人権宣言が採択された日(1947年12月10日)を「人権デー」と定め、全ての加盟国及び関係機関が、この日を祝賀する日として、人権活動を推進するための諸行事を行うよう、要請する決議を採択。 日本においては、法務省と全国人権擁護委員連合会が、同宣言が採択されたことを記念して、1949年から毎年12月10日を最終日とする1週間(12月4日から同月10日まで)を「人権週間」と定めた。世界人権宣言の趣旨及びその重要性を広く国民に訴えかけるとともに、人権尊重思想の普及高揚を図るため、全国各地においてシンポジウム、講演会、座談会、映画会等を開催するほか、テレビ・ラジオなど各種のマスメディアを利用した集中的な啓発活動を行っている。 ●いじめや体罰、児童虐待などといった子どもに関する人権問題、インターネット上の誹謗中傷、プライバシー侵害といった人権問題に加え、特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的言動、障害のある人や東日本大震災からの避難者に対する偏見や差別意識を背景として引き起こされた重篤な事案などが社会的な関心を集めている。 特に、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて、民族・国籍の違いや障害の有無等、各人が持つ様々な違いを超えて、誰もが安心して生活することのできるユニバーサル社会を築き、継続していくことが不可欠である。 ●東洋大学においては、従前から、子ども、障がい者、高齢者、被災地、国際理解、環境などをテーマにした学生によるボランティア活動が行われてきていたが、学生による活動をさらにサポートすることを目的に、2017年4月に「東洋大学ボランティア支援室」を設置した。多種多様なボランティア活動があるが、学生自身の成長につながるとともに、どれも社会をより良くするための活動である。とともに、ボランティア活動を通じて、人や社会とのつながりを感じ取る機会となっている。 ●そこで、東洋大学ボランティア支援室は、学生によるボランティア活動を広くアピールするとともに、ボランティア活動の根底には「人権尊重」があることを改めて自覚すること、「人権」に関する様々な取り組みを知ることを中心に、「人権週間」を含む15日間の間に、「人権尊重」に関する1：講義・シンポジウム、2：映画会、3：学生企画、4：展示などを行い、学内で「人権尊重」について考える機会を設ける

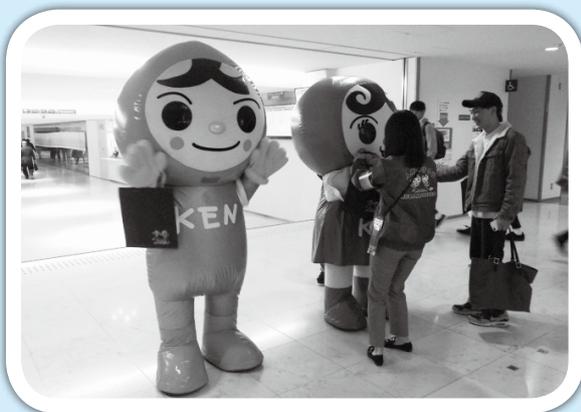
内 容	期間中、各キャンパスにおいて、講義・シンポジウム、映画会、展示などを行った。 ※法務省、東京法務局、東京人権擁護委員協議会が後援	
	12/5	【白山・映画上映】『くちづけ』 協力：NPO法人しあわせなみだ
	12/6	【朝霞・講演会】「障がいのある子どもの子育てを通して想うこと」 講師：住田 貴子 氏 (NPO法人なかよしねっと・子育て支援センター 施設長)
	12/7	【白山・講演会】「ロヒンギャ問題における人権課題～難民キャンプの事例から」 講師：日下部 尚徳氏 (東京外国語大学講師)
	12/7	【板倉・講演会】「着床前診断・出生前診断からゲノム医療の技術の最前線」 講師：桜庭 喜行 氏 (Varinos株式会社)
	12/11	【白山・映画上映】『性別が、ない！ インターセックス漫画家のクィアな日々』
	12/11	【白山・講演会】「病院にある学校・学級の子どもたちの今」 講師：副島 賢和氏 (昭和大学大学院保健医療学研究科 准教授)
	12/11	【白山・映画鑑賞会】『私はマララ』
	12/11	【白山・ボラカフェ】「震災から7年9ヶ月、岩手のヒト・モノ・コト、そして子どもたち」
	12/12	【白山・販売会】 福島県いわき市の食とフェアトレードでつながる
	12/13	【白山・ボラカフェ】「僕の『Tokyo2020』へのかかわり方」
	12/1～ 12/15	【白山・展示会】 人権に関するパネル展示 「ボランティアWEEK ～人権とボランティアについて考えよう～」
	参加者等	12/5
12/6		【朝霞・講演会】「障がいのある子どもの子育てを通して想うこと」 不明
12/7		【白山・講演会】「ロヒンギャ問題における人権課題～難民キャンプの事例から」 約350名(内一般8名)
12/7		【板倉・講演会】「着床前診断・出生前診断からゲノム医療の技術の最前線」 390名
12/11		【白山・映画上映】『性別が、ない！ インターセックス漫画家のクィアな日々』 210名(内一般15名)
12/11		【白山・講演会】「病院にある学校・学級の子どもたちの今」 約200名
12/11		【白山・映画鑑賞会】『私はマララ』 約130名
12/11		【白山・ボラカフェ】「震災から7年9ヶ月、岩手のヒト・モノ・コト、そして子どもたち」 7名
12/12		【白山・販売会】 福島県いわき市の食とフェアトレードでつながる 不明
12/13		【白山・ボラカフェ】「僕の『Tokyo2020』へのかかわり方」 6名
12/1～ 12/15		【白山・展示会】 人権に関するパネル展示 「ボランティアWEEK ～人権とボランティアについて考えよう～」 不明
ボランティアWEEK 総来場者数 1,493名(内一般39名)		

ボランティアWEEK

～人権とボランティアについて考えよう～ (各種イベント報告)

- ① (白山) 映画上映『くちづけ』、座談会：12/5 (水)
- ② (朝霞) 「障がいのある子どもの子育てを通して想うこと」：12/6 (木)
- ③ (白山) 「ロヒンギャ問題における人権課題－難民キャンプの事例から」：12/7 (金)
- ④ (板倉) 「着床前診断・出生前診断からゲノム医療の技術の最前線」：12/7 (金)
- ⑤ (白山) 映画上映『性別が、ないーインターセックス漫画家のクィアな日々』 12/11 (火)
- ⑥ (白山) 「病院にある学校・学級の子どもたちの今」 12/11 (火)
- ⑦ (白山) 映画鑑賞会『わたしはマララ』：12/11 (火)
- ⑧ (白山) 東洋大学ボランティアカフェ：12/11 (火)、12/13 (木) ※ボラカフェページに掲載
- ⑨ (白山) 福島県いわき市の食とフェアトレードでつながるーフェアトレード商品販売ーコットンとオリーブ商品(福島県いわき市)の販売：12/12 (水)
- ⑩ (白山) パネル展示「ボランティアWEEK ～人権とボランティアについて考えよう～」：12/1～15

ボランティア WEEK 上記企画は、
法務省、東京法務局、東京人権擁護委員協議会の後援により実施されました。



12/5 (水)、本学にまもる君とあゆみちゃんが来てくれました！
人権啓発グッズとして、冊子や防滴スマホポーチを配ってくれました。



映画『くちづけ』

- **日 時** 12月5日(水) 14:40～18:00 (上映会/座談会)
- **会 場** 白山キャンパス 6B14教室
- **連携講義科目** 「児童福祉論B」(水・4森田先生)
- **協 力** NPO法人しあわせなみだ
- **映画上映** 『くちづけ』
- **座 談 会** 金子 磨矢子 氏 (大人の発達障害当事者のためのピアサポートNecco)
橋 謙太 氏 (NPO法人 ファザーリング・ジャパン メインマンプロジェクト)
中野 宏美 氏 (NPO法人しあわせなみだ 理事長)
- **参加人数** 約200名

知的障がい者への性暴力を取り扱った映画「くちづけ」上映ならびに、東洋大学卒業生らが登壇するシンポジウムが開催されました。映画「くちづけ」は、性暴力をきっかけに、親子が離れて暮らすことが困難になり、孤立していく様子が描かれています。またシンポジウムでは、障がい当事者ならびに障がい児を持つ親らが登壇。現在の社会は残念ながら、障がいのあることが性暴力に遭うリスクを高めることにつながっている現状を共有し、私たちにできることを考えました。

学生の感想抜粋

わたしは授業内で感想を求められた際、反射的に「かなしい映画だと思った」と口にしましたが、その後先生の話も聞き、なにが悲しかったのか改めて考えたときに、かなしいのは障害があるとかないとか、死ぬとか死なないとか、そういう単純な話ではなくもっと大きな社会に対する悲しみを漠然と感じたのだなと思い直した。

近年障がい者施設についての考え方は改められ、森の中や山の中の隔離された空間の中で生きるより、地域の中で暮らす=当たり前前の暮らしを送ることがノーマライゼーションの理念が広く普及してきたことがその背景にあるのだとわたしは信じていた。

しかし現実にはなかなか難しい。もちろんこの映画が全てではないということはわかっているが、ひまわり荘の入居者やその家族たちのように当たり前前の暮らしが、自分たちのせいではなくそのまわりの健常者たちの考え方によって叶わない人たちの方が多いのではないだろうか。

そういう社会が悲しいと思う反面、正直わたし自身もまだ偏見の目を持ってしまうことがある。電車やバスなどの公共交通機関でひとりしゃべり続けている成人男性がいたら少し離れた席に座ってしまう。いきなりつかみかかられたらどうしようか、しゃべりかけられたらどうしようか、色々考えてしまう。

ただそのわたしの考え方も大学に入って身につけた知識によって、以前に比べるとほとんど薄くなっている。なぜこの人はずっとしゃべっているのか、なぜこの人はずっと同じ場所に留まり体を揺らし続けているのか、彼らの行為の根本を理解し、理由を知ることによって漠然と感じる相手への不安がかなり軽減されている。それは障がい者に対してのみではなく、誰とコミュニケーションをとるときにおいても同じことがいえる。相手のことがわからない、はじめての相手だと漠然とした不安感を感じがちであるが、相手のことがわかればその不安感はいづれ薄れ、打ち解けることもできる。

すべての人が今すぐに障がい者に対する偏見を持たずに共生できるとは思わないが、教育のもっと早い段階で障がい者に対する知識を得られる授業を行う必要があるように思える。偏見を抱かずに受け入れられるように、それが教育の使命だと思った。

そして、福祉のあり方もまた考えさせられるところがあった。それは入居者たちとその家族との関係から、強い違和感を感じた。

例えば結婚する予定だったうーやんの妹は、ほんとうに兄を引き取り、彼を背負って暮らしていかなければならなかったのだろうか。居住費未納が続き退去が決まった島ちんの両親は、島ちんの障害者年金を受け取る権利があるのだろうか。

そもそもうーやんは妹と暮らしたがっていたため、うーやんの意見や主張が認められたと捉えることもできるだろう。じゃあうーやんを引き取る妹の意見や主張はどこにいったのだろうか。本当は兄の面倒を見続ける暮らしではなく、自分の家庭をもち自分の子供の面倒をみたかったのではないだろうか。障がいを持つ人の家族は我慢しなきゃいけない？絶対にそんなことはあってはならない。全ての人が幸せになれる

社会でなくては希望がない。ただ今の日本は少なくとも希望がある社会とは言えない。おそらく現実にもこのような問題を抱え、解決することなく踏ん張ってる人がいるからだ。

従来の配給型の福祉では、制度の狭間で生きる人、制度の対象だけでなくそれを取り巻く環境にサービスは行き渡らない。福祉の側からアプローチしていく、すなわち積極的介入を行うことによって救えなかった命は劇的に救うことができるように思える。

そのために福祉人材の確保、福利厚生充実やブラックなイメージの払拭。どんどん削減される国の福祉事業費にどうか歯止めがかかるよう願うばかりである。



【映画チラシ】

【座談会】



「障がいのある子どもの子育てを通して想うこと」

特定非営利活動法人 なかよしねっと 理事

子育て支援センターおもちゃ図書館なかよしぱあく 施設長

住田 貴子 氏

- **日 時** 12月6日(木) 14:40～16:10
- **会 場** 朝霞キャンパス 313教室
- **連携講義科目** 「障害の理解」(木曜4限 是枝先生)
- **講 師** 住田 貴子 氏 (NPO法人なかよしねっと・子育て支援センター施設長)
- **講演タイトル** 「障がいのある子どもの子育てを通して想うこと」

住田氏の講演会では、「子育て支援センター」の紹介と共に、住田氏自身が自閉症という障害特性を持つお子さんを育てられてきた中で感じられた葛藤や人権の問題について、自身の体験談を交えて紹介していただきました。

幼少期に公園に連れ出しても、走り回ってしまって、なかなか目を離すことができず、本人の発散も必要なため、人目を避けて公園に通っていたこと。小学校の学校選択に際して、地域の子どもと一緒に学校に通いたいという強い思いから、小学校の特別支援学級を選択したこと。そうした選択をしたことで、近所に出かけると、今でも本人のことをよく覚えてくれている多くの人たちから声をかけられ、安心して地域生活を送れていることなどが語られました。最後に、兄弟の想いとして、妹さんのお兄さんに対する素直な想いが感想文として紹介されました。

障害のある子どもを育てている保護者の方の話は、初めて聞いたという学生がほとんどでしたが、今回の講演会を通して、障害のある人の人権やその家族の方の葛藤などについて学ぶ良い機会となりました。

講演会に参加した生活支援学科生活支援学専攻1年生の感想文の抜粋です。

Aさん

障害があるなしに関係なく、地域理解が重要だと思いました。私の弟も自閉症と診断され、家でよく大声を出したり、暴れまわったり、現在中学2年生で力も強く、よく蹴られ、喧嘩もします。私は親の立場で障害と向き合っていないので、親の不安や、苦勞を聞いたことがありません。住田さんの思っていたことを私の母も思っていたのかと考えると、親の存在はとても大きいものだと感じました。障害があるから外に出られないと思っている人は、まだまだたくさんいると思います。私も今回初めて「なかよしぱあく」のような場所があることを知ったので、多くの人に知ってほしいと思いました。障害と向き合うには、地域の支えと協力、そして理解が大切だと思いました。

Bさん

私は住田さんの話を聞いて、公園に行くにも周囲の目が気になり、自分も常に緊張状態だったということが印象に残った。他の親子が10時くらいから来るので、その前に行くようにするなど、なるべく周囲から子どもを離そうとし、避けるようにしていたことが、住田さんの心にも負担になっていたのかなと感じた。障害のある人のライフステージは、無い人に比べ、限られていることが分かった。そのことで、もっとこうしたら障害のある人への理解が深まり、地域で協力していけるか考えていきたいと思った。大変な時に支えてもらったお母さんが、また若いお母さんが悩んでいるときに必ずフォローする側に回ってくれるというような話を聞いて、素敵だなと思った。

Cさん

私の中学校では「10組さん」と呼ばれる特別支援学級がありました。合唱コンクールや体育祭で、そのクラス、誰よりも一生懸命に行事に参加している姿を3年間ずっと見てきました。これだけでも、私にとっては十分恵まれた環境だったと思います。しかし、今思えば、そうした環境の中で、もっと10組さんの人たちと関わることができたら良かったのではないかと思います。自分が周囲の人にしてもらったことを、今度は自分が周囲の人に返していくという助け合いの輪が「なかよし」を中心に広がっているのだなと感じました。

Dさん

住田さんが育児でどんなことがあったのか、実際にあったことを聞いてとても考えさせられました。障がいという条件があるだけで、他のお子さんと同じように楽しい生活、その子らしく生きていけないということとはあってはならないと思います。これからも「なかよし」を通じて、障がいを持つお子さん、そしてその家族が普通に暮らし、その中で幸せを見つけられるなら、と思います。焦らず、人と関わりを持つ中で、その子のペースでその子らしい成長を見ることができると素晴らしい場所だと思いました。

Eさん

子育て支援センターや障がい児学童保育などの存在を知らなかった。いかに普通児と障がいを持っている児童の交流がないかを思い知った。「理解ある社会」や「心のバリアフリー」と言っているが、交流が少ないままだと距離は縮まらないのかなと思った。障がいを持っている人が地域で生活していくには、どのような支援を行い、家族の負担を減らすことができるのか、社会福祉士としてできることを考えていきたいと思った。

「ロヒンギャ問題における人権課題 ー難民キャンプの事例から」

- 日 時 12月7日(金) 13:00～14:30
- 会 場 白山キャンパス 8B11教室
- 連携講義科目 『文化人類学B』（金曜3限 箕曲先生）
- 講 師 日下部 尚徳 氏（東京外国語大学 講師）
- 講演タイトル 「ロヒンギャ問題における人権課題 ー難民キャンプの事例から」
- 参加人数 約350名

『文化人類学B』（金曜3限 箕曲先生）、ボランティア支援室 コラボ企画「ボランティア WEEK ～人権とボランティアについて考えよう～」に東京外国語大学 講師 日下部 尚徳 氏をお招きし、ご講演いただきました。日下部先生は、国際協力論、南アジア地域研究、開発社会学の視座から、バングラデシュの社会経済動向や貧困・災害などに関する調査研究を行っています。

講演では、そもそもロヒンギャと呼ばれる人たちはどういう人たちなのかといった基礎的は話から、なぜ彼らは差別を受けているのかといった、多くの人たちが知りたい話まで、幅広くお話いただきました。とりわけ何度か現地を訪れている日下部先生でしか話せない、難民の人たちの日常生活の様子など、興味深い話を聞けました。現地では、教育を受けられていない子どもが数多くいること、井戸水の不足により不衛生な水を使用せざるを得ないこと、ホスト社会との軋轢など、数多くの課題を抱えていることが、現地で撮影された貴重な写真とともに説明されました。

学生の感想抜粋

●今日の講演はとても心に深く刺さるものが沢山ありました。難民問題はこれまではただ漠然と、あー大変そうだなあと、深く考えたことがなかったのですが、日下部先生のお話を聞いて、想像以上に難民問題とは宗教、政治などが複雑に絡み合い、沢山の問題が付随してくる、非常に深刻な問題であると思い知りました。特に教育や就労の問題については、教育をただ施せばいい訳ではなくて、なんの言語を教えるかによって政治問題にも繋がってしまったり、生きるための就労はコソコソと隠しながらしなくてはならなかったりなど、こうすれば、解決出来るという具体的な案が出てないことに驚くと同時に、なんだか、虚しさというか、情けなさも感じました。

●難民や、難民支援について全くの知識がなかったわけではありませんが、今回の講演をきいて何も知らなかったのだと思われました。

特に衝撃的だったのは、食べ物の支援の部分です。難民の子供たちが食料不足で亡くなってしまおうような話はよく聞きます。しかしそこで食料のみを物資として支援したところで結局調理ができないというのは私には無い視点でした。その点で私が驚いたということは、支援される側からものを見られていないということなのだろうと思います。日本は自然災害が多く、被災者の支援なども多くされています。そういったところでも、私たちから見ると行き届いているようで実際には行き届いてない支援が沢山あったのだろうと思います。国内外に関わらず「行き届いた支援」とは何か考えることが大切なのだと今回の講義で考えました。

●ロヒンギャの人々について以前ニュースで少しだけ聞いたことがあり興味があったので、深く知れて興味深かった。ロヒンギャ難民の問題はすべて負の連鎖が起こってしまっているなと感じた。無人島に移す計画を立てているというのも、根幹からの問題解決にはならないだろうなと思う。多くの経験をしたロヒンギャの人々がどう感じているか私たちはわからないけれど、きっとミャンマーに戻りたいと思う人は少ないと感じる。そして、これらの問題がもうあまり日本ではニュースにならず、注目されていないということがそもそもの問題だと感じた。私自身もロヒンギャ難民の問題を忘れてしまっていたし、関心を持っていなかった。関心を持つだけではすぐに解決できるわけではないと思うが、関心を持つことから始まることは何かあるのではないかと感じる。日本は難民受け入れの問題について、とても世界からマイナスなイメージを持たれてしまっているが、多くの日本人が関心を持ち問題視することでそのイメージも払拭される機会ができるのではないかと感じる。私たちの若い世代がもっと世界で起こる難問問題について考えていかないといけないと思う。

●難民の話は日本ではあまり馴染みがないので大変興味深かったです。教育や支援に国同士の関係性が絡んでいてすごくややこしいことになっていて、マドラサのことや難民の人が働く



こともバングラデシュ政府は黙認で、あいまいなことしかできない、とても危なっかしい問題なんだなと思いました。

私としては、教育で扱う言語は国際補助語を主に勉強した方がいいのではないかと思います。なぜなら、ビルマ語もベンガル語もそれだけを勉強すれば、そこにしか居ることができないからです。英語やフランス語であればある程度世界で通じます。

また、そもそもの差別のことですが、自分は差別しているという気はないのですが、どうしてもヒジャブを身につけた女性が歩いているのを見るとISのテロを思い出して身構えてしまいます。(おしゃれヒジャブもあって、生地や色に合わせてブローチをつけたりメイクを変えたりして可愛いファッションになっていることもあるらしいです)

- 地図で見てわかるほどに土地や村が焼き払われていて、あまりに残酷だと思いました。各立場の人たちの事情が複雑に絡み合っていて、一概に誰が悪いとは言い切れない面もあるはずですが、それでも非人道的な行為は許せない。

在日コリアンに関する別の授業を履修しています。ロヒンギャの問題を分析的に批判する日本人は多くいると思いますが、日本にも韓国との人権の問題は存在しています。当事者にならないと分からない事情があるからこそ、お互いの国が客観的に「人権」について今一度考え直すべきだと思います。

私は心理学部なので、人が差別をする心理、当事者になると冷静さを失う理由、見て見ぬ振りをする心理状態などについて今後学んでいきたいと思いました。

「着床前診断・出生前診断からゲノム医療の技術の最前線」

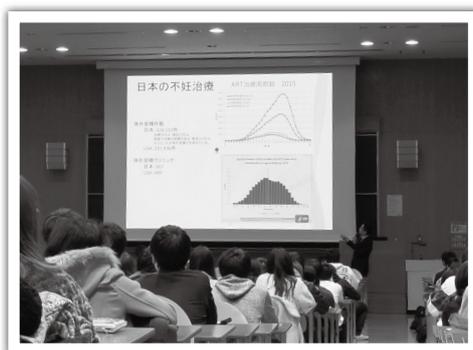
- 日 時 2018年12月7日(金) 15:00～16:30
- 会 場 板倉キャンパス 1102教室
- 連携講義科目 現代生物学(生命科学部/担当教員・藤村真)
- 講 師 桜庭喜行氏(Varinos株式会社)
- 講演タイトル 「着床前診断・出生前診断からゲノム医療の技術の最前線」
- 参加人数 390名

ゲノム検査のベンチャー企業であるVarinos株式会社・代表取締役の桜庭喜行氏を講師に迎えて、「着床前診断・出生前診断からゲノム医療の技術の最前線」について講演をいただきました。ヒトゲノム(設計図)は2001年に国際プロジェクトとして解読されました。その後開発された次世代シーケンサー技術は、解析スピードとコストに革命を起こし、個人のゲノム情報を解読して医療に応用するゲノム医療の世界を開きました。講演では、日本における高齢出産の増加と不妊治療の現状、ゲノム医療の最前線、ベンチャー企業設立の経緯などについて解説をしていただきました。一方で、ゲノム情報は究極の個人情報であり、特に生殖医療分野では生命倫理の問題があります。不妊治療に悩む患者とその家族、医療従事者、マスコミ、一般人、あるいは国内外で、ゲノム医療に対する考え方は、それぞれの立場で微妙に異なっていることを具体例を挙げながら紹介していただきました。聴講した学生にとっては、ゲノム医療技術の最前線を理解するとともに、生命倫理について改めて深く考える機会となりました。

学生の声(講演を聞いて印象に残ったこと)

- ゲノム配列だけで、生まれてくる子供の顔や頭の良さがわかる事に驚いた。

- 遺伝子解析は倫理を伴うものであり、使い次第で良いことになったり、悪いことになったりする。より良く利用するには正しい知識を得る必要があることが分かった。
- 技術が進歩することで、倫理的問題が発生するということが印象的だった。
- 命についてももう一度しっかり考え直した方がいいと思った。生命科学を何のために勉強するべきかの指標になりました。
- 体外受精で生まれている子がたくさんいることを知って驚きました。
- 出生前診断によって救える命もあるということ。
- 出産前診断を受ける人は殆ど墮胎することを前提に診断に来ている。
- 倫理の問題がなくなることはない。常に向き合う必要がある。
- 障害を持った子供が生まれて来る可能性を知れてしまう時代であること。
- 妊娠しにくいひとは卵巣の環境を整えることが大事なんだなと思いました。
- 子宮内フローラが妊娠に大きく関わっていて、不妊に対しての研究が進んでいることが印象的でした。
- 女性として、不妊治療の話はとても勉強になりました。
- 日本の高齢出産率が、海外より遥かに高かったこと。
- 女性の卵子が年齢とともに劣化していくことは知っていましたが、予想よりも早いことに驚きました。世の中が変わっていく中で、こういったライフスタイルで生きていくか考えさせられました。
- 体外受精は現代では一般的に人々に伝わっているが、体外受精が出来た頃は批判的な印象だったことを知った。
- 繰り返される流産は、受精胚の染色体異常が主な原因として知られているが、これの対処が日本ではあまり普及していない。
- 胚を人為的に選んでしまうのは、いけないのかもしれないと思った。
- 体外受精の受精卵を最もいいものを選別することも胚培養士の仕事だと言った。
- 沢山ある細胞からひとつを選別するのは大変だと思った。
- 桜庭先生の立ち上げた事業が日本唯一であり、世の中のためそして人のために役立つことをしたい気持ちがすごく伝わりました。
- 技術の最先端に立つ方の一般の倫理や法律に対する悩みなどが聴けて良かった。
- 人権の講演にありがちな、ある問題に対して良い悪いという話ではなく、ある技術についての生物学的な話とそれに対する世間の印象についての話があった。問題に対する考えというより、技術の普及のための課題といった話で、より身近に感じられた。



映画『性別が、ない—インターセックス漫画家のフィアな日々』

- **日 時** 12月11日(火) 13:00～14:30
- **会 場** 白山キャンパス 井上円了ホール
- **連携講義科目** 『共生社会学B』(火曜3限 井沢先生)
- **映画鑑賞** 『性別が、ない—インターセックス漫画家のフィアな日々』
- **参加人数** 約200名

12月11日(火)、井上円了ホールを会場に、『性別が、ない—インターセックス漫画家のフィアな日々』の上映会がおこなわれた。

昨今、LGBTとよばれる人たちをふくむ、いわゆるセクシュアル・マイノリティ(性的少数者)の人権をめぐる問題が注目をされている。この映画でももに取り扱われている「インターセックス」とは医学的には性分化疾患(DSD)と呼ばれる人々であり、男女どちらかで統一される性器や性腺、染色体の性別があいまいだったり一致しなかったりする疾患の人たちである。性自認は男・女とはっきりしている人もいるが、どちらでもない「中性」を選ぶ人もいる。

当日は約200名の学生また市民の方々が参加をした。この映画を観た学生の感想は、「まず第一に、こういった立場の人たちがいるということ自体を知らなかった」「こうした映画を観て、きちんと知識を持っておかないと、自分が差別をする側になってしまうかねない」といったものも多く、セクシュアル・マイノリティの人権を考える上でふさわしい上映会であったと考えられる。



「病院にある学校・学級の子どもたちの今」

- **日 時** 2018年12月11日(火) 13:00～14:30
- **会 場** 白山キャンパス 6B14教室
- **連携講義科目** 『病弱児の指導法』(火曜3限・滝川先生)
- **講 師** 副島 賢和氏(昭和大学大学院保健医療学研究科 准教授)
- **講演タイトル** 「病院にある学校・学級の子どもたちの今」
- **参加人数** 約200名

『病弱児の指導法』(火3・滝川国芳先生)、ボランティア支援室 コラボ企画「ボランティア WEEK～人権とボランティアについて考えよう～」に昭和大学大学院保健医療学研究科 准教授 副島賢和氏をお招きし、ご講演いただきました。副島先生は、院内学級の名物教師。赤い鼻をつけて子供たちと接する姿が注目を集め、日本テ

レビのドラマ「赤鼻のセンセイ」のモチーフにもなりました。また、NHK プロフェッショナル仕事の流儀にもご出演されました。現在は、「さいかち学級」の先生以外にも全国を飛び回りご講演活動もされています。

副島先生は、東京・品川区の昭和大学病院入院棟の最上階にある院内学級「さいかち学級」の先生です。院内学級とは、病気やけがなどの理由で学校に通えない子どもたちのために、病院の中で授業を行う小学校の教室です。副島先生は、病気の子どもたちの中には、病気になった自分を責めたり、否定的になってしまったりする子が多い、と言います。自分の病気のために家族に迷惑をかけていると思い悩んでしまう子どもたちの心を察知し、「もっと自分を大切にしていよ」というメッセージを送り続け、入院中の心の負担を抱えた子どもたちに、笑顔を取り戻すために、寄り添い励ましながらか病院内で教育を続けています。

今回の講演会を聞いた本学の多くの学生は、将来、教員を目指している学生です。非常に熱心に時に涙しながら、副島先生のご講演に聞き入っていました。受講した学生の中には、「副島先生は、小学2年生の時の担任の先生だった。」「小学校の時に入院した時、さいかち学級で副島先生にお世話になった。」という学生もおり、色々なご縁を感じたご講演となりました。

学生の感想抜粋

- 聞いている間、ずっと心臓がばくばく鳴っていました。マイクなしでまっすぐ届く副島先生の声から、先生の思いが溢れるほど伝わってきました。約80分間、ここまで身体ごと引き込まれて、引きずられて、ぎゅーっと心をつままれるような気分になり、いろいろな感情が重くのしかかってくる講演を聞いたのは初めてです。授業後すぐに立ち上がれず、脱け殻のようにどっと疲れてしまったのがこの授業時間の貴重さ、濃さを実感させてくれました。病気と闘う子どもにとって、大人や周りの人の良かれと思った言葉は、いかに無責任な意味を持つてしまうのかを深く思い知りました。
「今はゆっくり休んでね、治ったらみんなと一緒に勉強しよう。」こんな言葉は、病気と戦っている子にとっては「みんなとは違う」ということを実感させてしまう。風邪で数日休むだけで、みんなと出来る差に怯え、自分がいない間に友達関係も変わってしまうのでは？などと、めまぐるしく変化する学校内への不安に駆られていた時期を思い出しました。だから、「みんなと同じことしたいよ！」この一言が深く刺さりました。小学生、中学生、高校生として生きる子にとって、「学校でみんなと同じ勉強をすること」は大事な生活の一部であって、みんなが進めることの代表格であって、大人が勝手に取り上げてしまてはいけません。そう理解できた気がします。
- 副島先生の講演を聞いて、とても心に響きました。副島先生自身、子どものことを誰よりも考えていて、病院で入院する子どもたちを誰よりも理解しようとされていて、子どもたちにとって、副島先生との出会いは大きな財産になるのではないかと感じました。さいかち学級に通ってくる子どもたちは平均で10日ということにも驚きました。そんな短期間で、あれだけの信頼関係を作り、自己肯定感を高めるために、一人一人に寄り添える副島先生をととても尊敬します。本当に凄いなと思いました。病院にいる子どもたちは、家族に申し訳なく思い自己肯定感が低くなってしまふことも今まで考えたことが無かったので、より子どもの心理を深く理解したいと思ったのと同時に、とても考えさせられました。さいかち学級では本来の子どもの姿に戻してあげる、という副島先生の働きかけも素晴らしいと思いました。そんなさいかち学級では、子どもの居場所となり、精神的安定に繋がって、子どもたちがそれぞれ希望が持てると思います。こんなにも、子どもたちのことを考え、全力でサポートされている副島先生のお話を聞いて、本当に良かったです。私が大学に入って、一番心に響いた授業でした。これまでの病弱児の指導法で滝川先生の話聞いた上で、実際の現場で働く副島先生の話聞くことができ、より学びを深められました。貴重な講演会を開いて頂き、ありがとうございました。
- 副島先生の講演は、生徒の気持ちに寄り添っていてとても刺激的でした。講演内容は院内学級のことでしたが、副島先生が最初に自分の文化に当てはめて考えてくださいと仰っていたため、自分の生活にも当てはめて考えることができました。院内学級のリアルな現実も聴くことができ、残酷なお話もありましたが、このような貴重なお話を聴けて良かったです。これから始まる特別支援学校往還型教育実習や、教師になったときなどにこの講演で学んだことを最大限活かしていきたいと思いました。

●どの先生もできるわかるの社会的自尊感情を求めがちである。しかし病気を抱えている子どもたちは自分を批判的に捉えており、副島先生もおっしゃっていたように自分を自分として持つ基本的自尊感情を備えることが、今を生きるそしてある意味子どもになるのだと痛感した。



●今回の講演は非常に有意義なものでした。普段はなかなか目にしない院内学級がテーマとなっていて、その中で病気と闘いながら学校に通う児童生徒の実



態や心理を説明してくださいました。生徒の行動一つ一つに、通常学級の先生としてではなく、院内学級の先生ならではの視点や感じ方をもっていただいているように思います。講演の中で「あるはずのないものが無い時にしっかり反応できるか」という言葉が印象に残っています。生徒の些細な行動に気づけるかが、その生徒の理解や信頼関係に繋がってくるのが分かりました。

●自分の周りの子供たちに対しての接し方を考えさせられました。子供に対して上からの目線で接していましたが、子供もしっかりと考えを持っているのだと改めて教えていただけてとても良かったです。子供も大人も行動や感情の裏にあるものをくみ取って接していきたいと思いました。本当にとても貴重な経験でした。ありがとうございます。

●ずっと楽しみにしていた講演で本当に感動し、勉強になりました。自分に置き換えながらお話を聞いても、先生の実体験だと思って話を聞いても心が苦しくなり、自分が今後先生になったら何ができるのか、自分が実習生として今何ができるのが考えさせられました。このような機会をいただけたことに本当に感謝です。

『わたしはマララ』を見て考える

- **日 時** 12月11日(火) 19:55～21:25
- **会 場** 白山キャンパス 1305教室
- **連携講義科目** 『宗教と社会』（火曜7限 子島先生）
- **映画鑑賞** 『わたしはマララ』
- **参加人数** 約130名

社会貢献センター（ボランティア支援室）の「ボランティアWEEK～人権とボランティアについて考えよう～」の一環として、12月11日(火) 7限「宗教と社会」の時間に、『わたしはマララ』（2015年）を鑑賞しました。「宗教と社会」を担当するのは子島進教授（国際学部）で、この講義ではイスラーム社会におけるNGO／ボラ

ンティア活動を中心テーマとして扱っています。講義には一般学生も加わり、約100名の参加となりました。

マララ・ユースフザイの名前は、誰もがどこかで聞いたことがあるでしょう。女子教育の重要性を訴えて、ノーベル平和賞(2014年)を史上最年少の17才で受賞したムスリマ(女性のイスラーム教徒。男性はムスリム)です。ドキュメンタリーは、二つの部分で構成されています。一つは、彼女の生まれ故郷であるスワートでタリバンが影響力を増し、やがて女子教育を否定するようになる経緯です。マララさんとその父親(自分で学校を創設し、校長を務めている)は、他人に自分たちの「イスラーム」を押し付けてくるターリバーンに、敢然と異議申し立てを行います。その結果、マララは銃撃され、瀕死の重傷を負います。

ドキュメンタリーのもう一つの部分は、銃撃後のイギリスでの生活です。普通の高校生と、世界を飛び回る人権活動家としてのマララの様子を活写しています。

鑑賞後には、次のような声が参加学生から寄せられました。

学生の感想抜粋

- 世界には学校に行きたくても行けない人々がいるのに、大学の授業を簡単にサボってしまう僕たち。食べ物に困っている人がいるのに、食事を残す僕たち。
当たり前のこととありがたいことを実感できていない自分たちも不幸な人たちなのかもしれない。など、様々な観点から自分の立場を踏まえて考えさせられました。
- 教育を受け、のびのびと生活をし、成長していくべき子どもたちが、死の恐怖に怯えながら学校に通うことなど絶対にあってはならないことである。この恐怖に勇敢に立ち向かったマララに心を打たれたし、宗教心を利用して暴力で権力を得ようとするターリバーンのような組織は存在してはならないと感じた。
- 私とおなじくらいの年齢の方が命のリスクも構わずにここまで言えることは芯が強いのだと思いました。もちろん、とても真似など出来ません。彼女の発言は世界に大きな影響を与え、多くの教育の受けられない若い人を救いました。ノーベル平和賞にふさわしい名声と功績だと思いました。
- 自分と年齢の変わらない女の子が、自分とは全然違う世界を見て、そして自分が対面したことの無い問題と戦っている姿に胸が締め付けられる思いでした。私は生まれが日本と言うだけで幼稚園から今の大学に至るまで当然の権利として学校に通い自分の好きな分野を学び、そして自分の意思で就職するつもりです。同じ性別なのに、近い年齢なのに。私が今日、『わたしはマララ』を通してパキスタンの女子教育の現状を学んだように、彼女達が日本の私たちの教育現場の様子を見たらどう感じるのかとても気になりました。
- こんな17歳の女性はこの世の中にいるのかと思うくらい、逞しく強く勇ましい人だと思った。マ



ララさんが抱えている恐怖、悲しみ、苦しみは計り知れないと思うのに、世界に問題を訴えかける。心の底から。圧巻で食い入るように映像を見た。勉強すると殺される世の中は日本では考えられないし、想像もつかない。人々を許し、寛容な心を持つことがイスラム教の精神であるのにそれをはき違える人が様々あり、過激派のイメージが強くなってしまったことを日本人ながら悲しく思ってしまった。マララさんはパキスタンの希望なのだなと思った。

福島県いわき市の食とフェアトレードでつながる —フェアトレード商品販売— コットンとオリーブ商品(福島県いわき市)の販売

- 日 時 12月12日(水) 10:30～17:00
- 場 所 白山キャンパス 6号館 学生部前通路

社会貢献センター(ボランティア支援室)の「ボランティアWEEK～人権とボランティアについて考えよう～」の一環として、福島県いわき市から取り寄せたコットンとオリーブ関連の商品を販売しました。

ボランティアで商品を販売したのは、「ボランティア実習Ⅰ」(担当:子島進教授、国際学部)を受講した学生たちです。この講義では、10月末に二泊三日の日程でいわき市を訪問し、農作業ボランティアを行いました。原発事故後、いわき市の農家は放射線をめぐるさまざまな困難に直面しました。危機的な状況を打開しようと始まったのが、コットンとオリーブのプロジェクトです。

当日は、多くの教職員や学生が激励の声とともに商品を購入してくれたことで、4万3,000円の売り上げとなりました。経費を引いた利益の5,000円をふよう土2100(子育て支援、障がい者支援のNPO)に寄付しました。

関連HP

ふくしまオーガニックコットンプロジェクト <http://www.iwaki-otentosun.jp/cotton/>

いわきオリーブプロジェクト <http://iwaki-olive.com/>

ふよう土2100 <https://www.npo-fuyodo2100.org/>

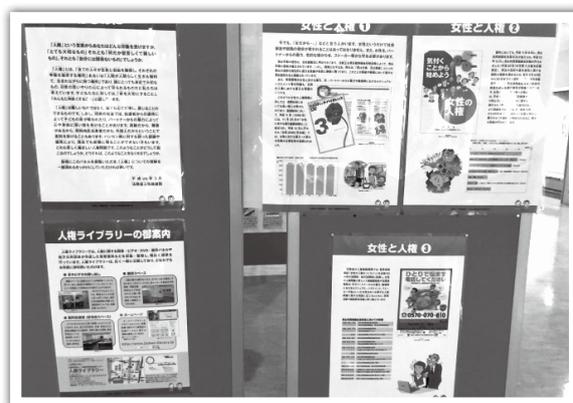
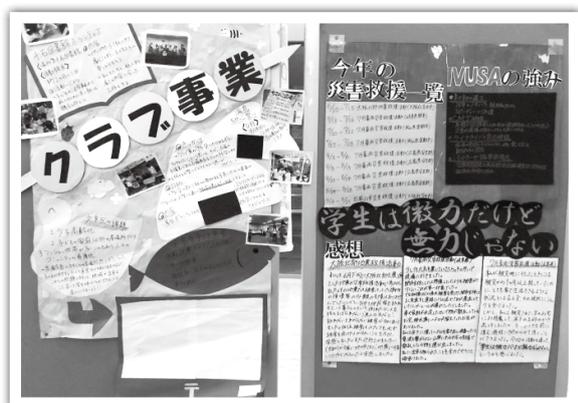


【パネル展示会】

ボランティアWEEK ～人権とボランティアについて考えよう～

- 日 時 12月1日(土) ～ 15日(土)
- 場 所 白山キャンパス 6号館 3階

学生によるボランティア活動を広くアピールするとともに、ボランティア活動の根底には「人権尊重」があることを改めて自覚すること、「人権」に関する様々な取り組みを知ることを目的として、東京法務局協力による「人権」に関するパネル展示、東洋大学におけるボランティアサークルの活動紹介パネル展示を行いました。

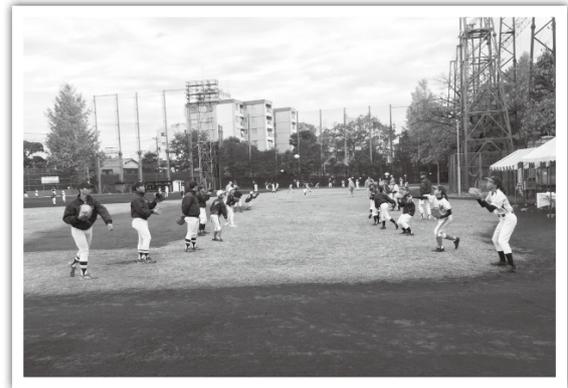


20 中野区 少年少女野球教室

開催日時	2018年12月2日(日) 9:00～16:00
開催場所	中野区立哲学堂公園 野球場 (〒165-0024 東京都中野区松が丘1-34-28)
目的	哲学堂公園のある中野区との地域連携および野球部の社会貢献活動を支援する。
内容	<p>少年少女野球教室は2009年4月に哲学堂公園が東京都の名勝指定を受けたことに伴い、東洋大学と中野区の連携事業を計画し、同年より開始された。</p> <p>野球部が中野区と調整しながら野球教室を実施し、ボランティア支援室は野球部への一部費用援助を行った。</p> <p>【午前の部】 9:25～11:30</p> <ul style="list-style-type: none"> ●東洋大学硬式野球部員による実技指導 ●赤、青、黄、緑の4チームに分かれ、東洋大学硬式野球部員の指導によるウォーミングアップ、キャッチボールやバッティングの基礎練習、内外野のポジションごとに別れての練習を行った。 ●その後、野球場A面において、野球部員による守備ならびに投球のデモンストレーションが披露された。 <p>【午後の部】 12:30～15:30</p> <ul style="list-style-type: none"> ●参加者を赤、青、黄、緑の4チームに分け、黄チーム対緑チーム(A面)、赤チーム対青チーム(B面)の交流試合を実施した。監督や審判は午前の部で各チームの指導にあたった東洋大学硬式野球部員が担当。 ●試合は6回まで実施した。 ●閉会式後にアンケートを行ったうえで、参加者全員に記念品としてJ号軟式ボールと東京2020オリンピック・パラリンピック記念バッジがプレゼントされた。
参加者等	<p>【参加者数】</p> <p>中野区内在住・在学の小学生5・6年生 67名 東洋大学野球部員 17名、部長 1名</p>

東洋大学と中野区との連携事業「少年・少女野球教室」 実施報告

約70名の小学生と本学硬式野球部員が野球を通じて交流しました。酒井直人中野区長、増子敦仁硬式野球部長による開会式挨拶後、記念撮影を行い、午前の部は4チームに分かれ、本学硬式野球部員の指導によるウォーミングアップ、キャッチボールやバッティングの基礎練習、内外野のポジションごとに別れての練習を行い野球部員による守備ならびに投球のデモンストレーションが披露されました。午後の部では監督や審判を午前の部で各チームの指導にあたった本学硬式野球部員が担当しチーム対抗戦を行いました。



21 バリアフリー地図アプリ「Bmaps」 を活用したバリアフリーまちあるき

開催日時	2018年12月22日(土) 13:30～16:30
開催場所	東洋大学白山キャンパス6号館第3会議室および、白山キャンパス周辺地域
目的	<ul style="list-style-type: none"> ●キャンパス周辺のバリアフリーマップを作成することで、誰もが安心して外出できるまちづくりに貢献する。 ●1人1人が気軽に関われる、ユニバーサルな社会づくりの方法や考え方について理解を深める。
内容	スマートフォンアプリ「Bmaps」(日本財団、株式会社ミライロ開発)を活用し、白山キャンパス周辺を車椅子に乗ってグループでまちあるきをしながら、施設や店舗などの段差をはじめとしたバリアフリー情報を収集し、アプリにレビューを投稿しながら地図に情報を落とし込んでいく。
参加者等	<p>講師：飯田 晴也氏 (株式会社ミライロ)</p> <p>主催：バリアフリーサークル歩み、東洋大学ボランティア支援室</p> <p>協力：株式会社ミライロ</p> <p>【参加者数】 15名</p>

「バリアフリー地図アプリ『Bmaps』を活用したバリアフリーまちあるき」実施報告

12月22日(土)、バリアフリーサークル歩みと東洋大学ボランティア支援室の主催のもと、「バリアフリー地図アプリ『Bmaps (ビーマップ)』を活用したバリアフリーまちあるき」が実施されました。

※Bmaps : <https://web.bmaps.world/>

BmapsはiOS、Android双方のスマートフォンに対応した地図アプリで、地図上の店舗や公共施設などをスポットとして登録し、施設の段差やバリアフリーへの工夫などについての情報をレビュー形式で書き込むことによって、障がいのある人や高齢者、日本語を母語としない方などさまざまな人が安心して外出できることを目指して制作されたものです。

今回の企画は、予め参加者にBmapsをインストールしていただき、実際にアプリにレビューを投稿しながら、白山キャンパス周辺を車椅子に乗ってまちあるきを行い、地域の情報を書き込むことを通じて、誰もが暮らしやすい社会づくりについて考えることを目指しました。

※本企画は、東洋大学課外活動育成会の支援のもと実施されました。

冒頭、Bmapsの使い方について、株式会社ミライロの飯田晴也氏よりお話しいただいた後、4つのグループに分かれて白山キャンパス周辺を、車椅子も活用しながら歩きました。当日は小雨が時折降る中でしたが、無事屋外でのまちあるきを実施することができました。白山駅周辺の商店街は坂道にあり、古くからの建築も多く残る地域ですが、参加者が施設の方などにバリアフリーへの取り組みについて質問したところ、快く応えてくださったという感想も後に聞かれました。一方、バリアフリーへの工夫が凝らされた「良いところ」を見つけるようにしよう、事前に講師からお話しがあったものの、どうしてもバリアフリー対応が不十分な点のほうに目がいってしまうという感想も聞かれました。

大学に戻ってから、アプリに情報を投稿した上で、車椅子に乗って感じたことや、バリアフリー対応の観点でおすすめしたいお店があったかについて、参加者間で共有しました。更に、今回の経験をきっかけにこれから各自で実践してみようと思うことについて1人ずつ発表していただき、「心のバリアフリーを意識した行動を心掛けたい」「自分の住んでいる地域のお店のレビューを投稿する」「扉を開けたり、エレベーターのボタンを押したり、上の方にあるものをとったりといった気配りをしようと思った」など挙げられました。



22 Be a Good Universal Volunteer! ～ユニバーサルマナー講演会～

開催日時	2019年1月29日(火) 13:00～15:30 (2時間半 休憩含む)
開催場所	東洋大学 白山キャンパス1号館3階 1311教室
目的	<p>高齢者や障がい者(視覚障がい、聴覚障がい、身体障がい)の方々との向き合い方、接し方について、基本的な事柄を理解し、実践できるようになること。</p> <p>※2020年東京オリンピック・パラリンピックのボランティアとして活動する際においても役立ち、またとりわけパラリンピック開催の趣旨でもある「共生社会の実現」のための行動の1つとしても位置づけることができる。</p>
内容	<p>2020年東京オリンピック・パラリンピックでは、外国籍の方々や障がいがある方など「自分とは違う」立場の方と接する機会が増えることが予想される。自分とは違う誰かのことを思いやり、適切な理解のもと行動すること。その「マインド」と「アクション」が「ユニバーサルマナー」である。</p> <p>今回は東洋大学向けのコンテンツとして、パラリンピック正式種目である「ゴールボール」の日本代表強化選手として活躍する山口凌河さんを迎え、視覚障がいの当事者として生活しながらゴールボール選手として過ごす毎日についてお話を伺った。</p> <p>更に山口さんの同行援護者でありゴールボールのコーチとして関わり、来年度から株式会社ミライロで社会人生活を迎える林真生さんが加わる形で対談を行い、皆さんの持っている障がいに対する素朴な疑問について、当事者や援護者という立場を交えながら、楽しくセッションを行った。</p> <p>これらのことを通じて、自分とは「違う」立場にある人との関わり方や、「違い」について考えること、更に今回のお話を聞いて明日からできることについてのヒントを掴んでいただいた。</p> <p>○第1部：13:00～14:00 ユニバーサルマナー講演会 講師：薄葉 幸恵さん(株式会社ミライロ、日本ユニバーサルマナー協会講師)</p> <p>(休憩)</p> <p>○第2部：14:10～15:00 講演 講師：山口 凌河さん(東洋大学社会学部社会福祉学科4年、ゴールボール日本代表強化選手)</p> <p>○第3部：15:00～15:30 対談 登壇者：山口 凌河さん 林 真生さん(東洋大学社会学部社会福祉学科4年、埼玉ゴールボールサポーター、株式会社ミライロ 内定者)</p>

参加者等

講師：薄葉 幸恵さん（株式会社ミライロ、日本ユニバーサルマナー協会講師）
山口 凌河さん（東洋大学社会学部社会福祉学科4年、ゴールボール日本代表強化選手）
林 真生さん（東洋大学社会学部社会福祉学科4年、埼玉ゴールボールクラブサポーター、株式会社ミライロ 内定者）

主催：東洋大学ボランティア支援室

協力：バリアフリーサークル歩み、株式会社ミライロ

【参加者数】 25名

「Be a Good Universal Volunteer!～ユニバーサルマナー講演会～」実施報告

2019年1月29日（火）、東洋大学白山キャンパス1号館1311教室において、「Be a Good Universal Volunteer!～ユニバーサルマナー講演会～」を、3部構成で実施しました。

ユニバーサルマナーとは「自分とは違う誰かのことを思いやり、適切な理解のもと行動すること」。その心構え（マインド）と行動（アクション）を学ぶことを目的とし、日本ユニバーサルマナー協会講師の薄葉幸恵氏をお迎えし、第1部として講演を行いました。

また、本学社会学部に在籍し、パラリンピック正式種目であるゴールボールの代表強化選手として活躍する山口凌河氏の講演を第2部として実施。更に山口さんの同行援護者として関わり、ゴールボールのコーチ役も務める林真生氏を交えての対談を第3部として実施しました。

※本企画は、東洋大学課外活動育成会の支援のもと実施されました。

日本ユニバーサルマナー協会の講師陣は、障害当事者の方で構成されていることに特徴があります。薄葉さんは幼少期に肺炎に罹患し、その後遺症で突発性の感音性難聴と診断され、30代半ばで完全に聴覚を失うという経験をされました。薄葉氏はコミュニケーション補助ツールとして「UDトーク」と呼ばれるスマートフォンアプリを活用され、自己紹介とともに紹介をされました。会話の相手がアプリに対応するマイクを通じて話をする、その内容が文字情報として表示されるというものです。

導入として、聴覚・言語障害を体験するグループワークを行いました。2人組をつくり、音声・筆談を使わず、口の動きと身振り手振りだけで自己紹介をするという体験を通じて、障害を感じるというものです。その立場を実感したところで、薄葉さんからは「障害とは人が『持つ』ものではなく、環境に『ある』もの」ということが伝えられました。

ユニバーサルな社会づくりの必要性が理解されつつある一方、施設や設備をユニバーサルデザインに改善することは一朝一夕にできることではありません。しかし「ハードは変えられなくても、ハートは今から変えられる！」と、私たち1人1人が意識して関わることによって誰もが暮らしやすいユニバーサルな社会が作られることとなります。

しかし内閣府の調査によると、サポートをしようとする上で「接し方や方法が分からない」ことで実際の行動に結びつかないという人の割合が6割近くになります。声をかけようとする勇気が出ないということの一方で、逆にサポートが過剰になってしまうというケースもよくあります。そんな時には「何かお手伝いできることはありますか？（May I help you?）」と声をかけて欲しいと、薄葉さんからのメッセージがありました。



第2部では、パラリンピック正式種目「ゴールボール」の日本代表強化選手として活躍する山口凌河さんが、自身の視覚障害についての話を絡めながら、ゴールボールについて映像を交えて紹介しました。

山口さんは、中学時代に視力の異変に気づき、診断の結果「レーベル病」という遺伝子の突然変異で発症する難病にかかりました。その状況下に置かれたことに、はじめはやり場のない焦燥感もあったとのことですが、中学校の友人たちはそれまでと変わらず同様に接してくれたことで、楽しく過ごすことができたといいます。高校は盲学校に進学しました。一般学校に進学を希望していましたが、視力の状況により盲学校への進学を余儀なくされたそうです。しかし、結果として進学した高校の部活動の顧問がゴールボール日本代表のキャプテンを務めており、そのことがきっかけでゴールボールの道に進むことになりました。

第3部では、山口さんのキャンパスライフやゴールボールの活動を支え、ゴールボールクラブのコーチとしても関わる林真生さんに、総合司会を務めたバリアフリーサークル歩みの尾崎祐果さん、天野まいさんも加わり対談が行われました。林さんが山口さんのサポートをするために取得した同行援護について、山口さんはどのようにしてスマートフォンに届いたメッセージを理解し対応しているのだろうといった生活面での素朴な疑問についての話題などを交えながら、和やかな雰囲気でも話が進みました。

最後に、株式会社ミライロで来年度から社会人生活をスタートさせる林さん、そしてボランティア支援室の日比野コーディネーターより、本日の講演会で学んだことの次なる一歩となりうる具体的なアクションの提案があり、講演会は終了しました。

※株式会社ミライロは、「しょうがい」表記について「障害」と表記することとしています。これは、障害が人にではなく、社会環境の側にあるという考え方からです。

このため、本稿においてはそのことに倣い「障害」と表記しています。



23

被災地の大学生と東洋大生が取り組む被災地支援のあり方in南三陸

開催日時	2019年2月22日(金)～24日(日) 2泊3日
開催場所	宮城県 南三陸町 宮城県の北東部、沿岸に位置する町。山・川・里・海の連環が町の暮らしの基盤となっており、かつては蚕(カイコ)を育て、生糸を生産する養蚕業が町の中心産業だったが、現在ではギンザケ、ホヤ、カキ、ワカメなどの海面養殖業が中心。2011年発生の東日本大震災では大津波により壊滅的な被害を受け、かつてから抱えていた人口流出や少子高齢化、コミュニティの分散といった地方社会の様々な課題が浮き彫りになった。
目的	1:東洋大学の学生による被災地でのボランティア活動 2:被災地で求められている支援活動について、学生の視点で考える 3:被災地の大学生との交流を踏まえて、学部・学科を超えた東洋大生の連携・協働に取り組む まもなく震災9年目を迎える被災地の中で、地域に根付く文化や産業の体験、地元出身者との交流といったプログラムを通して、これからの震災・被災地への関わり方を考える
内容	宮城県南三陸町出身の学生を中心として、震災経験の過去と、東北の今を発信する活動を行っている<Project“M”>に3日間のプログラムをコーディネートしていただいた。 震災語り部、海里山の仕事体験、伝統芸能の鑑賞と体験 ws、地域の若者との交流等 地域に根付く資源や文化、そこに生きる人が、震災以前～震災～これまでの時間で、どのような変化や歩みを経たのか等を体験活動を通して感じてもらい、これからの地域の在り方や震災体験を将来に残し伝えることの意義などを、フランクに議論できるようなツアーとなった。 ●ワークショップ 事前研修 町づくりゲーム ●一次産業の体験活動(林業・漁業) 漁業A班 波伝谷漁港 林業B班 海のビジターセンター ●旧戸倉中学校 Project Mメンバーによる被災体験の説明 ●郷土芸能ワークショップ ●パネラー数名による講義 ●パネルディスカッション・質疑応答 ●振り返りワークショップ
参加者等	*現地受け入れ:Project“M”=宮城県南三陸町出身の学生を中心として、震災経験の過去と、東北の今を発信する活動を行っている(震災当時中学2年生)。 https://www.facebook.com/ProjectM-1738680696367360/ 【参加者数】 法学部、文学部、社会学部、生命科学部、情報連携学部、経営学部(イブニング)の1～4年生、20名

被災地の大学生と東洋大生が取り組む 被災地支援のあり方in南三陸 感想

参加学生の感想【抜粋】

1：現地で行った活動について

(1) 林業体験について

- 今回、このツアーに参加させていただくまでは、正直林業を始めとした第一次産業という世界は、都会で生活している私自身には大変程遠い世界でした。

しかし、実際に自分自身がその世界に飛び込み、知識や経験を吸収したことで、それまで感じていた距離感が無くなり、もっと深く学びたい、体験したいと考えるようになりました。また、この林業体験を通して、日本の豊かな緑がどれだけ世界に誇れるものなのか、反対に日本の森林が現代において抱える問題は何か、それを改善していくためにはどんなことが求められているのかを、同時に学ぶ機会にもなりました。

第一次産業体験は、普通の学生生活では中々経験することが出来ない、貴重なプログラムでした。そして、同時にこの一日は、私自身にとって大変有意義で濃い一日となりました。

(2) 漁業体験について

- 初めて漁業を体験しました。南三陸の漁業の形は、震災前後で異なることを知りました。環境のことを考えて品質を高める考え方は、自然との共存を体現していて素敵だと感じました。
- 私は今回の漁業体験に参加させていただきました。この活動を通して、普段の自分ではなかなか考えられない第一次産業を、地球温暖化や被災後の産業の進み方についてなど、様々な側面から考えることができました。

2：ワークショップについて

- 被災地に行き、現地の方との交流というのは経験したことがありました。今回初めて、同世代との交流だったので、とても聞きやすく質問しやすかったと今までの経験があったからこそ感じています。グループになって意見を出し合う際、自分では考えつかなかった他の意見を知ることによって考えの幅が広がりました。また、このワークショップを通じて、私の宮城に対する印象が変わりました。半年前に家族と宮城県に行き、東松島市の被害の大きかった方面の現状を見に行くことがありました。その際に感じた印象が、どうしても暗く悲しい気持ちにもなっていました。Project "M"の現地で被災経験をした方と交流して、南三陸が力強く復興しているという印象が変わっていきました。Project "M"の皆さんがとても前向きであったのも変化のきっかけになったと思います。
- 1日目の「震災と産業」ではProject Mのメンバーが実際に3月11日に体験したことをそれぞれの視点から聞きました。同世代からその当時の話を聞くことは初めてで、同世代から聞いたからこそ、心に深く刺さった部分もありました。また、このことを風化させないために自分にはどんなことができるのか、改めて考えさせられる機会となりました。

2日目の「郷土芸能ワークショップ」では、ししおどりについて学びました。実際に踊りを見させていただき、南三陸の郷土芸能を実際に初めて見ることができました。また、震災後に披露したとき、地元の人に喜んでもらったという話を聞き、町の人々の心の復興に伝統芸能は大きくかかわっていることを学びました。また、郷土芸能を繋げていくことも大切だと感じました。そのあとの「おちゃっこすっぺす」では各グループが輪になり、時間を区切って、Mメンバーとのお話をしました。その中で、「復興と復旧」についての意味の違いを聞いて、今まで自分は復興と復旧をごちゃ混ぜにして考えてしまっていた

ことに気づかされました。

「震災と地域課題～自分たちにできることは？～」ではそれぞれのグループで考えをまとめて発表しました。各グループ、様々な意見が出そろい、新たな考えもでてきたことが印象的でした。お互い異なる意見を出し合うことで、自分たちが被災地に対して何ができるのか、その可能性を広げることができたと思います。

3：3日間のプログラム全体を振り返って

- 今回このような機会に初めて参加させていただいた自分には、満足だった、大変有意義な時間だったという言葉以外、正直見当たりません。1つ自分自身の壁を越え、勇気を出してこのプログラムに参加させていただいたことで、受身になってばかりでは学ぶことが出来なかった知識や経験を、数多く得ることが出来ました。また、このプログラムは自分自身の意識改革にも繋がったかなと思います。
- ProjectMさんの皆さんがおっしゃっていたように復旧より復興という元々の南三陸町より町を良くしようとしているような感じがしました。それは、海のために森を管理していることも勿論、さんさん商店街での地元のものを使った食べ物の提供、このようなツアー企画などで南三陸町について知ってもらうという活動などから感じられました。南三陸町が人、産業、自然などが一体となって盛り上げていることがよく分かりました。
- 3日間のプログラムを振り返って、とても充実した活動になったと感じています。またこれまでも、被災について話を聞く機会はありましたが、同世代から深く聞いたことは初めてで、同世代から聞くことによって自分とも結びつけやすく、考えが深まったなと思いました。同世代から話を聞けたということが、今回一番よかった部分であると考えています。また、全体的に実際に体験する活動が行えたことが良かったです。実際に見たり、行ったりすることによって新たな考えが出てくるなど、考えを深めることができました。



24

福島県いわき市の漁業の現状を発信する

開催日時	2019年3月5日(火)～6日(水) 1泊2日
開催場所	<p>福島県いわき市</p> <p>福島県の南部に位置。人口34万で、同県最大の都市。</p> <p>2011年発生の東日本大震災では、津波により沿岸部の薄磯、豊間、久之浜などの集落が壊滅的な被害を受けた。さらに原発事故の影響で、漁業は未だ試験操業の段階にとどまっている。</p>
目的	<p>1：東洋大学の学生による被災地でのボランティア活動</p> <p>2：被災地で求められている支援活動について、学生の視点で考える</p> <p>3：被災地の大学生との交流を踏まえて、学部・学科を超えた東洋大生の連携・協働に取り組む</p>
内容	<p>いわきの漁業関連施設を訪問した。その際には、学生と年齢の近いガイドや講師と主に話しながら、自分たちのボランティア・スタイルを模索するよう、教員は内容の方向付けをした。</p> <p>福島県いわき市の漁業は、原発事故の影響で未だ本格的な再開には至っていない。しかし、試験操業の対象魚種も2017年段階で97種にまで拡大するなど、少しずつ展望が開ける状況になっている。</p> <p>このような状況を実際に漁業の現場を訪れ、関係者の方から話を伺ったうえで、現状を把握するとともにSNS等を使って発信することで、福島への支援を行なう。</p> <p>後日、フェアトレード方式で福島の水産加工品の販売も実施した。</p> <p>参加学生は、文学部、経済学部、法学部、社会学部、国際学部、国際観光学部、理工学部、総合情報学部、経営学部・社会学部・国際学部（イブニング）の1～3年生、合計28名。</p> <p>1日目</p> <p>08：15 新宿駅西口出発。</p> <p>12：00 いわき市到着。ガイドと合流し、昼食。</p> <p>13：30 久之浜港を見学。</p> <p>15：00 双葉郡富岡町見学（旧警戒区域で、避難指示が解除された北端の町）。</p> <p>17：00 いわき市湯本、古滝屋到着。</p> <p>18：00 古滝屋の大広間で、講師とともにワークショップ+夕食。</p>

内 容	2日目 08：00 いわき市沼ノ内港見学。 10：00 マリントワー見学。 11：00 いわき市小名浜港。 いわき・ら・らミュウ（いわき市最大の魚介類・水産加工物販売所）見学+昼食。 14：30 東京へ向け出発。 18：00 新宿駅西口帰着。
参加者等	【参加者数】 28名

福島県いわき市の漁業の現状を発信する スタディーツアー（2019/3/5-6）感想

参加学生の感想

- 立ち入り禁止区域は8年経っても崩れているまま悲惨な天災、人災の跡が残っているが、少しずつ港や道路、駅は綺麗に整備され、人が再び住める環境が整いつつあると感じた。それを踏まえ、私たちが考えるべきことは、汚染廃棄物の処理や風評問題、産業の衰退といった人的問題にあると改めて強く思った。まずは、現状を発信し、福島だけでなく同じ日本に住む私たちの意識を改革する必要があると思う。難しいことだが、こうしてボランティアに参加し、SNSを使って発信することで、一歩でも解決に進めばいいなと思った。
- 被災現場には、そこに家があるのに人がまだ住むことができない光景があった。住民が普通に外を歩くことができない現実もある。しかし、福島の産業は復興のために力強く、情熱のある地元の人々の行動で前向きに歩んでいると感じた。今回の研修プログラムで、私自身の価値観が変化し、貴重な経験となった。実際に足を運んで、五感で感じたことで「福島」を被災地という目線で見るとはなく、素敵な温かい町としてとらえるようになった。
- まだ完全に解決ができたわけではなく試験操業だが、復興に向けて頑張っている住民の方や、事業を起こした方が皆真剣に取り組んでいると感じた。被災時のままの家やお店などがいまだ残っているが、一日も早く復興してほしいと感じた。私たちがこのことを海外に向けて現状を情報発信していくことは大事な取り組みになると思う。
- よくテレビや新聞などで復旧や復興について、いろいろなことを耳にしたり、目にしたりするが、実際に行かないと分からないことがたくさんあるのだと感じた。





平成30年度

ボランティア支援室 各企画資料

ボランティア支援室からのお知らせ

ボランティア支援室では、様々なボランティア情報の発信や相談、各種イベントを開催しています。今年「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会」ボランティアの応募が始まります。希望者は研修会、スポーツボランティアなどを体験し、募集に備えましょう。

また、各イベントごとに学生サポーターを募集しています。ボランティアに興味のある方は、是非この機会にイベントへの参加や学生サポーターとして活動してみませんか？

まずはあなたの「できること」から社会貢献を始めましょう!!

各ボランティアサークルの説明やボランティア支援室の説明等ボランティアに関するガイダンスを下記の日程で行います。ボランティアや学生サポーターに興味のある方は、是非お気軽にご参加ください!!

第1回 4/5(木)12:30~13:

第2回 4/5(木)17:30~18:

※自由キャンパス5B12教室で開催いたします!!
 ※ボランティアサークルも参加します!!



ボランティア支援室

TEL 03-3945-7927
 FAX 03-3945-7601
 メール mivolsup@toyo.jp
 開室時間 9:30~17:00 (平日)
 9:30~13:00 (土曜日: 資料閲覧のみ)



〒113-0021 東京都文京区本駒込1-10-2 雨水会館1階
 ●都営地下鉄三田線白山駅/A3出口から徒歩5分/A1出口から徒歩5分
 ●東京メトロ有楽町線本駒込駅/A1出口から徒歩5分
 ※開室時間やイベント等情報は下記URLからご覧ください。
<http://www.toyo.ac.jp/site/csc/316315.html>

お気軽に立ち寄ってください!!



平成30年度 ボランティア支援室 イベント予定

年/月/日	イベント	
平成30年	4月 5日	ボランティア支援室オリエンテーション ※各ボランティアサークル参加!! ※2~4年生の参加も大歓迎!! ボランティア入門講座 A
	5月	ボランティア入門講座 B
サークル合同説明会		
ボランティアカフェ(ボラカフェ1,2回程度)		
★スポーツボランティア研修会		
6月	26日 「外国人おもてなし留学ボランティア」育成講座	
	ボランティア入門講座 C	
	ボラカフェ(1,2回程度)	
7月	★国際理解プログラム	
	社会貢献・ボランティアの現場を体験するスタディツアー(スタディツアー)α	
	ボランティア入門講座 D	
	ボラカフェ(1,2回程度)	
	ボランティアフォーラム	
8月	「外国人おもてなし留学ボランティア」育成講座	
	東京2020ボランティア募集要項発表	
	ボラカフェ(1,2回程度)	
9月	スタディツアーβ	
	東京2020ボランティア応募受付開始	
10月	ボランティア入門講座 E	
	ボラカフェ(1,2回程度)	
11月	ボラカフェ(1,2回程度)	
	スタディツアーγ	
12月	ボランティア入門講座 F	
	ボラカフェ(1回程度)	
平成31年	1月	ボランティア入門講座 G
	ボラカフェ(2回程度)	
	スタディツアーδ	

※上記スケジュールは変更になる場合がございます。スケジュールが変更になりましたら、HPでお知らせしますのでご確認ください。また、各イベント情報につきましてもHPでご確認ください。

ボランティア 合同説明会 in 朝霞

早稲田キャンパスで活動する
 ボランティアサークル・団体が
大集合!!

4月18日(水) 12:00 ~ 15:00

出入り自由!



- 場所 講義棟1階 学生ホール
- 参加団体 5団体(裏面参照)
- 主催 東洋大学ボランティア支援室

学生ボランティアセンター 朝霞って

私たちは、復興支援や川清掃など他キャンパスと合同で行なっています。ボランティアを通じて貴重な体験や出会いが待っています。未知の扉を拓くのはあなた自身。生活支援3年 高橋秋斗 liverpool.81015@ezweb.ne.jp



かみひこうき

私たちがかみひこうきは、子ども支援の学生を中心に活動しています。活動内容としては、朝霞市の児童館に行き子ども達と遊んだり、季節ごとにイベントを行っています。子ども達好きな人大歓迎です!お待ちしております。
 子ども支援3年 辻真琴 s1A12160022@toyo.jp

きやんばす

朝霞市内の小学4~6年生を対象とした小学生居場所づくり事業です。「自分らしくいられる場」「心から落ち着ける場」「また来たいと思える場」を目指し、宿題や遊び等、子どもの声を聞きながら毎回様々な活動をしています。
 健スポ4年 池外真帆 canasaka@gmail.com



キッズプロジェクトあさか

小学生を対象としたボランティアサークルです! 東洋大学と朝霞市・NPOが合同で行っています。主な活動は、子ども大学あさかの運営と夏・冬休みの学習支援です。興味があったら是非!!
 人間環境3年 奥富孝実果 s1A301601100@toyo.jp

あさがお

私達は、児童館のお手伝いと自分たちが主催する子ども向けのレクリエーションをメインに行なっています。子どもとやりたいことや高齢者とやりたい事などあれば是非あさがおへ、あなたの「やりたい」を実現に。
 健スポ3年 五味真博 s1A201601277@toyo.jp

東洋大学
 ボランティア支援室



東京2020オリンピック・パラリンピック
ボランティア募集開始 迫る！2018年9月頃～(予定)

予告！
ボランティア入門講座
スポーツボランティア研修会

スポーツボランティア研修会
スポーツボランティア活動のやりがいや楽しみ方を知るためのプログラムです。
本プログラム修了者には、スポーツボランティア修了証が発行され日本スポーツボランティアネットワークが有するスポーツボランティアに関する情報を得ることができます。
東京2020オリンピック・パラリンピックに向け、スポーツボランティアについて学びましょう！

ボランティア入門講座
ボランティア活動始めるための「はじめの一歩」を応援する講座です。
「ボランティアを始めてみたいけど、どうやって自分ができる活動を探したらいいの？」「ボランティア先でどんなことに気をつけて活動したらいいの？」こういった疑問・不安を解消し、はじめの一歩を踏み出してみませんか？

日時 **5月19日(土)**
午後1時～4時

第1回 **4月24日(火)**
午後4時30分～6時

第2回 **5月9日(水)**
午後4時30分～6時

会場 **白山キャンパス 雨水会館3階 301**

●詳細は右のQRコードよりホームページをご覧ください。

●右のQRコードよりお申込みください。

場所：東洋大学 白山キャンパス
お問い合わせ
東洋大学 ボランティア支援室
03-3945-7460 <http://www.toyo.ac.jp/site/csc/316315.html>

東京2020オリンピック・パラリンピック
ボランティア募集開始 迫る！2018年9月頃～(予定)

川越キャンパス開催決定！
スポーツボランティア研修会

スポーツボランティア研修会
スポーツボランティア活動のやりがいや楽しみ方を知るためのプログラムです。
本プログラム修了者には、スポーツボランティア修了証が発行され日本スポーツボランティアネットワークが有するスポーツボランティアに関する情報を得ることができます。
東京2020オリンピック・パラリンピックに向け、スポーツボランティアについて学びましょう！

事前申込制 (先着30名)

申込 ●右のQRコードよりお申込みください。

日時 **7月21日(土)**
12時30分～15時00分

会場 **川越キャンパス**
※詳細は参加者に後日お知らせします。

●詳細は右のQRコードよりホームページをご覧ください。

●右のQRコードよりお申込みください。

お問い合わせ
東洋大学川越キャンパス 4号館1階川越教学課 049-239-1607
東洋大学ボランティア支援室 <http://www.toyo.ac.jp/site/csc/316315.html>

東京2020オリンピック・パラリンピック
ボランティア 2018年9月頃～募集開始！

第2弾！
白山キャンパス 開催
スポーツボランティア研修会
(オンデマンド形式)

事前申込制

スポーツボランティア研修会
スポーツボランティア活動のやりがいや楽しみ方を知るためのプログラムです。
本プログラム修了者には、スポーツボランティア修了証が発行され、日本スポーツボランティアネットワークが有するスポーツボランティアに関する情報を得ることができます。
(修了者として個人情報日本スポーツボランティアネットワークに登録されます。)
東京2020オリンピック・パラリンピックに向け、スポーツボランティアについて学びましょう！
今回は、一部オンデマンド形式による研修会になります。

日時 **2018年8月7日(火)**
13時00分～15時30分

定員 **130名程度(先着順)**

参加費 **無料(大学負担のため)**

申込 **事前申込制(先着順)**
●右のQRコードよりお申込みください。

●詳細は右のQRコードよりホームページをご覧ください。

●右のQRコードよりお申込みください。

お問い合わせ
東洋大学 ボランティア支援室
03-3945-7460 <http://www.toyo.ac.jp/site/csc/316315.html>

デイキャンプで遊ぼう会
ゴールデンウィーク企画 初めてのボランティア体験
里親家庭とのデイキャンプ(教員引率有)

里親家庭には、多くの場合、里子以外には青年期の家族がいることはありません。また地域の活動などに参加していないため、子育て中の家族などとの交流の機会が少ないのです。そのような中で、一緒に遊んでくれる大学生との出会いはとても貴重です。
そこで、この里親家庭と大学生連のデイキャンプを実施します！！
屋外のキャンプ場で、子どもたちとあそび、一緒に飯盒炊爨や、カレー作りをします。
この活動自体は、児童福祉を学んでいる学生達を中心に、続けられているものです。今年度より、この活動に一般の学生も参加が可能となりました。ただし、参加を希望する学生には、里親子の置かれている状況を理解するための事前学習を必ず受講いただきます。

日時: 2018年5月6日(日) 11時～14時 小雨決行
場所: 〒274-0082 千葉県船橋市大神保町594 船橋市立青少年第2キャンプ場
集合場所: 東洋大学 白山キャンパス6号館 西門前 バスで現地まで行きます。
集合時間: 7時30分
参加費: 無料(ただし今年度学研給未加入者は自費にて加入していただきます。)
参加者: 千葉県里親会の会員と関係者、東洋大学社会学部 森田明美ゼミの学生3・4年生約30名、本学学生、一般市民
引率: 社会学部社会学科 森田明美教授、森田研究室1A
申し込み: 本学学生は以下のフォームより申し込みください。
<https://www.toyo.ac.jp/ques/questionnaire.php?openid=1000>
締め切り: 4月25日(水) 正午
定員: 約20人(定員を超過した場合、選考あり)
事前学習: 4月25日(水) 12:20～12:50(参加必須) 6409番教室

お問い合わせ: 東洋大学 ボランティア支援室
〒113-0021 東京都文京区本駒込1-10-2 雨水会館1F
電話: 03-3945-7460 メールアドレス mlex@toyo.jp
主催: 学生課外活動育成会、東洋大学ボランティア支援室
共催: 千葉県里親家庭支援センター
後援: 特定非営利活動法人こども福祉研究所

初歩から学ぶ障がい者スポーツ

皆さん、スペシャルオリンピックスをご存知ですか？スペシャルオリンピックスとは、知的障害のある方たちに様々なスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を、年間を通じ提供している国際的なスポーツ組織です。東洋大学は、国内初、スペシャルオリンピックス日本とユニファイドスクールパートナーシップ協定を締結しました。また、2020年には東京オリンピック・パラリンピックが開催され、2018年9月からは2020年に向けてボランティア募集が開始される予定です。
さまざまな障がい者スポーツについて理解を深め、障がい者スポーツボランティアに触れてみましょう！

【日 時】 平成30年5月10日（木）10時40分～12時10分
【場 所】 東洋大学白山キャンパス 雨水会館3階 301教室
【対 象】 東洋大学在学学生、教職員 お申込は右のQRコードから!!
【主 催】 東洋大学ボランティア支援室
【講 師】 志村 健一（社会学部社会学福祉学科教授）

スペシャルゲスト
社会学部社会学福祉学科4年 山口 凌河(りょうか)さん

略歴
中学生の時に難病であるレーベル病で視覚を失う。
現在はゴールボール日本代表強化指定選手として活動している。

障がい者スポーツボランティアを募集しています!!

東洋大学 ボランティアカフェ

IN

白山キャンパスボランティアサークル 合同説明会 (6号館1階会議室3)

お茶やコーヒーを飲みながら、ボランティアのお話を聞いてみませんか？

ボランティアカフェはボランティアサークルや個人でボランティア活動をしている学生、まだ活動はしていないけど興味がある学生の交流の場です、どなたでもお気軽に御参加ください。

- ・5月28日(月) 13:15～14:00「フェアトレードのお話」
ゲスト: フェアトレードサークルHEART BAZAAR
- ・5月29日(火) 13:15～14:00「絵本の世界の魅力」
ゲスト: 読み聞かせ朗読会

申込不要
出入自由
飲食自由

お問合せ先：03-3945-7635（東洋大学エクステンション課）
〒113-0021 東京都文京区本駒込1-10-2雨水会館1階

6月の 東洋大学 ボランティアカフェ

IN

ボランティア支援室ラウンジ (白山キャンパス 雨水会館1階)

お茶やコーヒーを飲みながら、ボランティアのお話を聞いてみませんか？

ボランティアカフェはボランティアサークルや個人でボランティア活動をしている学生、まだ活動はしていないけど興味がある学生の交流の場です、どなたでもお気軽に御参加ください。

- ・6月18日(月) 12:20～12:50
「復興7年目の東北と向き合う人たち～『復興』の先へ～」
ゲスト: 高木綾音さん(Fisherman Japan YOUTH)
佐伯菜人さん(東洋大学学生ボランティアセンター)
- ・6月21日(木) 12:20～12:50「ワークキャンプで過ごす夏！」
ゲスト: 長瀬 健太郎さん(NPO法人good!)

申込不要
出入自由
飲食自由

お問合せ先：03-3945-7635（東洋大学エクステンション課）
〒113-0021 東京都文京区本駒込1-10-2雨水会館1階

○6月18日(月)「復興7年目の東北と向き合う人たち～『復興』の先へ～」
東日本大震災から7年が経過した東北。「復興はだいぶ進んだのでは？」との印象がもたれつつありますが、「復興」という言葉自体、さまざまな解釈が可能で、人によってイメージすることは大きく違いがあります。
そんな中で、今も東北に寄り添いながら活動を続けたり、新しい価値を東北から発信する活動をしたりしている人たちがいます。
2011年の震災の年から活動を続け、現在も東北応援プログラム(TOP)として現地に足を運ぶ、東洋大学学生ボランティアセンター復興支援班の活動と、日本の漁業の新3K(カッコいい、稼げる、革新的)を発信する一般社団法人 Fisherman Japanに新たに立ち上がる学生部(YOUTH)の活動のお話です！

○6月21日(木)「ワークキャンプで過ごす夏！」
NPO法人good!!は、2001年から若者のキッカケづくりを応援しつづけている団体です。これまで実施したワークキャンププログラム(宿泊型ボランティア活動)の参加者は3000人以上！
大学生を中心に、高校生から社会人まで全国から幅広い世代の若者が参加しています。初海外でも、英語が苦手でも、経験豊富なスタッフが海外ワークキャンプに同行するので、1人でも安心して参加することができます。
国内でも、夏は長野県の古民家で参加者みんなで寝泊りし、美しいアルプスの山々を見ながらの農業体験や、広島で平和を考える充実のワークキャンププログラムが用意されています。

7月の

東洋大学 ボランティアカフェ

IN

ボランティア支援室ラウンジ (白山キャンパス 南水会館1階)

お茶やコーヒーを飲みながら、ボランティアのお話を聞いてみませんか？

ボランティアカフェはボランティアサークルや個人でボランティア活動をしている学生、まだ活動はしていないけど興味がある学生の交流の場です。どなたでもお気軽にご参加ください。

- 7月18日(水) 12:20~12:50 「文京区の活動に『フミコム?』」
ゲスト: 田邊 健史さん(地域連携ステーションフミコム コミュニティマスター)
- 7月23日(月) 12:20~12:50
「ボランティア活動+ライブ? -アメリカ発のボランティア活動-」
ゲスト: 横山 和幸さん(株式会社ワイズインテグレーション ヒューマンリソース事業部 Face to Faceグループリーダー、「Rock Corps」ボランティア事務局)

申込不要
出入自由
飲食自由

お問合せ先: 03-3945-7635 (東洋大学エクステンション課)
〒113-0021 東京都文京区本駒込1-10-2南水会館1階

○ 7月18日(水)「文京区の活動に『フミコム?』」
白山キャンパスのある東京都文京区で、何かしてみたい!という人やボランティアサークルの皆さん、また文京区のソーシャルアクションについて知りたい人は、ぜひこの日の「ボラカフェ」へ!

春日駅に直結している地域連携ステーションフミコムは、文京区社会福祉協議会が運営する、文京区の活動拠点です。区や地域住民・ボランティア・NPO・大学などの新たなつながりを紡ぎ、地域の活性化を目指しています。東洋大学のボランティアサークルの中にも、フミコムを活用して地域とのつながりを築き、活動の幅を広げている団体があります。

この日はフミコムから、地域やNPO活動を知り尽くしたコミュニティマスターがやってきます。ここから地域へ「フミコム」みましょう!

※地域連携ステーションフミコム(社会福祉法人文京区社会福祉協議会)
<http://www.bunsyakyoku.or.jp>

○ 7月23日(月)「『ボランティア活動+ライブ? -アメリカ発のボランティア活動-』」
ボランティア活動は「無償」の活動と言われますが、「お金ではない報酬」が得られる活動もあります。欧米では、「セレブレーション」と呼ばれるボランティア活動者へ感謝を伝える催しが行われることがあり、パーティーが開催されたり、表彰式が行われたりと、その形態はさまざまです。

今回紹介するのは「Rock Corps」と呼ばれるボランティアプログラム。震災で被災した写真をデジタル化したり、荒川のクリーンアップ活動に参加したり、さまざまなジャンルから選べる4時間のボランティア活動に参加すると、「セレブレーション」として大物アーティスト4組が出演するライブに招待されるというものです。一緒に活動に参加した仲間と楽しめるセレブレーション! ボランティア活動の楽しさをまだ知らない人はぜひ、この機会に体験してみませんか?

※「Rock Corps.2018」: <https://rockcorps.yahoo.co.jp/2018/>

12月の

東洋大学 ボランティアカフェ

IN

ボランティア支援室ラウンジ (白山キャンパス 南水会館1階)

お茶やコーヒーを飲みながら、ボランティアのお話を聞いてみませんか？

ボランティアカフェはボランティアサークルや個人でボランティア活動をしている学生、まだ活動はしていないけど興味がある学生の交流の場です。どなたでもお気軽にご参加ください。

- 12月11日(火) 12:20~12:50
「震災から7年9ヶ月、岩手のヒト・モノ・コト、そして子どもたち」
ゲスト: 石津 雄大さん(僕らの夏休みProject 東洋大学支部)
- 12月13日(木) 12:20~12:50
「僕の『Tokyo2020』へのかかわり方」
ゲスト: 林 真生さん(東洋大学4年、埼玉ゴールボールクラブサポーター、株式会社ミライロ 内定者)

申込不要
出入自由
飲食自由

お問合せ先: 03-3945-7635 (東洋大学エクステンション課)
〒113-0021 東京都文京区本駒込1-10-2南水会館1階

○ 12月11日(火)「震災から7年9ヶ月、岩手のヒト・モノ・コト、そして子どもたち」
東日本大震災で被災した岩手県沿岸地域で「大学生だからこできる大学生ならではの活動」をコンセプトに掲げ、10年続くプロジェクトとしてはじまった「僕らの夏休みProject」。遊びを通じて震災で被災した地域の子どもたちを笑顔にし、未来の可能性を広げる活動を通じて、首都圏の学生が「たっだいま!」と言って帰っている関係が、地域との間に育まれてきました。

この回は、岩手県宮古市・山田町・釜石市の18の小学校の子どもたちと遊びを通じて交流する「僕らの夏休みProject」の活動を紹介しながら、子どもたちと関わる中で感じた発見と活動の魅力に迫ります。

更に、同日17:00から渋谷のMYSH Sake Barで開催される、宮古市直送の食と酒を囲む「きっかけ食堂」ほか、岩手のヒト・モノ・コトに触れることのできるコンテンツを紹介します。

※僕らの夏休みProject: <http://bukunatsu.com/>
※きっかけ食堂: <https://kikkake-syokudo.org/>

○ 12月13日(木)「僕の『Tokyo2020』へのかかわり方」
9月から募集がはじまった、2020年東京オリンピック・パラリンピックの「大会ボランティア」。12月上旬に締め切りを迎えます。

しかし、2020年東京オリンピック・パラリンピックへの関わり方は、大会ボランティアだけではなく、また、既に2020年に向けてなんらかのアクションにかかわり始めている人もいます。

この日のボラカフェゲスト、林真生さんもその1人。東洋大学に在学している、パラリンピック正式種目ゴールボール日本強化選手である山口凌河選手を「有名にする!」との想いでサポートを続け、そのことがきっかけとなり「バリアをバリューに変える!」を理念に掲げる株式会社ミライロでのソーシャルな働き方を選ぶに至りました。この日は、そんなストーリーを伺いながら、1人1人がそれぞれの「Tokyo2020」へのかかわり方をイメージする、そんなボラカフェのひとつにしたいと思います。

※株式会社ミライロ: <http://www.mirairo.co.jp/>

各企画資料

TGL 1TGポイント付与対象

「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座

～おもてなしの心を学ぶ人気講座を
本学学生対象に開講します～



東京都と共催で本学学生対象に下記の講座を実施します。東京都で実施している一般向けの同講座は倍率が非常に高く、中々受講できない大人気講座です。語学が不得意でも受講可能ですので、興味がある学生さんは、是非参加してみてください。【参加費無料】

「外国人おもてなし語学ボランティア」とは？

街中で困っている外国人を見かけた際などに簡単な外国語で積極的に声をかけ、道案内等の手助けをしていただくボランティアです。決まった日時・場所で活動するボランティアではなく、日常生活の中で自主的に活動するものです。
※2020年の大会期間中に競技会場等で活動するボランティアとは異なります。

外国人に対するおもてなしの心をグループワーク等を通じて学ぶことにより、相手の立場に立つて思考する意識が身生え、協調性やコミュニケーションスキルの向上が図れます。また、ボランティアマインドの醸成が図られ、ボランティア活動への参加意欲の喚起にも繋がります。

日時：平成30年5月26日（土）
13：00～16：30（3時間30分×1回）
場所：東洋大学白山キャンパス *教室については後日お知らせします。
定員：120名（定員を超えた場合、抽選となります）
料金：無料
申し込み締切：5月10日（木）厳守
※受講可否のご連絡は5月11日（金）にメールにてお知らせします。

お申込方法（下記URLおよびQRコードからアクセスしてください。）
<http://www.toyo.ac.jp/site/csc/113197.html>



外国人おもてなし「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座

◆カリキュラム

相手の立場に立つて一人ひとりが「おもてなしとは何か」を考え、実践する講座です。グループワークを通じて思いやりの心、積極性と協調性の向上を図ります。（講座内では英語を使用する場面もありますが、英語力の向上を目的とした講座ではありません。）

講座名	時間・回数	内容
おもてなし講座	3時間30分×1回	簡単な英語を使った外国人とのコミュニケーションに関する基礎知識や、外国人に対する「おもてなし」の心を身に付けるため、おもてなしや異文化コミュニケーションについて映像やグループワークを通して学習します。

講座への参加条件

- ◆本学学生の方（白山キャンパスの学部生、大学院生のみ）
- ◆本ボランティアの趣旨を理解し、日常生活の中で積極的に活動する意欲があること
- ◆講座中のグループワークやロールプレイングに、協調性を持って積極的に参加できること
- ◆東京都や一部区市町村等において、同内容の講座を実施しています。本講座の受講は、それらを含め一人一回限りです。
- ◆昨年度本講座を受講した方の受講はご遠慮ください。

◆講座修了者について

- ・講座を修了された方は、「外国人おもてなし語学ボランティア」として登録させていただきます。
- ・講座修了時に、お一人おひとりに登録証とバッジをお渡しいたします。
- ・修了者には、随時、東京都からイベント案内やボランティア情報の提供を行う予定です。

※登録に際し、修了者の個人情報（氏名、性別、年齢、住所、メールアドレス等）を東京都にご提供いただきます。ご了承ください。ご了承ください。



<お申込・お問合せ>
東洋大学社会貢献センター(エクステンション課)
TEL:03-3945-7460
<http://www.toyo.ac.jp/site/csc/113197.html>

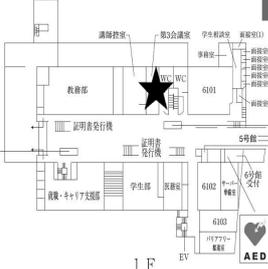


ボランティアサークル合同説明会in白山

白山キャンパスで活動するボランティアサークル9団体が大集合！

5/28(月)、29(火)
11:00～20:00
★入退場自由
★参加費無料

会場:6号館1階 会議室3
主催:東洋大学 ボランティア 支援室



歩み

歩みは、月に1回「障がいの有無に関わらず活動できる場」をコンセプトに、車椅子学生を含めた約50名で楽しく活動しています。主な活動内容は、オープンキャンパスでの障がいのある来場者の移動支援、白山祭の出店、車椅子バス、学内交流会など、学外での活動も積極的に行っています。是非一緒に楽しい大学生活を“歩み”しましょう！
☎s15301600387@toyo.jp
Twitter:@voluntearayumi

読み聞かせ朗読会

読み聞かせ朗読会は地域の子どもたちに、絵本や紙芝居の読み聞かせや、パネルシアターやペープサートの制作・披露を行っている東洋大学公認のボランティアサークルです。2018年5月現在、文京区、北区、板橋区の「学童施設」や「子育て支援施設」からご依頼をいただき、【読み聞かせ】の活動を行っています。
☎toyo.yomikikase@gmail.com
Twitter:@toyo_yomikikase

らいふ

らいふは毎週土曜日に文京区内の高齢者施設に行って利用者の方とお話をしたり、私達で考えたレクリエーションを行なっています。利用者さんの笑顔がとてもやりがいになるし、大学生活を充実させてくれる良い経験ができます！学部学科学年問わず誰でも大歓迎です！
☎s15301601018@toyo.jp
Twitter: toyo__life

5いふ



アカシアの木

アカシアの木は地域のゴミ拾いや、ネイチャーフェスティバルへの参加、学祭でのリユース活動などを主な活動とするエコにこだわった環境系ボランティアサークルです。合宿や季節ごとのイベントなども盛りだくさんです、楽しい仲間がいっぱいなので、興味がある方お気軽にご連絡ください！

☎s15101600532@toyo.jp
Twitter:@akashia325reuse

Oriental Sky Project

Oriental Sky Projectは、2013年に大型台風によって被害を受けたフィリピンを支援しています。主な活動場所はセブ島から船で4時間、更に車で2時間のプラン村です。現在13名で活動しています。フィリピンに興味がある方、草の根レベルでの活動を行いたい方！是非私達といっしょに活動しませんか？ミーティング/火曜日7限 白山キャンパス1号館

☎s18101600524@toyo.jp
Facebook:@orientalskyproject

SPIRITは白山キャンパス内で毎週木曜日、外国にルーツを持つ方に対して日本語教室を開いています。小学生が中心ですが、大人の方にも幅広く利用して貰っており、教材やプリントを使って勉強したり、カルタで遊んだり...!

英語に自信がなくても大丈夫。ぜひ一度見学にお越しください!!

☎gakusupo@yahoo.co.jp
Twitter:@toyo_spirit

SPIRIT

Salamatはフィリピンの子どもの支援をメインに活動しています。活動としてはフィリピンへ年2回の渡航、限界集落でお祭り開催の手伝い、地域のお祭りや学祭への出店、日本語を留学生に教える活動などです。メンバーは根がしっかりしている人が多く、学ぶ事も多いです。何かやり遂げたい事がある人は是非Salamatへ!

☎salamatoyo.ss@gmail.com
Twitter:@salamatoyo

Salamat

HEART BAZAAR

HEART BAZAARはフェアトレードの商品を販売し、発展途上国の自立を支援しています。近年は悪徳な仲介業者が増加し、不当な買金で過酷な労働を強いられている生産者が数多くいます。私達は生産者と消費者を繋ぎ彼らの生活を支援しています。月に1~2回の販売活動、海外研修を実施しています。興味がある方は是非お待ちしています。

☎heartbazaar_toyo@yahoo.co.jp
Twitter:@HEART_BAZAAR

学生ボランティアセンター

学生ボランティアセンターは2004年の新潟県中越地震へのボランティア活動をきっかけに設立した学生団体です！設立場所は白山だけでなく、朝霞・川越・板倉の4キャンパスにあります！白山では8つの班に分かれボランティアを企画し、提供することが良いところでもあります！

☎entry.gakubola@gmail.com
Twitter:@toyo_vc

平成30年7月集中豪雨 被災地に応援メッセージを送ろう!!



HP
【東洋大学生限定】

西日本を中心としたこの度の記録的な豪雨により犠牲となった方々にお悔やみもうしあげるとともに、被害にあわれた全ての皆様にも心よりお見舞い申し上げます。

一日も早い被災地の復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。

社会貢献センターでは、東日本大震災での復興支援活動を通じて得た経験を基に、「学生応援メッセージ活動」を始めます。

家族や親族、友人がいる学生のみならず、何か自分にはできないことではないかと、考えている学生の皆さん。被災地に「応援メッセージ」を送りませんか？

2018 SUMMER

夏のボランティア相談会 OPEN!

in朝霞

7/13(金)
12:00~15:00

この夏、皆さんは何をして過ごしますか？
学生の今だからこそ出来る活動をしたいと考えている
学生の皆さんに、夏のボランティア活動の相談会を開催します！
本学のボランティアコーディネーターが、夏に募集をしているボランティア情報を集めてお待ちしております。

会場：朝霞キャンパス 講義棟
1階 ミーティングルーム
(学生ラウンジ隣)

2018 SUMMER

夏のボランティア相談会 OPEN!

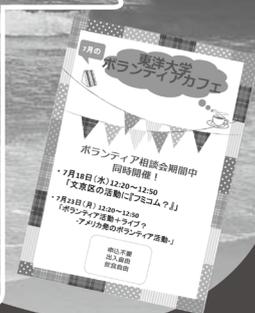
7/18(水) ~ 7/27(金)
平日 12:00~18:00

この夏、皆さんは何をして過ごしますか？
学生の今だからこそ出来る活動をしたいと考えている
学生の皆さんに、夏のボランティア活動の相談会を開催します！
本学のボランティアコーディネーターが、夏に募集をしているボランティア情報を集めてお待ちしております。

東洋大学ボランティア支援室アクセスマップ

ココロ	ココロ	ココロ	ココロ	ココロ
ココロ	ココロ	ココロ	ココロ	ココロ
ココロ	ココロ	ココロ	ココロ	ココロ

会場：雨水会館 1階
ボランティア支援室内



社会貢献 スタディツアー・2018春期

事前学習 <企業コースのみ> 2018年6月26日(火) 12:20~12:50/17:30~18:00 ※参加できない方は要相談

<企業コース>
① NECネットワークスアイ株式会社
実施日:6月28日(木)13:00~15:00 * 飯田橋ファーストタワー 定員:20名
IT・情報通信部長のNECネットワークスアイ株式会社は、被災地支援、小学校への出前授業、オリパラ関連事業など、幅広く社会貢献活動を行っています。企業がなぜ、社会貢献・CSRに力を入れているのか、担当者から話を伺います。また、IT技術を活用した「働きやすいオフィス」も見学します。

<国際理解コース>
② オリパラ前に、内なる国際化を実感しよう!~多文化のまち・大久保を歩く
実施日:7月10日(土)13:00~18:00 * 新宿区大久保・百人町 定員:10名※現地集合
オリパラの時期には、海外から多くのゲストが来日されますが、新宿区大久保・百人町は、アジアを中心とした5000人を超える外国籍市民が生活しています。現地にて説明を受けた後、街を歩き、私たちの身近で進みつつある多言語多文化を体験し、内なる国際化を体感します。

<防災・減災コース>
③ せぞぎエリア東京、てぶろ、防災・減災ボランティアアクション~
実施日:7月14日(日) 9:00~12:00 * せぞぎエリア東京 定員:10名程度※現地集合
今後30年以内に、首都直下型地震の発生する確率は、70%を超えたとされています。そもそも首都直下型地震とはどのような想定をされているのか、想定をどのように捉えればよいのか、どのような備えが必要なのか。このスタディツアーでは、東京臨海広域防災公園(せぞぎエリア東京)の見学を通じ、首都直下型地震について、防災・減災のための活動に向けて学び、防災・減災に向けて主体的に行動できるような人づくりを目指します。

事後学習 <全コース共通> 2018年7月17日(火) 14:45~16:15 ※参加できない方は要相談

【応募条件】
<企業コース>
①事前学習、②ツアーへの参加 ③事後学習 ①~③すべてに参加すること。
<国際理解コース>
①ツアーへの参加、②事後学習 ①~②すべてに参加すること。

【応募方法】
下記URLの入力フォームに必要事項をご入力ください。
<https://www.toyo.ac.jp/ques/questionnaire.php?openid=959>

【応募期間】 <企業コース>
2018年6月8日(金)~6月21日(木)18:00
<国際理解コース>
2018年6月8日(金)~7月2日(月)18:00

【参加者決定通知】
<企業コース>
6月22日(金) 15時以降にメールにて
<国際理解コース>
7月3日(火) 15時以降にメールにて (実施詳細もメールでお知らせします)

【注意事項】
※事後学習は訪問先に限らず合同実施 ※どうしても参加が困難な場合は、事前にご相談ください。
※参加費無料/それぞれ集合・解散場所が異なります。(交通費自己負担)
※複数参加が可能です。ただし、申込多数の場合、訪問先のご参加希望理由(300文字程度)、初回参加者、希望順を優先して選考します。

お問合せ先: 東洋大学ボランティア支援室 〒113-0021 東京都文京区本駒込1-10-2 浦水会館1階
TEL: 03-3945-7927 MAIL: mlvsup@toyo.jp

井上円了リーダー哲学塾 フィールドワークとの合同開催

社会貢献スタディツアー・2018秋期 第一弾

<国際理解>説明、案内:社会学部 箕曲先生
オリパラ前に、内なる国際化を実感しよう!~多文化のまち・大久保を歩く
実施日:10月20日(土)13:00~15:00(予定)
* 新宿区大久保・百人町 定員:10名程度 先着順
* 現地集合、現地解散(参加費無料、交通費自己負担)
オリパラの時期には、海外から多くのゲストが来日されますが、新宿区大久保・百人町は、アジアを中心とした5000人を超える外国籍市民が生活しています。現地にて説明を受けた後、街を歩き、私たちの身近で進みつつある多言語多文化を体験し、内なる国際化を体感します。

また、井上円了リーダー哲学塾の授業見学としても開放いたしますので、次年度以降の入塾希望の方は、塾の活動の様子を是非見に来てください。

事後学習 2018年10月27日(土) 13:00~14:30 * 井上円了リーダー哲学塾の報告会参加

【応募条件】
①ツアーへの参加、②出来るだけ事後学習に参加すること。

【応募方法】
URLの入力フォームに必要事項をご入力ください。
<https://www.toyo.ac.jp/ques/questionnaire.php?openid=1127>

【応募期間】 2018年10月9日(土)~10月18日(木)18:00
【参加者決定通知】 10月19日(金) 10時以降にメールにて (実施詳細もメールでお知らせします)

【注意事項】
※事後学習にどうしても参加が困難な場合は、事前にご相談ください。
※参加費無料/現地集合・現地解散になります。(交通費自己負担)

お問合せ先: 東洋大学ボランティア支援室 〒113-0021 東京都文京区本駒込1-10-2 浦水会館1階
TEL: 03-3945-7927 MAIL: mlvsup@toyo.jp

井上円了リーダー哲学塾 フィールドワークとの合同開催

社会貢献スタディツアー 2018秋期 第二弾 「中高生の秘密基地b-lab(ビーラボ)見学ツアー」

b-lab(ビーラボ)とは、2015年4月にオープンした教育センター(複合施設)の中にある区内初の中学生向け施設です。b-labは、いつでも、なんでも挑戦できる中高生の秘密基地です。リビングのようにくつろげたり、みんなでわいわい勉強したり、新しい友だちと出会ったり、バンド活動やダンス、バスケができたり、やりたいことに思いっきり打ち込んだり...そんな施設を見学しながら、子どもの居場所について皆さんで考えてみませんか。

同行: 社会学部非常勤講師、ボランティア支援室コーディネーター 林先生

実施日: 11月10日(土)13:00~14:30、14:45~16:15
施設見学+ワーク他
@ 文京区湯島 文京区青少年プラザ b-lab(ビーラボ)
定員: 10名程度 先着順
※現地集合、現地解散(参加費無料、交通費自己負担)
また、井上円了リーダー哲学塾の授業見学としても開放いたしますので、次年度以降の入塾希望の方は、塾の活動の様子を是非見に来てください。

【応募条件】
①ツアーへの参加

【応募方法】
URLの入力フォームに必要事項をご入力ください。
<https://www.toyo.ac.jp/ques/questionnaire.php?openid=1131>

【応募期間】 <参加者決定通知>
2018年10月12日(金)~11月5日(月)18:00 11月6日(火) 10時以降にメールにて (実施詳細もメールでお知らせします)

【注意事項】
※参加費無料/現地集合・現地解散になります。(交通費自己負担)

お問合せ先: 東洋大学ボランティア支援室 〒113-0021 東京都文京区本駒込1-10-2 浦水会館1階
TEL: 03-3945-7927 MAIL: mlvsup@toyo.jp

平成30年7月豪雨 災害ボランティア活動事前研修

平成30年7月豪雨災害に対する支援を考え、夏休み以降、何らかの形で現地入りを検討している学生の皆さんもいらっしゃるのではないかと思います。

これまで「復興支援」には関わっていても、発災直後の支援には関わっていない方は多いと思われます。7月~9月頃の被災数ヶ月後の現場は、復興支援の状況とは全く異なります。そこで、平成30年7月豪雨被災地支援に関する事前研修を実施します。

被災地入りを推奨する内容ではなく、あくまで「もしも本に行きたいのなら、これだけは知って欲しい」という内容です。この夏に平成30年7月豪雨により被災した地域での災害ボランティア活動を検討している方は、東洋大学学生・教職員のほか、大学・所属等問わずどなたでも是非ご参加ください。

日時 2018年8月8日(水) 13時~16時

会場 東洋大学 白山キャンパス (都営三田線白山駅、東京メトロ南北線本駒込駅下車徒歩7分)

講師 宮崎 賢哉氏(災害支援・防災教育コーディネーター/社会福祉士)

参加費 無料

第1部 基礎編 (講義、簡易ワーク) 13時~14時20分
・被災地状況報告、活動体験談(7月豪雨・円市+1995~の事例)
・災害ボランティアとは 被災ボランティアセンターについて
・災害ボランティア活動時の装備、持ち物
・被災された方との接し方、心のケア 等

第2部 応用編 (グループワーク) 14時30分~16時
・被災地支援活動ケースワーク
・クロスロードを用いた安全衛生に関するディスカッション
・水害被災地作業KYT<危険予知トレーニング>
被災地写真を見て危険箇所や注意事項を話し合う

参加をご希望の方は下記URLまたはQRコードよりお申込みください。
<https://www.toyo.ac.jp/ques/questionnaire.php?openid=1078>

会場となる教室は8/8(水)中に申込時にご登録いただいたメールアドレス、およびホームページにてお知らせいたします。

主催: 東洋大学 ボランティア支援室
TEL: 03-3945-7927 e-mail: mlvsup@toyo.jp

TOYO UNIVERSITY

東洋大学のお兄さん・お姉さんと一緒に

夏休みの小学生のための
「乳幼児との触れ合い体験」「宿題サポート」
「一緒に遊ぼう! 話そう!」
8月16日(木)・17日(金)
飯能市子育て総合センター

今年で5回目となる、東洋大学のお兄さん、お姉さんによる、飯能市の小学4年～6年生を対象にした、「乳幼児との触れ合い体験」「夏休みの宿題サポート」「一緒に遊ぶ&話す」プログラムです。

午前中は、子育て総合センターで、どんぐりルームに来ている乳幼児との触れ合いや子育て体験をします。

午後は、夏休みの宿題の分からないところなどを、東洋大学のお兄さん、お姉さんがやさしく教えます(答えを教えるのではなく、どのようにやったらいいのかを一緒に考えます)。また、近くの公園で、一緒に遊んだりします(運動のしやすい格好で来て下さい/雨天時は、総合センター内で身体を使ってあそびます)。

7月23日(月)8:30から先着順で申し込みを受け付けます!

日時: 8月16日(木)、17日(金) それぞれ10時～16時(12時～13時は昼食)

場所: 飯能市子育て総合センター、公園(午後)

対象・定員: 飯能市の小学4年生～6年生 20名程度

保険料: 50円(当日、会場に持参してください)

持ち物: 弁当、飲み物、タオル、着替え(汗をかきます!）、上履き、宿題、筆記用具、保険料

その他: 運動しやすい格好で来て下さい

サポーター: 東洋大学の学生

ボランティア参加してくれる学生を募集中です!

ボランティア希望学生を、各日先着10名、募集します。希望者は、7/24(火)午後5時までに、①名前、②学部・学科、③学籍番号、④学年、⑤参加できる日(1日のみも可)、⑥参加希望動機、をボランティア支援室まで、メール連絡してください。 mlvolsup@toyo.jp (担当: 林)

- ・各日も先着順に10名、受け付けます。7/24以前に定員に達した場合は受付を締め切ります。
- ・参加の可否については、7/24(火)18時以降にメールにてお知らせします。
- ・申し込み後、7/31(火)に事前打ち合わせを行います(場所等について、事前に連絡します)
- ・ボランティア参加においては、経験の有無等の条件はありません。初めてのボランティアも歓迎です。
- ・これまで社会学部・ライフデザイン学部の学生を中心に、毎年10-20名が参加しています。
- ※自宅～会場までの交通費は自己負担です

東洋大学の卒業生が現役生に伝える、被災地の現状とこれから ボランティア募集

東洋大学の現役の学生と、卒業生が、被災地で出会い、交流することを通じて、東北における「復興・創生」のいまを見つめると共に、東洋大生としてできることは何かを深める。

【実施内容】

実施日時: 2018年8月31日(金) 7:00～9月2日(日) 17:00

実施内容: 現地視察、南相馬市内の児童館・高齢者施設訪問及びボランティア活動予定
(<https://www.toyo.ac.jp/site/csc/356641.html>)

定員: 10名程度(定員を超えた場合は参加理由等で選考します)

※申込者数が少ない場合、中止となる場合があります。

行き先: 福島県南相馬市

集合・解散場所: 新宿【大学貸切バス(大学負担)にて全ての日程移動】

費用: 食費(宿舍食費5,400円は事前徴収)

集合場所(新宿)までの交通費

応募対象者: 本学部学生

申込方法: QRコードより申込フォームにて入力

申込期間: 2018年7月19(木)～8月6日(月) 18:00まで

結果は8/8(水)正午直前でメールにてお知らせします

主催: 学生課外活動育成会、東洋大学ボランティア支援室

お問い合わせ先

東洋大学 ボランティア支援室

03-3945-7605

<http://www.toyo.ac.jp/site/csc/316315.html>



TOYO UNIVERSITY



SO日本×東洋大学協定イベント ユニファイドワークショップ開催 無料



© Special Olympics Nippon

ユニファイドスポーツとは、知的障害のある人(アスリート)と知的障害のない人(パートナー)が混合チームを作り、練習や試合を行い、スポーツを通じてお互いに相手の個性を理解し合い支え合う関係を築いていく取組です。スペシャルオリンピックス国際本部が推進しているプログラムの一つで、世界中で展開されており、世界大会公式種目としても実施されています。

実施日: 2018年11月18日(日) 10:30～12:00

場所: 東洋大学総合スポーツセンター(板橋区清水町)

内容: ①ワークショップ(10:30～11:15)

スペシャルオリンピックスが取り組む共生社会に向けた活動(ユニファイドスポーツ)のレクチャー

②ユニファイドスポーツ(バスケットボール)の見学

(11:15～12:00)

募集人数 参加対象者: 30名程度、東洋大学の学生および教職員

申し込み期間: 2018年10月15日(月)～11月12日(月)

申し込み方法: 専用申し込みフォーム(QRコード)から

ご応募ください

申し込みフォーム↓



東洋大学
TOYO UNIVERSITY



Special Olympics
Unified Schools

東洋大学課外活動育成会

もし、大学にいて大地震が発生したら?

～首都直下型地震に備える! 東洋大学宿泊サハイバル体験～

今後30年以内に70%以上の確率で首都圏で発生すると懸念されている、マグニチュード7クラスのいわゆる「首都直下型地震」。そんな時に大学は、学生はどのようなことを想定して動くべきなのでしょうか?

今回のプログラムは、災害時の応急対応として基礎的な知識と技能を修得する「普通救命講習」や、実際に大規模地震が発生したことを想定してキャンパス内に留まり、実際の場面でのよう行動するか、その時に向けてどのような備えをすべきか、ということについて学びます。また、2020年東京オリンピックパラリンピックの、主に都市ボランティアとして関わる人に向けた、防災ボランティア活動経験との1つとしても想定しています。

※普通救命講習受講者には救命技能認定証が交付されます。

12/1
(土)

13:00～

1日目

13:00-14:00 煙体験、起振車体験
14:15-17:15 普通救命講習
17:30-18:00 オリエンテーション
18:00-19:30 フィールドワーク ※災害時対応を学ぶ
19:30-21:30 体験プログラム ※夕食づくり(防災食の準備) 簡易トイレづくり



参加費

¥400

12/1(土)
普通救命講習のみの参加も可能です。参加費の入金手続きについては、参加の可否についてのメールにてお知らせいたします。

12/2
(日)

～12:20

2日目

7:30-9:00 体験プログラム ※朝食づくり、撤収
9:00-11:00 ワークショップ ※避難所運営ゲームHUG
11:15-12:20 ワークショップ ※ふりかえり



定員

50名

対象: 学部生のみ
大学院生、通学生の方はお申し込みいただけません。

申込方法

申込方法: 右のQRコードより申込フォームに入力してください。

申込期間: 2018年11月2日(金)～11月16日(金)

※申込み者多数の場合、抽選になります。参加の可否については、11月19日(月)に申込時に登録したメールアドレスにお送りします。



WEBページはこちら↑

お問い合わせはこちら

東洋大学ボランティア支援室

TEL: 03-3945-7927

MAIL: mlvolsup@toyo.jp



TOYO UNIVERSITY

東洋大学ボランティア支援室
2018年 東洋大学・ボランティアWEEK
～人権とボランティアについて考えよう～

期 間 2018年 12月1日(土)～15日(土)

映画上映
『くちづけ』
日時：12月5日(水)
14:40～18:00
会場：白山キャンパス
6210教室

講演会
「障がいのある子どもの
子育てを通して想うこと」
日時：12月6日(木)
14:40～16:10
会場：朝霞キャンパス
講313

この席かに
ボラカフェ・展示会も
開催します！



HPはコチラ↑↑

講演会
「ロヒンギャ問題における
人権課題～難民キャンプの
事例から」
日時：12月7日(金)
13:00～14:30
会場：白山キャンパス
8B11教室

講演会
「産前診断・出生前診断
からゲノム医療の技術の最
前線」
日時：12月7日(金)
15:00～16:30
会場：板倉キャンパス
1102教室

映画上映
『性別が、ない！
インターセックス漫画家
のクワイな日々』
日時：12月11日(火)
13:00～14:30
会場：白山キャンパス
井上円了ホール

講演会
『病院にある学校・
学級の子どもの今』
日時：12月11日(火)
13:00～14:30
会場：白山キャンパス
6B14教室

映画鑑賞会
『私はマララ』
日時：12月11日(火)
19:55～21:25
会場：白山キャンパス
1305教室

※事前申込みが必要な場合がございます。

主催：ボランティア支援室 後援：法務省・東京法務局
Tel.03-3945-7927 東京人権擁護委員協議会(申請中)



ボランティアウィーク
～人権とボランティアについて考えよう～

『木曜4限「障害の理解」』(是枝先生)、ボランティア支援室 コラボ企画
「障がいのある子どもの子育てを通して想うこと」

障がいのある子どもの育ちを支えてきた日々を振り返り、学校選択での悩み、特別支援学級等に在籍していた当時のこと、青年期を迎えた現在、改めて感じることや兄弟の気持ちについて、人権擁護やボランティアの問題などと絡めてお話をいただく予定です。

日 時 12月6日(木) 14:40～16:10

会 場 講313教室(朝霞キャンパス講義棟3階)

講 師 NPO法人なかよしねっと・子育て支援センター 施設長
住田 貴子 氏

定 員 40名※(当日お席に余裕がある場合のみ当日参加が可能です。)

申 込 各種申し込みは下記QRコードから!!
お申込期限：～12月4日(火)まで。
(是枝先生の木4「障害の理解」の受講者は申し込み不用です。)

入場
無料



お問合せ先：東洋大学ボランティア支援室
〒113-0021 東京都文京区本駒込1-10-2雨水会館1階
TEL：03-3945-7927 MAIL：mlvolsup@toyo.jp

お申込はこちら↑↑



ボランティアウィーク
～人権とボランティアについて考えよう～

『金曜3限 文化人類学B』(箕曲先生)、ボランティア支援室 コラボ企画
「ロヒンギャ問題における人権課題 -難民キャンプの事例から」



講師紹介
日下部 尚徳 氏(東京外国語大学講師)
文京学院大学助教、大妻女子大学専任講師を経て、現職。国際協力論、南アジア地域研究、開発社会学の視座から、バングラデシュの社会経済動向や貧困・災害などに関する調査研究を行う。主な著作は、『わたし8歳、職業、家事従事者。：世界の児童労働者1億5200万人の1人』(合同出版、2018年)、『脆弱な土地に生きる-バングラデシュのサイクロン防災と命のボーター-』(共著『歴史としてのレジリエンス』京都大学学術出版会、2016年)、『バングラデシュにおけるNGOの活動変遷-援助から社会変革へ』(共著『学生のためのピース・ノート2』コモンズ、2015年)、『NGOと平和構築-バングラデシュ、チッタゴン丘陵問題におけるシユマ・ネットの活動を事例に』(共著『フィールド』からの平和構築論-アジア地域の紛争と日本の平和関与』勁草書房、2013年)など。

日 時 12月7日(金) 13:00～14:30

会 場 8B11教室(白山キャンパス8号館地下1階)

定 員 150名※(当日お席に余裕がある場合のみ当日参加が可能です。)

申 込 各種申し込みは下記QRコードから!!
お申込期限：～12月4日(火)まで。
(箕曲先生の金3文化人類学の受講者は申し込み不用です。)

入場
無料

お問合せ先：東洋大学ボランティア支援室
〒113-0021 東京都文京区本駒込1-10-2雨水会館1階
TEL：03-3945-7927 MAIL：mlvolsup@toyo.jp



ボランティアウィーク
～人権とボランティアについて考えよう～

『金曜4限 現代生物学』(藤村先生)、ボランティア支援室 コラボ企画
「着床前診断・出生前診断からゲノム医療の技術の最前線」



榎庭 喜行 氏(Varinos株式会社)講演会

会社概要
Varinos株式会社はゲノム医療の在り方を考え、次世代シーケンサー(NGS)を用いた検査サービスの標準化を推進し、継続的なクニカシールシーケンスを提供することを目指すスタートアップベンチャーの臨床検査会社です。弊社独自のアカデミア研究機関と医療機関のネットワークを活かし、開発から臨床まで一気通貫の体制で新世代のゲノム検査の開発および実用化を行います。将来的には様々なゲノム関連検査を受託する計画ですが、まずは子宮内胎児環境を把握する検査を実用化し、生殖医療分野に提供することを旨とします。世界に先駆けて開発した「子宮内フローラ検査」は、品川区のメードイン品川ブランドに認定されました。

日 時 12月7日(金) 15:00～16:30

会 場 1102教室(板倉キャンパス1号館1階)

定 員 150名※(当日お席に余裕がある場合のみ当日参加が可能です。)

申 込 各種申し込みは下記QRコードから!!
お申込期限：～12月4日(火)まで。
(藤村先生の金3分子遺伝学、金4 現代生物学の受講者は申し込み不用です。)

入場
無料

お問合せ先：東洋大学ボランティア支援室
〒113-0021 東京都文京区本駒込1-10-2雨水会館1階
TEL：03-3945-7927 MAIL：mlvolsup@toyo.jp



お申込はこちら↑↑

男でもない、女でもない何か。「幸せに死んでやるぜ...」死ぬまでのショーです。

性別がない!

インターセックス漫画家のクイアな日々

セクシュアリティについて悩む若者たちから圧倒的支持を得るインターセックス漫画家の内面に迫るドキュメンタリー

新井祥 うさきこう
IKKAN 倉持智好 中山貴行 船越裕樹 青山とまり 監
ナレーション:小池 栄子 テーマ曲:Over the Rainbow (歌:滝田 夏実)

渡辺 正悟 監督作品
構成:野島 市子/撮影:大石 秀男/編集:松下 一也/プロデューサー:キム ヒロシ
企画協力:ぶんか社/宣伝:稲谷 穂広/配給:オリーブフィルムズ/制作:ザ・ファクトリー

seibetsu-movie.com

性別がない! インターセックス漫画家のクイアな日々

ある人は僕を「男」と言い、ある人は「女」と言う。時に「トランスジェンダー」と呼ばれ、時に「性別同一性障害」と呼ばれる。どこにもいるはずのない「みんな」によって自分ではない「誰か」にされてしまわないように。

—— 杉山文野 (トランスジェンダー活動家)

LGBTという言葉が広まる一方で、セクシュアル・マイノリティの総称のように使われ、性の多様さを覆い隠してしまふことも。人の数だけ体があり、誇りや悩みや喜びがあることを丁寧に観る作品です。

—— 小島慶子 (エッセイスト)

男でも、女でもない「中性」として生きる漫画家の内面に迫るドキュメンタリー

主人公、新井祥は30歳まで女性として暮らし、染色体検査でインターセックスと判明。現在は、男性でもなく、女性でもない「中性」として生き、自分の体に起きた劇的な体験をエッセイ漫画として観てと書く。離婚経験し、専門学校講師となる。そこで出会ったクイアの美青年、こう君をアシスタントにして、同居生活を送る。出会いから10年、こう君は漫画家デビューし、カミングアウトをする。カメラは2人の1年を追った。2人の関係は意外な方向へ...

出演:新井祥 / うさきこう / IKKAN / 倉持智好 / 中山貴行 / 船越裕樹 / 青山とまり / 藤ナレーション:小池 栄子 / テーマ曲: Over the Rainbow (歌: 滝田 夏実)
制作: 渡辺 正悟 / 構成: 野島 市子 / 撮影: 大石 秀男 / 編集: 松下 一也 / 企画協力: ぶんか社 / 宣伝: 稲谷 穂広 / 配給: オリーブフィルムズ
製作: ザ・ファクトリー / 2018年 / 87分 / DCP / 18歳 46分 / ドキュメンタリー

seibetsu-movie.com

日時: 2018年12月11日 (火) 13:00~14:30
会場: 井上円了ホール (東洋大学白山キャンパス5号館地下2階)
定員: 約200名 (先着順)

お問合せ先: 東洋大学ボランティア支援室
〒113-0021 東京都文京区本駒込1-10-2 雨水会館1階
TEL: 03-3945-7927 MAIL: mlvolusup@toyo.jp

申込期間: 2018年12月6日 (木) まで
申込方法: 下記QRよりお申込ください!!
(火・3井沢先生「共生社会学B」の受講者は、お申し込みの必要はありません)

TOYO Volunteer Week

ボランティアウィーク

~人権とボランティアについて考えよう~

「病院にある学校・学級の子どもの今」

『火曜3限 病児の指導法』(滝川先生)、ボランティア支援室 コラボ企画

NHKプロフェッショナル 仕事の流儀 出演 副島 賢和 氏 特別講演会

日時 2018年12月11日 (火) 13:00~14:30 **無料**

会場 東洋大学白山キャンパス 6B14教室

申込 申込期間: 12月7日 (金) まで
申込方法: 下記QRコードから
定員: 約100名 (先着順)
※『病児の指導法』(火3・滝川先生)を受講している学生は申込不要です。直接会場に行ってください。

お問合せ先: 東洋大学ボランティア支援室
〒113-0021 東京都文京区本駒込1-10-2 雨水会館1階
TEL: 03-3945-7927 MAIL: mlvolusup@toyo.jp

ボランティアウィーク

~人権とボランティアについて考えよう~

『火曜7限 宗教と社会』(子島先生) ボランティア支援室 コラボ企画

映画『わたしはマララ』鑑賞会

「17歳の少女がノーベル平和賞を受賞！」

2014年、世界中がそのニュースに沸き、パキスタン生まれのマララ・ユスフザイは一夜で時の人となった。タリバン制圧下で教育の必要性を訴え、15歳で銃撃され瀕死の重傷を負った彼女は、奇跡的に一命をとりとめる。過酷なリハビリに耐えて笑顔を取り戻し、再び立ち上がったマララ。なぜ、彼女は命の危険に晒されながらも活動を続けるのか? 彼女を支える家族との特別な絆とは? いま、世界を変えた「ふつうの女の子」の知られざる物語が明らかになる——。

日時 2018年12月11日 (火) 19:55~21:25 (70分鑑賞後、簡単な解説有)

会場 1305教室 (1号館3階)

定員 約100名 (先着順)
※当日参加についてはお席に余裕がある場合のみ参加可能です。

参加費 無料

申込期間 11月28日 (水) まで 『火曜7限 宗教と社会』受講者は、申し込みの必要はありません。

申込方法 下記QRコードよりお申込ください!!

お申込はこちら

お問合せ先: 東洋大学ボランティア支援室
〒113-0021 東京都文京区本駒込1-10-2 雨水会館1階
TEL: 03-3945-7927
MAIL: mlvolusup@toyo.jp

主催: 東洋大学ボランティア支援室

福島県いわき市の食と フェアトレードでつながる —フェアトレード商品販売—



PROJECT!!

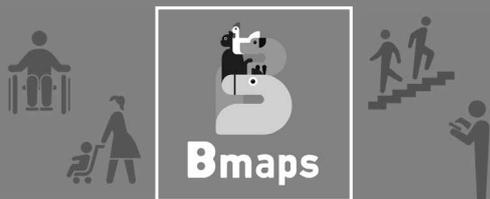
ボランティアWeekコラボ企画

日時: 2018.12/12(水) 10:30~17:00

場所: 6号館 学生部前通路

東洋大学学生課外活動育成会企画

バリアフリー地図アプリ 「Bmaps」を活用した バリアフリーまちあるき



開催日 12月22日(土) 13:30~16:30

白山キャンパスや周辺の施設・飲食店などのバリアフリーマップを作成して、誰もが通しやすい、学びやすい環境をみんなで作りませんか？
今回のイベントでは、スマートフォンアプリ「Bmaps」(CANPAN、株式会社ミライオ開発)を活用します！グループでまちあるきをしながら、施設や店舗などの段差をはじめとしたバリアフリー情報を収集し、アプリにレビューを投稿します。まちあるきの後に、グループごとの感想をシェアしたり、印象に残ったスポットを紹介するワークショップも行ないます！

<当日の流れ>

- 13:30 参加者集合/イントロダクション・講義
- 14:00 まちあるき開始/Bmapsに情報投稿
- 15:30 まちあるき終了/ワークショップ開始
- 16:30 イベント終了/解散

グループごとに車椅子に乗り、バリアを体験しながらまちあるきを行ないます。

- 【応募条件】本学学部生(通信生は除く)
- 【募集人数】30名程度(応募者多数の場合は選考あり)
- 【応募方法】下記URLまたは右のQRコードよりお申込みください。
<https://www.toyo.ac.jp/ques/questionnaire.php?openid=1137>
- 【応募期間】2018年11月1日(木)~12月6日(木)
- 【参加者決定通知】12月11日(火)にメールにてお知らせします。



主催:バリアフリーサークル歩み、東洋大学ボランティア支援室
協力:株式会社ミライオ
お問合せ先:東洋大学ボランティア支援室 〒113-0021 東京都文京区本駒込1-10-2雨水会館1階
TEL:03-3945-7927 MAIL:mlvolsup@toyo.jp

東洋大学学生課外活動育成会 Be a Good Universal Volunteer! ~ユニバーサルマナー講演会~



2020年東京オリンピック・パラリンピックでは、外国籍の方々や障がいがある方など「自分とは違う」立場の方と接する機会が増えることが予想されます。

自分とは違う誰かのことを思いやり、適切な理解のもと行動すること。それが「ユニバーサルマナー」です。この「マインド」と「アクション」を講習で習得いただけます。

日本ユニバーサルマナー協会協力のもと、このユニバーサルマナーについて学んでみませんか？

2019年

1月29日(火)
13時~15時半

会場:東洋大学白山キャンパス

対象 東洋大学生(学部生のみ)

参加費 無料



1部:講演・ワーク
ユニバーサルマナーとは?



講師:薄葉 幸恵 様
株式会社ミライオ講師
日本ユニバーサルマナー
協会講師

2部:講演・ワーク

講師:山口 凌河さん
東洋大学社会学部4年
ゴールボール日本代表
強化選手



3部:対談

山口 凌河さん
×
林真生さん

【申込方法】

右のQRコードより
申込フォームに
入力してください。

【申込期間】

2018年12月17日(月)~2019年1月22日(火)



東洋大学 ボランティア支援室

TEL: 03-3945-7927
MAIL: mlvolsup@toyo.jp

東洋大学学生課外活動育成会

被災地の大学生と 東洋大生が取り組む 被災地支援のあり方 in南三陸

2泊3日 (2/22~2/24)
研修プログラム



日程：2019年2月22日(金)～24日(日) 2泊3日

東日本大震災から7年が経過しました。南三陸町出身者を中心に、東北出場の大学生と社会人の若者が、地元目線で復興のこれからについて考える「Project M」に取り組んでいる。
※「Project M」とは、地元ツアー企画による地域発信、語り部講演等による防災啓発活動などを実施。東日本大震災の過去と教訓を語り継ぐ活動と、若い世代が地域の中で交流を実践する活動を通して、地域や社会に対する若者の関わり方を探っていくプロジェクトです。
そこで、東洋大学の学生と被災経験をした大学生同士が、被災地で出会い、交流することを通して、東北における「復興・創生」のいまを見つめ、同じ大学生としてできることは何かを深めていきます。

事前
顔合わせ
2/13(水)
10:30~
※原則ご参加
ください。

2/22~2/24
2泊3日
主なプログラム
※プログラムの詳細は
ホームページで
ご確認ください。

- 1日目▶8:00 新宿西口出発
ワークショップ 事前研修 町づくりゲーム
- 2日目▶一次産業の体験活動(林業・漁業)
メンバーによる被災体験の説明
郷土芸能ワークショップ
- 3日目▶振り返りワークショップ
18:00 新宿西口到着予定

▶参加費：¥5,400円(現地徴収) ▶定員：20名 ※学部生のみ

参加費は宿での朝食・夕食各2食分です。
バス移動交通費、宿泊費は育成会費より支出されます。
その他の費用(昼食代等)は参加費以外の自己負担となります。

お申込み・お問い合わせ

申込方法：右下のQRコードよりプログラム詳細を確認の上、申込フォームに入力してください。

申込期間：2019年1月11日(金)～2月7日(木)

※申込み者多数の場合、抽選になります。参加の可否については、2月8日(金)頃に申込時に登録したメールアドレスにお送りします。

主催：東洋大学ボランティア支援室 協力：プロジェクトM
お問合せ先：東洋大学ボランティア支援室 TEL：03-3945-7927 MAIL：mlvolsup@toyo.jp



1泊2日のバス研修プログラム

福島県いわき市の漁業 の現状を発信する

福島県いわき市の漁業は、原発事故の影響で未だ本格的な再開には至っていません。しかし、試験操業の対象魚種も2017年段階で97種にまで拡大するなど、少しずつ展望が開ける状況になってきています。
このような状況を実際に漁業の現場を訪れ、関係者の方から話を伺ったうえで、現状を把握するとともにSNS等を使って発信することで、福島漁業への支援をおこないませんか。後日、フェアトレード方式で福島の水産加工品の販売も行ないます。

3/5
(火)
1日目

- 08:15 新宿駅西口出発
- 12:00 いわき市到着後開業。ガイドと会話し、昼食。
- 13:30 久志漁港を訪問。
- 15:00 茨城県常陸那珂市(旧鹿嶋区域で、試験操業が解禁された北側の町)。
- 17:00 いわき市漁港。古海産物館。
- 18:00 漁業の現状発表と東京の水産加工品の販売に関して議論。
- 21:00 帰郷。

3/6
(水)
2日目

- 08:00 いわき市港内/内津漁港。
 - 11:00 いわき市観光。
 - 14:30 中央青いワニ(いわき市最大の魚介類・水産加工物販売所) 見学+昼食。
 - 18:00 新藤駅西口到着。
- ※スケジュールは変更になる場合があります。

参加費 ¥3,000程度

バス移動交通費、1泊朝食代は育成会費より支出されますので無料です。その他の費用(夕食・昼食代等)は自己負担となります。

定員 30名(学部生のみ)

参加者には事前学習および事後のフェアトレード販売にも参加していただきます。

申込方法

申込方法：右下のQRコードより申込フォームに入力してください。
申込期間：2019年1月8日(火)～1月31日(木)
※申込み者多数の場合、抽選になります。参加の可否については、2月6日(水)までに申込時に登録したメールアドレスにお送りします。

申込フォーム↓



主催：東洋大学フェアトレードサークル Heart Bazaar / 東洋大学ボランティア支援室
お問合せ先：東洋大学ボランティア支援室
〒113-0021 東京都文京区本駒込1-10-2 水会館1階 TEL：03-3945-7927 MAIL：mlvolsup@toyo.jp

ボランティア支援室ガイダンスの実施

ボランティア支援室では、学生のボランティア意識向上を図るため、授業単位でボランティア支援室のコーディネーターによるガイダンスを実施した。概要は以下のとおり。

1. 実施コース

- | | |
|-----------------------------------|-----------|
| A. 概要説明・ワーク（注）・白山キャンパスボランティア支援室見学 | 90分コース |
| B. 概要説明・ワーク（注） | 60～90分コース |
| C. 概要説明 | 30分コース |

（注）ワークはディスカッション等を行います

2. 実施日時

授業期間に授業単位での実施

3. 申込方法

- ① ボランティア支援室サイト内のお申し込みフォームにご入力
 - ② 別紙の「ボランティア支援室ガイダンス申込書」に必要事項をご記入の上、ボランティア支援室（白山キャンパス・雨水会館1階）にご提出
- ①②のいずれかの方法でお申込ください。

4. 実施実績（2018年度）

9件（4月…5件、5月…1件、6月…1件、10月…1件、11月…1件）

5. 受講者の感想（抜粋）

- 実際にボランティアをしてみたいという気持ちが強まりました。今までは、人や社会のために役立ちたいからボランティアをやりたいと思っていたのですが、今回の講座で自分の成長のためや、自分が楽しむためにボランティアに参加してもいいのだということを改めて気づかされました。
- ボランティアに興味はあったけれど実際どう参加したらいいのか分からなかったのでお話が聞けてよかったです。



平成30年度

ボランティア支援室について

東洋大学ボランティア支援室要項

平成 29 年要項第 3 号・平成 29 年 4 月 1 日施行

東洋大学ボランティア支援室要項

(設置)

第 1 条 東洋大学社会貢献センター規程第 4 条第 4 項に基づき、社会貢献センターに「東洋大学ボランティア支援室」(以下「ボランティア支援室」という。)を置く。

(目的)

第 2 条 ボランティア支援室は、本学で実施する学生及び教職員によるボランティア活動に関する支援策の策定、情報収集、発信及び提供することを通じて、本学の社会貢献活動の発展に寄与することを目的とする。

(機能)

第 3 条 ボランティア支援室は、学生支援課をはじめ各部署が所管するボランティア活動と相俟って相互に連携及び協力するとともに、全学的な統括部署としての機能を有する。

(業務)

第 4 条 ボランティア支援室は、第 2 条の目的を達成するため、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) ボランティア支援室の方針及び計画の策定に関する事項
- (2) ボランティア活動の開拓及び実施に関する事項
- (3) ボランティア活動に関する情報の収集、管理及び提供に関する事項
- (4) ボランティアに係る相談、助言及び支援策に関する事項
- (5) 学外ボランティア関係機関等からの紹介及び連絡調整に関する事項
- (6) その他ボランティア支援室の目的達成に必要な業務

(室長)

第 5 条 ボランティア支援室に、室長を置く。

- 2 室長は、社会貢献センター長とし、ボランティア支援室の業務を統括し、ボランティア支援室を代表する。

(副室長)

第 6 条 ボランティア支援室に、副室長を置くことができる。

- 2 副室長は、本学の専任教授のうちから、室長及び学長の推薦により、理事長が任命する。
- 3 副室長は、室長を補佐するとともに、室長に事故があるとき又は室長が欠けたときは、室長の職務を代理し、又は代行する。
- 4 副室長の任期は 2 年以内とし、室長の任期満了とともに終了する。ただし、再任を妨げない。

(専門スタッフ)

第 7 条 ボランティア支援室に、ボランティア支援活動に従事する者として、専門スタッフを配置する。

- 2 前項のスタッフの任用及び職務等については、別に定める。

(運営委員会)

第8条 ボランティア支援室に、運営委員会を置く。

(運営委員会の組織)

第9条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- (1) 室長及び副室長
- (2) 社会貢献センター運営委員会委員（通信教育部長を除く。）から互選した者 若干名
- (3) 室長が推薦する者 若干名
- (4) 学生部長
- (5) 教務部長

(委員の任期)

第10条 前条第2号及び第3号に掲げる委員の任期は、2年とする。ただし、任期の途中で委員となった者の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任することができる。

(審議事項)

第11条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) ボランティア支援室の基本方針
- (2) ボランティア支援室の業務計画に関する事項
- (3) 学長から諮問された事項
- (4) その他ボランティア支援室に関する重要事項

(議長)

第12条 運営委員会は、室長が招集し、その議長となる。

(委員以外の出席)

第13条 議長は、必要に応じ、委員以外の者を運営委員会に出席させ、その意見を聴くことができる。

(専門部会)

第14条 運営委員会は、専門的な事項について調査審議するほか、ボランティア支援室業務に係る企画立案等の作業を支援するため、専門部会を置く。

2 専門部会について必要な事項は、運営委員会の意見を聴いて室長が定める。

(業務計画)

第15条 室長は、当該年度の10月末日までに次年度の業務計画を定め、学長の承認を受けなければならない。

- 2 室長は、各年度の業務の実施結果について、当該年度終了後1カ月以内に、学長に報告しなければならない。
- 3 業務計画を変更する場合は、学長の承認を受けなければならない。

(評価委員会)

第16条 ボランティア支援室が実施したボランティア活動等業務内容を評価し、その活動内容について室長に適切な助言をするために、評価委員会を置く。

2 評価委員会の運営及び評価方法に関する必要事項は、別に定める。

(事務)

第 17 条 ボランティア支援室の事務は、学生支援課その他関係部署と連携協力のうえ、エクステンション課が行う。

(細則)

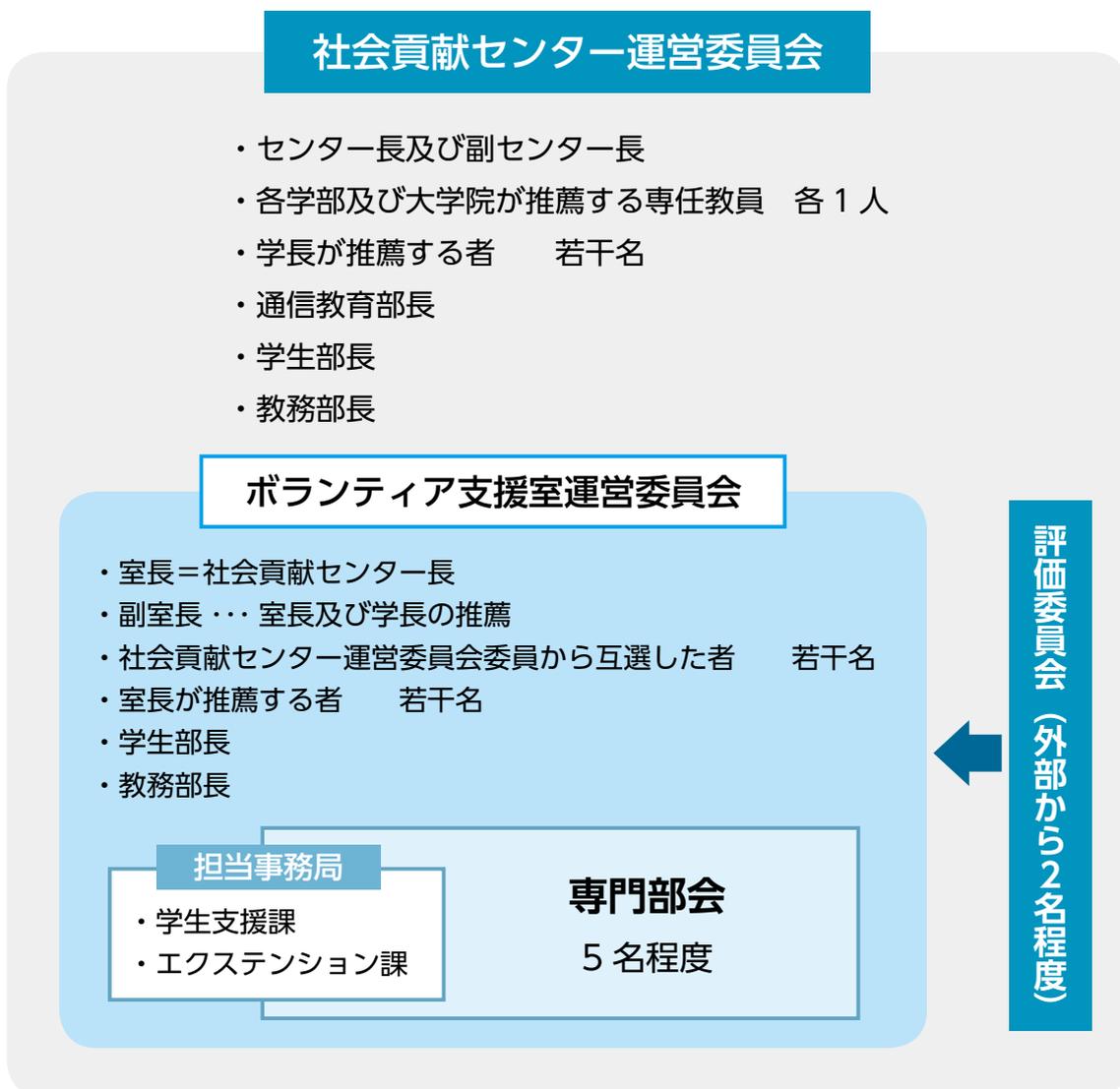
第 18 条 この要項の実施について必要な事項は、運営委員会の意見を聴いて室長が定める。

(改正)

第 19 条 この要項の改正は、学長が室長の意見を聴いて行う。

附 則

この要項は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。



▶▶ ボランティア支援室運営委員会委員名簿

所 属	氏 名
室 長	森 田 明 美

東洋大学ボランティア支援室要項第5条による
(任期：平成29年4月1日～平成31年3月31日)

所 属	氏 名
法 学 部	今 井 雅 子
国 際 学 部	子 島 進
ラ イ フ デ ザ イ ン 学 部	是 枝 喜 代 治
総 合 情 報 学 部	小 瀬 博 之

東洋大学ボランティア支援室要項第9条2号による
(任期：平成29年4月1日～平成31年3月31日)

所 属	氏 名
室 長 推 薦 (社 会 学 部)	箕 曲 在 弘
室 長 推 薦 (文 学 部)	高 野 聡 子
室 長 推 薦 (法 学 部)	谷 釜 尋 徳

東洋大学ボランティア支援室要項第9条3号による
(任期：平成29年4月1日～平成31年3月31日)

所 属	氏 名
学 生 部 長	中 原 美 恵

東洋大学ボランティア支援室要項第9条4号による
(任期：平成29年4月1日～平成31年3月31日)

所 属	氏 名
教 務 部 長	高 橋 豊 美

東洋大学ボランティア支援室要項第9条5号による
(任期：平成29年4月1日～平成31年3月31日)

▶▶ 専門部会委員名簿

所 属	氏 名
室 長 推 薦 (社会学部)	箕 曲 在 弘
室 長 推 薦 (文学部)	高 野 聡 子
室 長 推 薦 (法学部)	谷 釜 尋 徳
総 合 情 報 学 部	小 瀬 博 之
ボランティアコーディネーター	林 大 介
ボランティアコーディネーター	日比野 勲

▶▶ 外部評価委員

首都大学東京 室田 信一 准教授

▶▶ 2018（平成30）年度 ボランティア支援室運営委員会活動記録

第1回：2018年4月17日（火）【書面会議】

報告事項

- ① 学生課外活動育成会費によるボランティア支援室活動について
- ② 公益財団法人スペシャルオリンピックス日本（SON）及び認定NPO法人スペシャルオリンピックス日本（SON）・東京とのユニファイドスクール パートナーシップ協定締結にともなう各種プログラム参加について

第2回：2018年5月12日（土）【書面会議】

報告事項

- ① 学生課外活動育成会費によるボランティア支援室活動について

第3回：2018年7月13日（金）【書面会議】

報告事項

- ① 大学間連携災害ボランティアネットワーク加盟について
- ② 公益財団法人スペシャルオリンピックス日本（SON）及び認定NPO法人スペシャルオリンピックス日本（SON）・東京とのユニファイドスクール パートナーシップ協定締結にともなう各種プログラム参加状況について
- ③ 平成30年7月集中豪雨被災地募金活動他について
- ④ 各種行事等報告

審議事項

- ① ボランティア支援室ガイダンス実施について
- ② 東洋大学教育・研究協力資金 用途指定型寄付について
- ③ 2019年度 予算要求について

第4回：2018年9月21日（金）【書面会議】

審議事項

- ① 予算要求について

▶▶ 2018(平成30)年度 ボランティア支援室専門部会活動記録

第1回：2018年4月24日(火) 14:45～16:15

審議事項

- ① 今年度の活動計画について
- ② 学生課外活動育成会費によるボランティア支援室企画について
- ③ その他

第2回：2018年5月29日(火) 14:45～16:15

審議事項

- ① ボランティア支援室活動報告と今後の計画
- ② オリンピック・パラリンピックボランティア募集に向けて
- ③ スペシャルオリンピックスとのユニファイドスクール・パートナーシップ協定後の活動計画
- ④ 他キャンパスにおけるボランティアの展開
- ⑤ その他

第3回：2018年6月19日(火) 14:45～16:15

審議事項

- ① 今後の活動計画について
- ② 12月実施のボランティア支援室イベントについて
- ③ ボランティア活動報告会について
- ④ その他

第4回：2018年7月24日(火) 14:45～16:15

審議事項

- ① ボランティア支援室利用状況報告
- ② 災害時におけるボランティア支援室対応について
- ③ 平成30年7月集中豪雨 被災地対応について
- ④ ボランティア支援室活動報告について
- ⑤ その他

第5回：2018年9月18日(火) 14:45～16:15

審議事項

- ① ボランティア支援室利用状況報告
- ② 飯能市ボランティア活動報告／東洋大学の卒業生が現役生に伝える、被災地の現状とこれから活動報告
- ③ 平成30年7月集中豪雨 被災地対応結果について
- ④ 平成31年度予算について
- ⑤ 人権週間におけるボランティア支援室イベントについて
- ⑥ その他

第6回：2018年10月16日（火）14：00～15：30

審議事項

- ① ボランティア支援室利用状況報告
- ② 東洋大学学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクトに対する助成及び社会貢献活動に対する表彰について
- ③ 「被災地支援 ふるさとボランティア活動助成事業」について
- ④ 東洋大学人権週間 企画について
- ⑤ その他

第7回：2018年11月21日（水）10：40～12：10

審議事項

- ① ボランティア支援室利用状況報告
- ② 2019年度 ボランティア支援室体制について
- ③ 東洋大学ボランティアWEEK～人権とボランティアについて考えよう～実施について
- ④ 東洋大学学生団体による社会貢献活動等奨励プロジェクトに対する助成支援について
- ⑤ 2019年度 ボランティア支援室事業計画について
- ⑥ その他

第8回：2019年1月30日（水）14：00～15：30

報告事項

- ① ボランティア支援室 利用状況（12月、1月）
- ② ボランティアWEEK～人権とボランティアについて考えよう～ 各種実施報告
- ③ その他イベント実施報告
 - ・宿泊サバイバル体験（12/1・2）
 - ・バリアフリー地図アプリを活用したまちあるき（12/22）
 - ・SO日本×東洋大学協定イベント（11/18）
- ④ 2018年度 ボランティア支援室事業活動報告

審議事項

- ① 2019年度 ボランティア支援室事業について
- ② 東京2020大会に向けてのボランティア支援室の取り組みについて
- ③ ボランティア支援室ガイダンス実施について
- ④ ボランティア支援室におけるプログラムの学生参画のあり方について
- ⑤ スペシャルオリンピックス日本 今後の計画について
- ⑥ その他

▶▶ ボランティア支援室外部評価

日 時	2019 (平成 31) 年 3 月 5 日 (火) 10 時 30 分～ 12 時 00 分
場 所	ボランティア支援室内学習室 (東洋大学白山キャンパス雨水会館 1 階)
外部評価者	首都大学東京准教授 室田 信一

議事内容

2017 年度に開設し 2 年目をむかえたボランティア支援室の活動を客観的に評価していただくため、上記日程で外部評価を実施しました。

ボランティア支援室長およびボランティア・コーディネーターから 1 年間の取り組みの報告や質疑応答を行った後、外部評価者より以下の評価をいただきました。

- (1) あいさつ、趣旨説明：森田明美 (ボランティア支援室長)
- (2) 2018 年度活動報告：林大介 (ボランティアコーディネーター)
- (3) 外部評価：室田信一 (首都大学東京 准教授)
- (4) 質疑応答、意見交換

【2018 年度活動報告】

東洋大学ボランティア支援室は 2017 年 4 月 1 日に開室し、当該年度は 2 年目の活動となりました。2 年目となった 2018 年度は、ボランティア・コーディネーターを 2 名配置 (日替り) し、初年度の活動を踏まえて、以下の活動を行いました。

●主な取り組み

1. ボランティア情報の全学生への発信

- 全学生がアクセスできる学内向け情報システム ToyoNet-ACE を活用することで、全キャンパスの学生に情報を届けることができる。
- 東京オリンピック・パラリンピック 2020 大会における公式ボランティア募集に向けて、スポーツボランティアに関する情報や、多くの学生の参加が求められるボランティア情報などは、個別に全学生宛にメール配信を行った。

2. ボランティア・コーディネーターによる相談活動

- 適宜、学生からのボランティア活動の相談を受けている。

3. ボランティア活動促進のための講座、イベントの実施

- 東京オリンピック・パラリンピック 2020 大会におけるボランティア促進のために、スポーツボランティア研修会の実施、初歩から学ぶ障害者スポーツ研修、オリパラボランティア説明会等を実施した。
- 「ボランティア WEEK」として、人権週間を含む 15 日間の間に、人権尊重やボランティアに関する「講義・シンポジウム」「映画会」「学生企画」「展示」などを企画した。

4. 授業等におけるボランティアガイダンス・支援室見学ツアーの実施 (コーディネーターの派遣)

- 学内教員に呼びかけ、ボランティア活動の意義についての講義・ワークショップ (ガイダンスとボランティア支援室見学を合わせたツアーを) 実施した。

5. 交流会の実施

白山キャンパスにおいて、ボランティアカフェ（ボラカフェ）を8回実施した。また、白山・朝霞キャンパスにおいては、ボランティアサークル合同説明会を実施し、サークル間交流の機会を設けた。

6. 活動支援

ボランティア情報を閲覧できるオープンスペースは、開室時間内であればいつでも利用可能としている。また、ミーティングスペースも学生ボランティア団体に貸し出し、会議や練習などに利用された。

7. 災害対応

平成30年7月豪雨による被災地への募金活動については、学生ボランティアコーディネートをを行った。

また、災害ボランティア活動に参加を希望する学生に対し、事前研修を実施。更に、帰省先が被災した学生のボランティア活動参加を促進するため「ふるさとボランティア助成金」制度を創設した。

8. 他機関・地域・他大学等との連携

公益財団法人スペシャルオリンピックス日本（SON）、認定NPO法人スペシャルオリンピックス日本・東京（SON・東京）と協定を結び、学生へのボランティア呼びかけ、SONが行う事業への協力（イベントの共催、運動施設や会議室の貸出等）を行った。

また、白山キャンパスのある文京区においては、文京区社会福祉協議会と適宜情報交換を行い、文京区学生ボランティア支援連絡会や、文京区内の大学による学生ボランティア団体のネットワークとして機能する「文京区学生ソーシャルアクション連絡会」にコーディネーターが参加した。

赤羽台キャンパスのある北区においては、NPO法人寺子屋子ども食堂の学生ボランティア活動について、コーディネーターが学生ボランティアの組織化支援を行っている。

さらに他大学との連携については、東北学院大学が幹事校を務める「大学間連携災害ボランティアネットワーク」に加盟。同ネットワークが主催する大学間連携夏期集中ボランティア活動に本学学生が参加した。

9. その他

【新たな制度等】

- ① ふるさとボランティア助成金：帰省先が被災した学生のボランティア活動参加を促進するための「ふるさとボランティア助成金」制度を創設した。
- ② 東洋大学学生団体による社会貢献活動等助成及び社会貢献活動に対する表彰：学生部で実施していた社会貢献表彰を改訂し、学生が自ら企画、実施するものに対して応援し育てていく助成制度に変更した。
- ③ 学生課外活動育成会企画：学生課外活動育成会企画（地域貢献活動）として学生が企画する防災、被災地スタディーツアー等、複数のプログラムをボランティア支援室がサポートする形で実施した。

各イベントの実施においては、ボランティア支援室だけではなく、学生部、ピアサポートルーム等、関係する部署との連携・協働に力を入れた。

【今後の課題】

- ・白山キャンパスが活動支援の拠点となり、他キャンパスでのボランティア活動の支援の温度差が出来ている。
- ・キャンパスが複数あるため教員をいかに巻き込んでいくか
- ・各種ボランティア企画と学生ニーズのマッチングが難しい。

【外部評価】

(1) ボランティア支援室の方針及び計画の策定

前年度の評価でも述べたが、複数の学部教員が参画する専門部会と運営委員会を開催することで、学内における公的な位置付けを得ることができており、センターを運営する上で多くの学部の協力を得られやすい

環境整備に貢献していると思われる。

計画策定の過程、もしくは評価の過程に実際にボランティア活動に取り組む学生の代表を含めることを検討してはどうか。委員や評価メンバーとして直接参画することが難しい場合は、学生へのヒアリングやアンケートなどによって学生の声を把握するか、学生の運営委員のような体制を作ることによって学生の声をセンターの運営に反映することもできるのではないだろうか。

→ボランティア活動の主役は学生なので、学生の声を聞く必要があるとのことであった。

(2) ボランティア活動の開拓及び実施

初年度も充実したプログラムを提供していたが、今年度もさらに充実したプログラムを提供していることが確認できる。

ボランティアセンターが提供するプログラムには、無関心層に対する多様な入り口を提供するもの、関心のある層のニーズを満たすもの、経験を積んだ層のリーダーシップを高めるもの、といった段階的な整理が可能であるが、当該年度の東洋大学ボランティア支援室のプログラムは、無関心層および関心層へのプログラムがさらに充実したように思われる。今後は、経験を積んだ層へのプログラムの一層の充実を期待する。

また、既存のプログラムの運営に企画の段階から学生が関わるということが、学生のリーダーシップを高める仕組みとなると考える。

(3) ボランティア活動に関する情報の収集、管理及び提供

東洋大学の既存インフラ（ToyoNet-ACE）や授業内での呼びかけなど、周知の方法が定着してきたように思われる。どのような周知方法でどれくらいの参加者を見込めるか、データとして整理することで、今後、周知を行う際の参考資料になると思われる。SNSなどは広く周知するには有効ではあるものの、参加者を確保するという意味では、WOM（ワード・オブ・マウス：口コミ）や立て看板などの非デジタルなアプローチが効果を発揮することは多い。

ボランティア支援室を使ったイベントなど、支援室の存在を周知することで、支援室に立ち寄ると何かが起こっているという印象を学生の中に持ってもらうような戦略もあると良いのではないだろうか。

また、マスメディアや広報誌（区報など）を通したPRも効果的だと思われるので、年に1回はマスメディアに取り上げられるようなイベントの計画を立てるなどの方法も検討して良い。

(4) ボランティアに係る相談、助言及び支援策

学生がどのようにボランティア・コーディネーターの存在を知なのか、どのような支援、助言を必要としているかはこちら側の目線では分かりづらいので、学生の声を参考にすることが大事。

(5) 学外ボランティア関係機関等からの紹介及び連絡調整

フミコムを使った東洋大学主催のイベントを開催するなどの協働が、今後増えると良い。

また、東京ボランティア市民活動センターのフォーラムへの学生の参加や、場合によっては学生のリーダーが実行委員会に参加するなどの関わりができることは理想的である。

(6) その他ボランティア支援室の目的達成に必要な業務

- ボランティアウィークの取組は無関心層の取込みに有効であると思われる。
- ミーティングスペースとしてボランティア支援室を使用するアイデアは良いと思う。

本日の外部評価を手掛かりにしながら、次年度の活動へつなげていきたいとの森田ボランティア室長からの言葉で締めくくりました。

以上

平成 30 (2018) 年度版

東洋大学 ボランティア支援室年報

発行 令和元 (2019) 年9月30日

東洋大学 ボランティア支援室

〒113-0021 東京都文京区本駒込1-10-2 雨水会館1階

TEL : 03-3945-7927 FAX : 03-3945-7601

